

静岡県立美術館

第三者評価委員会評価報告書

令和4年12月

静岡県立美術館第三者評価委員会

目次

はじめに	1
------------	---

【報告編】

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について	2
2 令和3年度 静岡県立美術館第三者評価委員会評価総括表	5
2-1 基本方針別自己評価	6

【資料編】

1 展覧会に関する自己点検評価表（令和3年度）	13
2 調査・研究に関する自己点検評価報告書（令和3年度）	16
3 定性評価の状況（令和3年度）	27
4 第三者評価委員会での意見と対応状況	42
5 設置者の取組状況	48

別添資料 静岡県立美術館評価業務報告書（令和4年3月）

静岡県立美術館5カ年計画

はじめに

本委員会は、評価を通じて静岡県立美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進することを目的として、平成18年9月に発足しました。

本委員会の使命は三つあります。第一は、県立美術館が自ら行う自己評価（一次評価）に対して、外部の視点から二次評価することです。第二には、美術館に対する県庁（本庁）の支援体制を委員会が独自の視点に立って評価することです。第三は、美術館の運営及び評価の方法について、次年度の改善に向けた提言をすることです。

本年度の活動としては、令和4年8月に第三者評価委員会を開催し、令和3年度の美術館自己評価に対する二次評価、設置者の取組に対する意見、今後の改善課題について討議しました。この報告書はその結果に基づき作成したものです。

本報告書が県庁と県立美術館のますますの発展と充実に資することを願います。

令和4年12月

静岡県立美術館第三者評価委員会

委員長 松本 透

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について

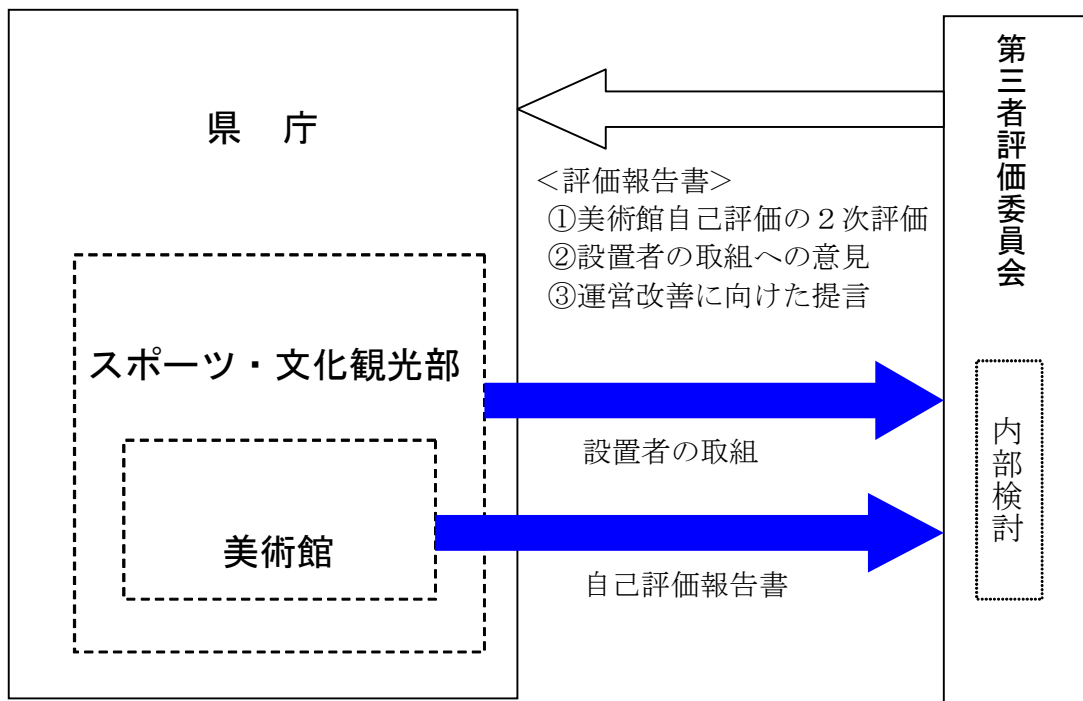
静岡県立美術館第三者評価委員会委員名簿（敬称略、五十音順）

	候補者	役 職
委員長	まつもと とおる 松本 透	長野県立美術館 館長
委員	いなにわ さわこ 稲庭 佐和子	独立行政法人国立美術館本部 主任研究員
〃	おぎわら やすこ 荻原 康子	公益財団法人墨田区文化振興財団 専門員
〃	かいづか つよし 貝塚 健	アーティゾン美術館 学芸員
〃	こいずみ まさや 小泉 順也	一橋大学 言語社会研究科 教授
〃	さくらい とおる 櫻井 透	静岡銀行株式会社 元会長
〃	たなか ひらき 田中 啓	静岡文化芸術大学文化政策学部 教授
〃	なかむら みほ 中村 美帆	青山学院大学 総合文化政策学部 総合文化政策学科 准教授
〃	まえだ しのぶ 前田 忍	サンクスループ株式会社 代表取締役

令和4年度の活動

会議名等	内容等
第1回第三者評価委員会	日時：令和4年8月5日（金）14:00～16:00 会場：静岡県立美術館 講座室 内容：（1）美術館自己評価結果について （2）設置者の取組みについて

評価システム全体図（第三者評価委員会の位置付け）



静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

2 委員の人数は、10名以内とする。

3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

2 委員長は、知事が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。

4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。

2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 令和2年9月30日)

【使命】＝基本理念(美術館のめざす姿) 静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的をめざします。その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

基本方針	計画(P)			実施状況(D)		自己評価	評価(C)
	重点目標	評価指標	目標	実績	第三者評価		
A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	1 収集方針に従い持続的に作品を収集します	1 作品購入件数・価格(件・千円)	10,000 千円	5 件 9,470 千円	【成果】 ・収集方針に即した日本画、西洋絵画、現代美術の優品を収集することができた。購入予算の見直しは厳しいが、美術館および担当学芸員の日頃の真摯な活動が、所蔵者の信頼を得、作品の寄贈を賜った。 ・年度後半が休館となる中、移動美術展などを通して収蔵品の公開機会を確保した。 ・収蔵品展のみの観覧者数はふるわなかったが、収蔵品による企画展「ストーリー」を通して、多くの方にコレクションをご覧いただくことができた。作品の収集や調査研究の歴史をひもとく同展を通して、コレクションの価値の発見と発信という点で大きな成果を挙げた。 ・コレクションの保存・修復には計画的に取り組んでいる。平成30年度に寄贈いただいた「頼川因巻」の3か年にわたる計画的な修理を無事終え、令和4年度のシンポジウム開催に結び付けることができた。調査研究に基づく作品収集と適切な修理が、貴重な文化財の後世への継承につながった好例である。 ・「収集＝コレクションの持続性」を筆頭に8方針から成る5か年計画を策定した。	【成果】 ・「ストーリー」展のコンセプトを個人的に高く評価したい。「ストーリー2、3、4…」と続けてやっていけると思っている。遠い地域にあった作品が日本の美術館にあるだけでも面白い。収蔵品にまつわるエピソードを文字化することで、それが歴史化されていく。その1個1個のエピソードは本当に他愛もないことであるが、県立美術館が30年、40年、50年と続く中で、本来だったら遠くにあった作品が、なぜ今県にあるのか。という愛意から、面白い展開ができるのではないかと期待している。(小泉委員) ・浜松市美術館で移動美術館をやったのは本当にいいことだと思う。(貝塚委員) ・静岡県は県央と東西と県東の間に、距離の面で気持の面で壁のようなものがある。移動美術展をきっかけに、そこにプラスして様々なプログラムを実施して、県の東部と西部でつながりを作っていくという活動を積極的に展開すると県立美術館としての存在価値が、県央地域以外でも広がるのではないかと。(中村委員) ・来館者数が少ないということは、館としての活動レベルが少し落ちたということもあり得ると思う。そのような状況下で活動レベルを保つ体力をどう付けたらいいのか、という問題意識がこの来館者数の数字を見ればよい。(田中委員) ・「研究に関する外部評価」について、「ストーリー」展や「忘れられた江戸絵画史の本流」展は相当面白い企画展だったのだろうと思う。来館者数など数字のこともあるが、やはりこういった定性的な評価をきちんとすることが、まずこの評価において非常に重要だということを感じたい。そのような企画展の良さをどのように広めていくかが重要である。例えば、Webなどで「ストーリー」展の見所について学芸員によるトークを載せるといった、後からでも楽しめる仕掛けが作られるといい。(萩原委員) ・移動美術館に関して浜松市美術館と、静岡文化芸術大学で連携ができたという自己評価について、大変嬉しく思う。こういった活動で積極的に県内各地へ出ていった結果、こういう評価が出てくるということは非常に喜ばしいことである。(櫻井委員)	
		2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	— 千円	9 件 73,900 千円			
	2 コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	3 収蔵品の公開件数(件)	200 件	231 件			
		4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	6,000 人	2,619 人			
		5 ロダン館の観覧者数(人)	30,000 人	25,261 人			
		新6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	10 回	7 回			
		7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	10 件	12 件			
		新8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	3,770 千円	32 件 3,699 千円			
		9 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	別添			
B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10 展覧会の来館者数(人)	101,000 人	53,247 人			
		11 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	3 回	3 回			
		12 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	90.0 %	91.8 %			
	2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	13 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添			
		14 調査研究の発表回数(回)	12 回	17 回			
		15 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12 回	11 回			
		16 他の美術館や大学と連携した取組件数(回)	3 回	3 回			
17 調査研究に関する外部評価【定性】	—	別添					
C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18 学校教育と連携した取り組み数(件)うち特別支援学校と連携した取り組み数(件)	40 件	44 件 10 件			
		19 鑑賞系プログラム数(件)	15 件	12 件			
		新20 webを活用したプログラム数(件)	2 件	0 件			
	2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	21 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添			
		22 講演会等の開催件数(回)	33 回	28 回			
		23 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	30 回	24 回			
	3 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	24 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	500 人	1 件 383 人			
		25 地域住民等と連携した取組数(件)	2 件	4 件			
		26 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添			
D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	80.0 %	80.1 %			
		新28 デジタルアーカイブによる情報発信 作品作家情報の公開件数(件) 現代美術関連資料の公開件数(件) 図書情報の公開件数(件)	2,934 件 6,304 件 45,500 件	2,934 件 6,304 件 22,651 件			
		29 ホームページへのアクセス件数(件)	1,000,000 件	938,877 件			
	2 観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	新30 facebook、Instagram、Twitterのビュー数(件)	1,000,000 件	989,677 件			
		新31 facebook、Instagram、Twitterのエンゲージメント等の件数(件)	20,000 件	29,470 件			
		32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	7 件	6 件			
	33 教育機関への情報発信数(件)	4 件	6 件				
	34 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	—	別添				
	E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます	1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	35 美術館利用者数(人)	132,700 人	77,741 人		
36 鑑賞環境に対する満足度(%)			85.0 %	90.3 %			
37 レストランに対する満足度(%)			90.0 %	92.4 %			
38 ミュージアムショップに対する満足度(%)			90.0 %	97.1 %			
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます		39 来館者のアクセス満足度 上段：公共交通機関利用 下段：自家用車利用	70.0 % 70.0 %	67.8 % 55.7 %			
		3 運営基盤を強化します	新40 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	—	別添		

設置者の取組
 ・デジタル化の推進として国費等の予算を確保し、デジタルアーカイブ、事前予約サービス、キャッシュレス決済を整備した。
 ・教育機関との連携として、県立美術館を含む文化施設の情報を集約して、私立学校も含めた各学校に提供していく。
 ・中期維持計画に基づいた改修・更新、吊り天井の修繕を実施している。
 第三者評価委員意見
 ・E-3について、県立美術館の目指す姿が「基本理念」として明文化され、「多様性」というキーワードが入ったことで、狭い意味での「文化振興」以外の外部資金を申請しやすくなったのではないかと。多文化共生「障害者への対応」「地域活性化」など、狭い意味での美術館行政・文化行政に限らない外部資金を取りに行く理由づけに使えるキーワードが基本理念に多数含まれている。設置者である県は、そういった視点から美術館が申請できる外部資金を探索べくアンテナを張って、美術館に情報提供してほしい。例えば地域関係のプログラムの予算を確保できれば、節約できた資金をコレクション購入に充てられるかもしれない。(中村委員)

総括表
 ・自己評価というのは、第一は美術館でその評価を役に立ててほしい、評価を変えてほしいと思っていたが、今回の評価の見直しはそれに沿って行われている。40周年を目指した5か年計画も作ったのも、一番期待されるアクションであり、その結果は高く評価したい。基本理念が大変に具体的に適したものであり、学芸員・職員の方も含めて、この館はこういうところに向かっているというのが明確に分かる内容になっている。今回の5か年計画が終わったら、いろいろな総括をした上で、また次の改訂版が必要だと判断されたら作りたい。(田中委員)
 ・館長のリーダーシップで5か年計画を立てたことは非常に評価したい。美術館の経営も組織の経営、組織を動かすという意味で経営計画は経営者の理念を表すものとして非常に大事である。それを経営者が掲げて、組織としてどう向かっていくかという戦略を示して、構成する各個人がその目標に向かってどのようなことを具体的にやるかというのをいかに管理するかが経営である。その結果としていろいろな見直しが出てきているのではないかと。経営計画を示すということは、まず組織にとって現状分析をしなければいけない。現状分析をして、今美術館にとって何が問題なのかというところをはっきりさせて、その問題に対してどうしようというふうに対処する必要がある。それが、誰がいつまでに何をどうするかというアクションプランである。館長がかかわられた5か年計画に向かって、実際に二十数名の人間で構成されている組織であるが、バックアップする県も、あるいは支えているボランティアも全部仲間に入ってもらう、日々の活動の中でアクションプランを徹底的にやってほしい。半年ごと1年ごとの振り返り反省して、また次に向かっている。せっかく作られた5か年計画をとことん問い詰めてほしい。(櫻井委員)

基本方針	A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
------	----------------------------

計画(P)			実施状況(D) R4.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 収集方針に従い 持続的に作品を収 集します	1 作品購入件数・価格(件・千円)	10,000 千円	5 件 9,470 千円		【成果】 ・購入作品は、日本画2件、西洋絵画2件、現代美術1件の計5件である。 日本画：当館の狩野派コレクションは全国有数の規模と質を備え、美術館活動の主要な柱となっている。購入作品2点は江戸時代前期・後期の狩野派の新作であり、当館の狩野派コレクションにさらに厚みを加えることができた。とりわけ狩野探幽については新たな作品の発見が稀な作家であり、その優品を適切な価格で購入できたことは大きな成果といえる。 西洋絵画：風景をテーマとする版画2点を購入。美術館の収集方針「風景表現」に合致し、コレクションの幅を広げるものであるとともに、いずれも既収蔵作品と関連の深い作品であり、今後の展覧会における活用が見込まれる。 現代美術：1960年代後半から70年代初頭にかけて活動した静岡の現代美術グループで、近年再評価が著しい「グループ幻触」にまつわる作品1件を購入、静岡ゆかり作家の発掘と作品の収集は県立美術館の重要な使命であり、この点で大いに貢献した。 ・購入予算の見通しが厳しい中、3名の方から計9点の作品をご寄贈いただき、今年度も寄贈を通してコレクションの充実を進めることができた。いずれも現代美術であり、美術館および担当学芸員の日頃の真摯な活動が、所蔵者の信頼を得、ご寄贈に結びついたものとする。
	2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	— 件 千円	9 件 73,900 千円		
2 コレクションの新た な価値を発見し広 く発信するととも に、適切に後世に 伝えていきます	3 収蔵品の公開件数(件)	200 件	231 件	指標3＝収蔵品展(57)・企画展(67)・移動展(65)＋貸出(42)	【成果】 ・年度後半が休館となる中、移動美術展特別版などを通して収蔵品の公開機会を確保に努めた。 ・収蔵品展のみの観覧者数はふるわなかったが、コレクションを核とした企画展「ストーリーズ」によって多くの方にコレクションをご覧いただくことができた。また、作品の収集や調査研究の歴史をひもとく同展は、コレクションの価値の発見と発信という点において、大きな成果を挙げた。 ・コレクションの保存・修復について、計画的に取り組んだ。特に、平成30年度に寄贈いただいた「朝川図巻」の3か年にわたる計画的な修理を無事終え、令和4年度の収蔵品展およびシンポジウム開催に結び付けることができた。調査研究に基づく収集活動と適切な修理が、貴重な文化財の後世への継承につながった好例である。 【課題】 ・コレクションにまつわる展示、保存、教育普及、調査研究といった諸活動は県立美術館の基盤を成すものである。重点目標2の充実を図り、継続的、効果的にコレクションの魅力を発信していくことで、作品収集への理解につなげていく。
	4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	6,000 人	2,619 人	指標7の内訳は別紙	
	5 ロダン館の観覧者数(人)	30,000 人	25,261 人		
	新6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	10 回	7 回		
	7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	10 件	12 件		
	新8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	3,770 千円	32 件 3,699 千円		
9 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	別添			

基本方針	B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
------	--

計画(P)			実施状況(D) R4.3.31現在			評価(C)	
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価		
1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10 展覧会の来館者数(人)	101,000 人	53,247 人		◆は、自主企画・企画参加型展覧会	<p>【成果】</p> <p>・「ストーリーズ」</p> <p>研究活動評価委員からの指摘にあるように、学芸員の「手の内を晒す」ような展覧会であったため、作品のどの側面に切り込み、どこまで踏み込むべきかの匙加減が難しく、試行錯誤をした展覧会であった。作品の収集、保存、公開を通して学芸員が得た経験や知識を記録に残し、次世代に伝え残すことの大切さを改めて考えさせられる機会になった。新たな視点による収蔵品展であったことから、アンケート結果からは、何度も当美術館に訪れているリピーターの方から、内容面への新鮮な驚きや、関心の高まりを感じたという意見をいただいた。収蔵品を活用した展覧会であることから比較的低予算で開催することができたこと、また近年の収蔵品企画展では予算上の問題から図録作成が難しい中、展示の成果を図録として残すことができたことも良かった。</p> <p>・「忘れられた江戸絵画史の本流」</p> <p>個人コレクター所蔵の江戸狩野派作品の中から初公開の作品を選び、奥絵師4家、表絵師12家の主要画家の作品を時系列、家別に紹介したことで、江戸時代の絵画様式の根幹を成した江戸狩野派の全貌の一端を明らかにできた。</p> <p>・「江戸狩野派の古典学習」</p> <p>従来、等閑視されてきた江戸狩野派の模本、直模作品、倣古図について紹介する展覧会で、江戸狩野派のすぐれた作品は、実は模本や倣古図に数多く存在することや、彼らの古典学習の実態について、作品を通じて具体的に明らかにした。</p> <p>・「古代エジプト展」</p> <p>ベルリンのエジプト博物館所蔵の作品群により、古代エジプトの美術を、その宗教観々を紹介することが出来た。中でも、アマルナ期の作品はエジプト美術史の中でも特殊な写実性を備えたものであり、貴重な鑑賞機会となった。</p> <p>・「移動美術展 超名品展 風景と人間」</p> <p>工事休館の機会を利用し、浜松市美術館の協力のもと、通常より大規模な移動美術展を実施した。木下館長が監修となることで、これまでの移動展とは異なる性格を持たせ、風景と人間をテーマとした「超」名品展という特色を出すことができた。メディア2社を加えた実行委員会形式で実施し、広報を展開した。支出を抑え、収支は良好であった。グッズや過去展図録の売れ行きは好調で、完売するものもあった。</p> <p>【課題】</p> <p>・「ストーリーズ」</p> <p>観覧者数は、ゴールデンウィークを挟んだ、春の行楽シーズンに開催したことや、伊藤若冲や石田徹也など、当館を代表する人気作家の作品を出品していたことから、目標人数を超える入場者数を期待したが、結果的にはコロナの感染者増加に伴い首都圏や関西圏は緊急事態宣言下になり、アンケートの結果からもわかるように、県外からの来館者が1.4%と、予想をはるかに下回る結果となった。当館のコレクションの魅力が、異なる地域の多様な立場の観覧者にも伝えられる良い機会であったため、残念な結果であった。今後は、収蔵品について掘り下げ、その魅力を発信した本展の経験をともに、より発展、充実させた内容の収蔵品企画の立案を行いたい。</p> <p>・「忘れられた江戸絵画史の本流」</p> <p>FacebookなどのSNSや「ニコニコ美術館」での放送で反響があり、図録は完売間近となった。コロナ禍や遠方のため来館できない人からの購入希望も多かったが、図録や企画展グッズは当館ショップでの販売が中心であったため、支払い方法が現金書留であるなどハードルが高く、購入をあきらめたという声や不満の声が多くあった。EC決済など販売方法の多様化の必要性を感じた。</p> <p>・「江戸狩野派の古典学習」</p> <p>企画展「忘れられた江戸絵画史の本流」展の開催を記念した特別展示という位置付けであったが、2本同時開催であったため、独自のテーマ立てによる内容であったものの本展については十分な広報が行き届かなかった。これまでにない枠組みで展覧会を開催する場合には、あらかじめ広報手法について慎重に検討する必要がある。</p> <p>・「古代エジプト展」</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止策を取りながらの実施であり、予約制の導入、観覧者の動線整理等、得るところは大きかったが、観覧者増を考えると、非常に難しかった。新型コロナが終息していない以上、観覧者の動員と防疫対策との両立を、引き続き考える必要がある。</p> <p>・「移動美術展 超名品展 風景と人間」</p> <p>主催に加わった中日新聞社とテレビ静岡の媒体で広報展開し、来館者数は例年に比べ好調であったが、目標には到達しなかった。コレクションに注目をしてもらう方法については、今後も検討課題である。</p>	
	◆ストーリーズ(39日間)	10,000 人	5,498 人				
	◆忘れられた江戸絵画史の本流(32日間)	10,000 人	5,661 人				
	古代エジプト展(50日間)	63,000 人	31,331 人				
	収蔵品展	6,000 人	2,619 人				
	移動美術展特別版 ◆静岡県立美術館超名品展 風景と人間(32日間)	12,000 人	8,138 人				
	11 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	3 回	3 回				
12 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	90.0 %	91.8 %					
13 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添					
2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	14 調査研究の発表回数(回)	12 回	17 回		<p>【成果】</p> <p>・当館のこれまでの活動に根差しつつ、それをさらに深化、発展させた3本の自主企画展を開催。「静岡県立美術館でなければ開催できなかった」との評価を得るなど(『忘れられた江戸絵画史の本流』)、日頃の調査研究に基づいた当館独自の特色ある企画展を発信することができた。</p> <p>・「ストーリーズ」展は収集活動の検証という展で有意義であった。</p> <p>・開館35周年記念として特別版の移動美術展を浜松で開催、県立美術館コレクションを大規模に、かつ幅広く紹介することができ、西部地区における当館および当館コレクションの魅力の発信に有益だった。</p> <p>・作品やテーマに興味を持った人の割合は、目標を上回り高水準を維持した。</p> <p>・「忘れられた江戸絵画史の本流」展及び「古代エジプト展」では、事前予約制を導入し、来館者の分散を図るなど、コロナ禍においても密を避け快適な鑑賞環境を確保し、無事開館を続けることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・展覧会の来館者数は目標を大きく下回った。コロナ禍による県外からの来館者の減少や事前予約制導入による観覧者数の頭打ちなど諸要因が考えられる。コロナ禍における展覧会開催の意義・目的を改めて確認した上で、観覧者数目標値の設定とその達成方法について、基本方針Dの取組みと連動させながら検討していくことが重要である。</p> <p>・移動美術展を機に浜松市美術館や静岡文化芸術大学と連携することができた。今後の継続的な連携・協力関係の構築が課題である。</p> <p>・充実した展覧会活動の基盤となる学芸員の調査研究体制の整備と維持について、引き続き、重要課題として取り組んでいく必要がある。</p>		
	15 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12 回	11 回				
	16 他の美術館や大学と連携した取り組み件数(回)	3 回	3 回				
	17 調査研究に関する外部評価【定性】	—	別添				

基本方針	C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
------	--------------------------------------

計画(P)			実施状況(D) R4.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18 学校教育と連携した取り組み数(件)のうち特別支援学校と連携した取り組み数(件)	40 件	44 件 10 件	・指標18、19の内訳は別紙	【成果】 ・コロナ禍により予定通り実施できないプログラムが多くあったが、感染状況が比較的落ち着いた時期のねんど教室については、感染防止策を取ったうえで5回実施することができた。(計画8回のうち) ・レプリカや粘土の貸出プログラムを休館中にも活用してもらうことができ、これまでの活動の蓄積を生かしてコロナ禍における学校での美術教育の充実に貢献することができた。 ・昨年度に引き続き東京在住の講師と美術館実技室とをオンラインで結び、昨年度よりカメラの増設を行うことで、よりスムーズな講座の運営を実施することができた。 ・休館中に特別支援学校との連携で出張ねんど教室を実施、コロナの感染状況に対応するためリモート版と対面版、両方のプログラムを作成して準備を進め、結果的に対面により現地で開催することができた。 【課題】 ・新しい生活様式に対応したプログラムをさらに検討するとともに、遠隔地の学校にも参加ができるよう、ウェブを利用した美術館教室等のプログラムを作成する方法を検討する必要がある。 ・昨年度から一部再開できたプログラムがあるとはいえ、学校・園と美術館の接点は例年よりも減少したため、コロナ禍であってもこれまで築いてきた連携を維持継続するための方法を検討する。
	19 鑑賞系プログラム数	15 件	12 件		
	新20 webを活用したプログラム数(件)	2 件	0 件		
	21 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添		
2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	22 講演会等の開催件数(回)	33 回	28 回	指標23=美術講座(9)+フロアレクチャー(2)+オリエンテーション(9)+出張美術講座(4)+展示関連普及事業(0) 指標22=上記+特別講演会・シンポジウム(4)+ボランティア等によるギャラリートour(0)+演奏会等(0)	【成果】 新型コロナウイルス感染症の状況は、年度当初より県の評価レベルで4以上で推移し、開館中は感染状況は悪かったと言える。しかし、県外から講師を招聘する講演会では講師のみオンラインに切り替えて対応するなどし、予定していた講義系の事業は実施できた。また、参加者数の予想を考慮しつつ、小型スピーカーを用いることで、フロアレクチャーを2回実施した。 【課題】 講義系のイベントについては、定員数の調整やオンライン対応などで、適宜対応できているが、フロアレクチャーやギャラリートourといった活動はなお大きく制限されている。また、館内空間を生かした催事では、比較的风险が高い事業である「ちょこっと体験」は、計画した2事業のうち1つが中止となった。なお、工事休館のためロダンウィークの実施がなく、演奏会等の実施もなかった。事業によっては、今後の実施の可能性を勘案し、内容の変更や、代替となる事業の考案などが求められる。
	23 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	30 回	24 回		
	24 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	3 件 500 人	1 件 383 人		
3 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	25 地域住民等と連携した取組数	2 件	4 件	指標25 ・ボランティア活動 ・館内レストランとの連携 ・「文化の丘フェスタ」クイズラリー ・県立大学と連携した「ムセイオン静岡」の講義	【成果】 ・コロナ禍による地域イベントの中止及び9月からの工事休館により地域に密着したイベントについては参加することが出来なかった。その中で、開館以来活動を続けてきたボランティア活動については、感染対策を講じてボランティアの安全を確保しながら、可能な範囲で活動を継続した。 ・「古代エジプト」展では、館内レストラン「ロダンテラス」で特別メニューとして「ピラミッドカレー」を提供した。 【課題】 ・アフターコロナを見据えて地域連携の在り方を引き続き検討していく必要がある。
	26 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添		

基本方針	D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます
------	---------------------------------

計画(P)			実施状況(D) R4.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価
1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合	80.0 %	80.1 %		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルアーカイブについては、基本的なシステムを完成させるとともに、いずれのデータベースも当初の目標通りのボリュームを登録・校正を経て、期限までに公開することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルアーカイブについては、作品作家情報の精度の向上、R3年度に予算の都合上登録できなかった図書情報の追加、現代美術関連資料のうち過去受入分の遡り入力などに今後取り組んでいく必要がある。 より多角的な情報発信のため、収蔵品等検索システムは当館だけで完結させるのではなく、他機関のシステムと横断検索を可能とするなど、外部との連携体制を模索する必要がある。 ホームページアクセス件数については、工事休館による展覧会・イベント情報への需要が縮小したため、前年度(1,460,987件)から大きく減少した。開館中と同等のアクセス数を目指すことは難しいが、休館中であっても、積極的な情報発信が求められる。
	新28 デジタルアーカイブによる情報発信 作品作家情報の公開件数(件) 現代美術関連資料の公開件数(件) 図書情報の公開件数(件)	2,934 件 6,304 件 45,500 件	2,934 件 6,304 件 22,651 件		
	29 ホームページのアクセス件数	1,000,000 件	938,877 件		
	新30 facebook、Instagram、Twitterのビュー数(件)	1,000,000 件	989,677 件	facebook ページリーチ数 60,862 インスタ ページリーチ数 6,971 Twitter インプレッション数 921,844	
	新31 facebook、Instagram、Twitterのエンゲージメント等の件数(件)	20,000 件	29,470 件	facebook エンゲージメント数 4,838 インスタ エンゲージメント数 3,623 Twitter エンゲージメント数 21,009	
2 観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数	7 件	6 件	<p>指標32</p> <ul style="list-style-type: none"> 県観光協会主催の教育旅行説明会に参加「ストーリーズ展」 静岡大学新生セミナーで紹介 地元の「高齢者学級たちばな教室」での講義 忘れられた江戸絵画史の本流展 静岡大学の講義内で紹介 ネット放送のニコニコ美術館で展覧会を生放送 <p>「エジプト展」</p> <ul style="list-style-type: none"> 館内レストランで展覧会と連携したメニューを提供 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍によりイベントの実施が困難となり、半年間の工事休館も重なり積極的な広報連携取組を行うことが難しかったが、大学生などへの展覧会紹介や、インターネット放送にも取り組んだ。 指標33については、新たな試みとして、小・中・高・大の各教育機関へ美術館の利用促進依頼の通知等を配布した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> アフターコロナを見据えて地域連携及び観光業界との連携を模索し、美術館の発信力を更に高める必要がある。
	新33 教育機関への情報発信数(件)	4 件	6 件	<p>指標33</p> <p>「ストーリーズ展」</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立大学事務局を通じた学生への広報 静岡大学新生セミナーで紹介 <p>「忘れられた江戸絵画史の本流展」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会事務局を通じた県内小中高校への広報 静岡大学の講義内で紹介 <p>「古代エジプト展」</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術館周辺大学の事務局を通じた学生への広報 <p>「移動美術展」</p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡文化芸術大学事務局を通じた学生への広報 	
	34 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	—	別添		

基本方針	E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。
------	--------------------------

計画(P)			実施状況(D) R4.3.31現在		評価(C)	
重点目標	評価指標	目標	実績	備考	自己評価	
1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	35 美術館利用者数	132,700 人	77,741 人	令和3年度は次の工事(小規模を除く)を行った。 ・本館エントランスホール天井改修工事 ・本館乗用荷物用エレベーター更新工事 ・本館展示室照明改修工事 ・本館展示室移動壁修繕工事 ・本館自動火災報知機設備・ハロゲン化物消火設備更新工事 ・本館屋根塗膜防水修繕・銅板屋根修繕工事 ・本館非常灯・誘導灯更新工事 ・本館受変電設備修繕工事 ・本館携帯品預り所内壁修繕工事 ・本館非常用発電設備修繕工事 ・ロダン館調光盤修繕工事 ・ロダン館非常用発電設備修繕工事 ・本館トイレ手洗い蛇口自動水栓改修工事	【成果】 ・新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言の影響などにより、「美術館利用者数」は目標を達成することができなかったが、時間制予約の導入により来館者の分散を図るなど、感染防止対策の徹底と鑑賞環境の改善に努めた。 ・令和3年度は半年間休館して大規模修繕工事を行った。平成25年度の建築基準法改正により、天井脱落対策の規制が強化されたことに伴い、エントランスホールの特定天井を、ワイヤーによる落下防止措置により安全な天井に改修した。同時に天井照明を更新し、より目に優しい照明環境を実現した。また、2階展示室の照明設備の更新、壁の塗替え、ピクチャーレールの更新を行い、作品を展示・鑑賞する環境を改善した。その他、館内の非常用照明及び誘導灯の更新並びに展示室、収蔵庫内のハロゲン化物消火設備及び感知器の更新、エレベーター更新、屋根防水工事等を行った。 ・レストランの満足度は、令和2年度の89.7%から92.4%に向上し、目標(90.0%)を上回った。また、「古代エジプト展」では特別メニューを提供した。 ・ミュージアムショップの満足度も令和2年度の91.8%から97.1%に向上し、目標(90.0%)を上回った。これは、企画展に合わせて商品のレイアウトを工夫していることや、エジプト展では、既存のショップスペース以外にも物販スペースを確保し、来館者の利便性を向上させたことが考えられる。 【課題】 ・開館から35年が経過し、施設の老朽化が進行している。引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに、令和2年度に策定した中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進めていく必要がある。 ・今後もコロナ禍での開館が続くが、感染防止対策を徹底した上で、安心して来館していただける環境を整備する必要がある。 ・レストラン、ミュージアムショップの運営は、業者に委託をしているが、美術館としても、来館者のニーズの把握に努め、引き続き高い満足度を維持していく必要がある。	
		展覧会観覧者数	101,000 人			53,247 人
		教育普及プログラム参加者数	6,400 人			3,661 人
		ミュージアムコンサート入場者数	— 人			— 人
		県民ギャラリー入場者数	8,000 人			9,452 人
		講堂入場者数	1,500 人			1,688 人
		レストラン利用者数	5,000 人			4,097 人
		ミュージアムショップ利用者数	10,000 人			5,138 人
		図書閲覧室利用者数	800 人			458 人
		36 鑑賞環境に対する満足度	85.0 %			90.3 %
	37 レストランに対する満足度	90.0 %	92.4 %			
	38 ミュージアムショップに対する満足度	90.0 %	97.1 %			
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	39 来館者のアクセス満足度 ※上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	70.0 % 70.0 %	67.8 % 55.7 %	【成果】 ・当館への利用交通機関で最も多い自家用車でのアクセス満足度は55.7%と目標の70.0%には達せず、昨年度の54.7%から1ポイントの増加にとどまった。来館者が多く見込まれた「古代エジプト展」では、駐車場待ちによる交通渋滞を招かないよう、交通誘導員の配置や隣接する県立大学の職員駐車場の借用などの対応を行った。 ・公共交通機関を利用する来館者の問い合わせには、「JR草薙駅から運行する100円バスを利用するのが便利であること」を周知しているが、運行が1時間に1本であることから、来館者が多く見込まれた「古代エジプト展」においては、バス運行会社と交渉し、運行本数を30分に1本に増やし、来館者の利便性を図った。 【課題】 ・自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの収容台数が約400台と限られていること、近くの駐車場から満車になるため、離れた駐車場になると美術館までの徒歩区間が長く、登り坂であることがアクセスに満足できない要因になっている。		
	3 運営基盤を強化します	新40 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	—		別添	【成果】 ・「古代エジプト」展は、当初予定になかった文化庁補助金の交付を受けるなど収入の確保に努めた。 ・令和4年3月から、静岡県経営者協会と企業連携について協議を開始した。 【課題】 ・県予算が厳しい中、観覧料収入の増加や外部資金の確保を図る必要がある。 ・企業との連携強化により、新たな来館者を獲得する必要がある。

評価指標7、18、19内訳 教育普及プログラムの実績

事業名	評価指標7	評価指標18			評価指標19
	コレクション活用プログラム	学校教育と連携した取組数	人数	うち特支と連携した取組数	鑑賞系プログラム
特別講演会			166		○
美術講座	○		445		○
フロアレクチャー	○		38		○
ギャラリーツアー	(中止)		0		(中止)
オリエンテーション ※人数は学校以外団体も含む		9	617		○
ちよこつと体験	○		383		
創作週間			171		
実技講座	○		8		○
えのぐ開放日			91		
ねんど開放日			0		
わくわくアトリエ	○		36		○
ロダン館デッサン会	○		182		○
ロダン館普及事業			0		
タッチツアー	(中止)		0		(中止)
展覧会関連普及事業(コンサート等)	(中止)		0		(中止)
出張美術講座	○	4	183		○
展覧会・収蔵品関連普及事業及び美術館活用事業、他館連携事業(フェス)	(中止)		0		
ねんど教室		5	91	1	
えのぐ教室		0	0		
音のかけら		0	0		
ロダン館デッサン実習	○	5	66		○
ロダン館鑑賞、ななふしぎクイズ	○	1	6		○
美術館の秘密を探れ	(中止)	0	0		(中止)
学校向けボランティアスタッフとの鑑賞	(中止)	0	0		(中止)
職場体験、インターンシップ ※延べ人数		0	0		
粘土貸出		7	534	1	
レプリカ貸出	○	6	517	4	○
アートカード貸出	○	4	117	2	○
ビデオ・DVD・セルフガイド貸出	○	3	271	2	
教員研修		0	0		
	12	44	3922	10	12

資料編

展覧会に関する自己点検評価表（令和 3 年度）

1 「ストーリーズ」展

2 「忘れられた江戸絵画史の本流展－江戸狩野派の 250 年」展

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	ストーリーズ展
------	---------

期 間	4月6日(火)～5月16日(日) (39日間)
-----	-------------------------

場 所	静岡県立美術館第1～6展示室
-----	----------------

担当者名	川谷承子、石上充代、泰井良
------	---------------

学芸員の企画への参加の有無	有・無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有・無
マスコミ等による共催の有無	有・無	巡回の有無	有・無

記入日	企画	2021年 4月 30日(金)
	実績	2021年 10月 8日(金)

企画		実績・検証	
目的・内容	<p>【内容】 開館35周年を迎える静岡県立美術館のコレクションを中心に、日本画、日本洋画、現代美術の多彩な作品を取り上げ、所蔵館の学芸員ならではの視点で、普段の展覧会ではなかなか踏み込んでご紹介することができないコレクションにまつわるストーリーを語る。出品点数は、借用作品も併せ約90点。</p> <p>【目的】 コロナ禍の中で、遠方に足を伸ばして展覧会鑑賞に出かけることができない状況にあって、これまで何度となく紹介してきた当館を代表する収蔵品を、いつもとは違う切り口で紹介する。展覧会を通じて、これまで美術館に蓄積されてきたコレクションに関する研究の一端を紹介する。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 ・大変興味深い。展覧会づくりの内幕がわかりやすく記されており、単なる展示された作品解説に終わっておらず、充実した内容になっている。よほど作品と作者を理解していないと言及できないところまで明快に提示しており、楽しく記された一章一章が「作品について学芸員が知っていること」で満たされており、感銘を受けた。(金原委員) ・今回取り上げられた作品のほかにも作品個々の物語があるはずなので、シリーズ化も可能と思う。まずは地元付近などから取り上げた点を高く評価する。こうした企画には学芸員の日ごろの調査研究の蓄積と企画力があらわれる。この度の展覧会ではその充実ぶりがよく示された。今後もこのような学芸力が維持されるよう期待する。(山梨委員) ・「鑑賞者への普及・啓発」という点ではすぶる斬新な試みである。その反面、学芸員が「手の内を晒す」という側面があるのでさじ加減の難しさを伴う展覧会であった。全体としては、学芸員の研究面での充実を感じさせるが、内容の程度にバラツキがあったことも指摘しておきたい。とはいえ、今回の試みは大いに肯定的に捉えている。このような挑戦的な試みは、学芸活動が充実している静岡県立美術館でこそ行い得る試みであるので、今後も挑戦してほしい。(潮江委員)</p>	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 開館以来、幾度となく紹介されてきた静岡県立美術館のコレクションを、今回は、いつもとは違う切り口で紹介する。印象に残る、作品にまつわるストーリーとともに展示することにより、美術館のコレクションの魅力が、鑑賞者の記憶の中に残ることを狙いとしました。</p> <p>【ターゲット】 コロナ禍のため県外からのお客様が来館しにくい状況であることから、主に静岡県中部、静岡県東部、静岡県西部。対象年齢は老若男女。</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 来館者の年齢は20～50歳代が76%を占める。特に20歳代が25%と多い。東京都や大阪府をはじめ、緊急事態宣言発令中の地域があったことから、県外の来館者が1.4%と、伸びなかった一方、静岡市からの来館者が51.4%と半分を占めた。来館のきっかけは、ポスター、美術館WEB、チラシ、知人の誘いの順に多かった。作品やテーマへの興味関心の深まりの割合は、「はい」「どちらか」といはい併せて98.6%と、高い割合をみせた。アンケートの自由回答欄には、出品していた作家の名前が具体的にあげられ、中でも伊藤若冲、石田徹也に言及するコメントが目立っていた。所蔵品を深く掘り下げて見せたことへの理解、共感、関心の高さがうかがえとともに、学芸員の視点、専門性についても評価するコメントが複数見られた。</p>	
指標(数値目標)	観覧者数見込 10,000 人	観覧者数 5490 人	
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> 歳出 9,466千円 歳入 5,623千円 特財率 78.1% 	<ul style="list-style-type: none"> 歳出 8,889千円 歳入 2,806 千円 特財率 31.6 % 	
広報戦略 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 関係者、近隣文化施設へのチラシの追加発送。 Facebookを通じた出品作品の紹介。 静岡大学「新入生セミナー」での展覧会紹介 「高齢者学級たちばな教室」での展覧会紹介 ラジオ番組を通しての展覧会紹介(FM-Hi、ラジオF) 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡大学「新入生セミナー」への出講(地域創造学環1年生50名) 有度生涯学習交流館における高齢者学級たちばな教室講義(参加者79名) 生涯学習センター・公民館に重点的にポスター・チラシ送付 市内大学への広報を強化 静岡新聞4回、中日新聞1回、読売新聞2回 記事掲載 	
自己評価 今後の課題	<p>・内容面については潮江委員の指摘にあるように、学芸員の「手の内を晒す」ような展覧会であったため、作品のどの側面に切り込み、どこまで踏み込むべきかの匙加減が大変難しく、試行錯誤した展覧会であった。作品の収集、保存、公開を通して学芸員が得た経験や知識を記録に残し、次世代に伝え残すことの大切さを改めて考えさせられる機会になった。新たな視点による収蔵品展であったことから、アンケート結果により、何度も当美術館に訪れているリピーターであっても、内容面への新鮮な驚きや、関心の高まりを感じたようだった。</p> <p>・観覧者数については苦戦した。ゴールデンウィークを挟んだ春の行楽シーズンに開催したことや、伊藤若冲や石田徹也など、当館を代表する人気作家の作品を出品していたことから、県外からの来館者を呼び込み、目標人数を超える入場者数を期待したが、いざ開幕すると、コロナの感染者増加にもない首都圏や関西圏は緊急事態宣言下であり、アンケートの結果からもわかるように、県外からの来館者が1.4%と、予想をはるかに下回る結果となった。当館のコレクションの魅力や、異なる地域の多様な立場の観覧者の目に触れ、展覧会への意見や反応を得たいところであったため、大変残念である。</p> <p>・収蔵品を活用した展覧会であることから比較的低予算で開催することができ、さらに収蔵品企画展としては久々に図録を制作することができた事はよかった。今後は、この展覧会の経験をもとに、より発展させた内容の収蔵品企画展を開催したいと考えている。</p>		

展覧会自己点検評価表

展覧会名	忘れられた江戸絵画史の本流展－江戸狩野派の250年
------	---------------------------

期 間	5月22日(土)～6月27日(日) (32日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	野田麻美
------	------

学芸員の企画への参加の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
マスコミ等による共催の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	巡回の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>

記入日	企画	2021年5月6日(木)
	実績	2021年9月10日(金)

	企画	実績・検証
目的・内容	<p>【内容】 個人コレクター所蔵の江戸狩野派作品のなかから初公開の作品を選び紹介し、江戸時代の絵画の根幹を成した江戸狩野派のスタイルの展開を明らかにする初の展覧会。本展では、奥絵師4家の主要画家の作品を時系列で紹介し、江戸狩野派主流のスタイルの変遷を紹介する。そのうえで、表絵師12家の作品も取り上げることで、江戸狩野派の画風に多様性をもたらした表絵師の知られざる一面に注目する。</p> <p>【目的】 ・当館は、開館以来、江戸時代の狩野派の作品を収集し、全国随一のコレクションを形成してきた。長年にわたる研究成果を活かし、全国で当館にしかできない江戸絵画の展覧会を開催する。 ・江戸狩野派は狩野探幽一人が著名で、近代日本画の草創期に活躍した狩野芳崖に至る江戸狩野派の流れを追うことは、江戸絵画史の展開を考えるうえで最も重要な問題のはずだが、その活動の全容は不明である。本展で江戸狩野派の全貌を明らかにすることで、江戸絵画史を再検討するきっかけとする。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 ・これだけの江戸狩野派コレクションを築いた日照軒軒主の覚悟に、そしてコレクションを整理し、展覧会を実現した学芸員、静岡県立美術館に敬意を表す。当館でなければ開催できなかったのではないかと。文字資料から活動が窺い知れる絵師たちの作品が提示されたことで、今後の江戸狩野派研究の出発点となるはずだ。江戸狩野派の歴史を考えるうえで重要な中橋家・木挽町・山下・下谷御徒士町家などの更なる究明、文字資料の今後の探索を期待したい。図録は二部構成で現時点での江戸狩野派の情報が良くまとめられている。寄託作品やデータベースなどの情報発信に期待したい(榊原委員)</p> <p>・展覧会の名称が面白く感心した。江戸時代の狩野派の展開を章立てにそって理解できるように工夫している。出品作品は充実しており、調査研究のたまものである。地味ながら県民は当時の作家の心ばえを知ったのではないかと。一方、浮世絵などの時代相を考えることも必要である。図録は充実しているが、江戸狩野派の巨大組織は、一般人にはいささか難しいだろう。国立館のように大きなパネルでわかりやすい解説を行っており、そうしたことも検討してほしい(金原委員)</p>
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 ・近年、江戸絵画は人気があるが、江戸狩野派については作品紹介が進んでいない。江戸狩野派の知られざる作品を100点以上集めることで、江戸絵画に関心のある人々の潜在的なニーズを開拓する。(出品作品112点のうち、4点以外はすべて初公開作品。) ・江戸狩野派は、将軍に仕える奥絵師を頂点に、それを支える表絵師、その下に、諸藩の大名に仕える地方のお抱絵師、市井で活躍する町狩野が居るが、奥絵師最上格の木挽町狩野家の画家以外の作品はほとんど紹介されていない。江戸狩野派80名の画家、奥絵師4家・表絵師12家の画家の作品を紹介することで、江戸狩野派の全貌を紹介する。</p> <p>【ターゲット】 ・県内を中心とした中高年層 ・芸術のほか江戸狩野派に関心の高い人々 ・県内外の江戸絵画ファン</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 ・コロナウイルスの感染拡大により、アンケートの母体が少なかった(以前担当した「美しき庭園画の世界」展(2017)、「幕末狩野派展」(2018)の約1/3) ・来館者の年齢層は、50代以上が55%と半分を超えたが、会場を毎日巡回したところでは、コロナウイルスの感染拡大のためか、従来の日本画の展覧会に比べて若年層が多く、高齢層が少なかったように感じた。アンケート数が少ないのは、実施日の日程の問題以上に、アンケートに時間を割いてくれるのは高齢者層が多いからではないかと。20～30代のアンケート協力の方法を考えることも課題と感じた。 ・来館理由が、当館や他の「ウェブサイトやSNSをみた」が40%超となり、庭園画、幕末狩野派展に比べて大きく伸びた。 ・新規来館者は、静岡市外が約85%(県外30%)となっており、市外の人が多かった。ウェブサイト等の広報活動の結果との関連が推定される。</p>
指標(数値目標)	観覧者数見込 10,000人	観覧者数 5,661人
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> 歳出 13,905千円 歳入 6,703千円 特財率 48.2% 	<ul style="list-style-type: none"> 歳出 11,603千円 歳入 4,013千円 特財率 34.6%
広報戦略 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> インターネットでのプレスリリース配信会社の利用 静岡駅構内でのサテライト展示 サテライト展示と同時に展覧会場内で開催する選挙イベントの進捗状況をSNSで随時更新し、展覧会の周知を行う 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを活用した幅広い周知(ARTPRなど)が功を奏し、ネット・新聞・TVなどに多数取り上げられた。 コロナウイルスの感染拡大でサテライト展示が県立中央図書館での開催となったが、隣接の県立館との連携事業ができた。 「ニコニコ美術館」放送では2万人を超す視聴があった。 選挙イベントは来館者の4割近くが参加し、盛況だった。
自己評価 今後の課題	<p>当館で開館以来収集の柱とし、定期的に開催してきた「狩野派の世界」展としては、寄託品のみで行う点でこれまでとは異なる試みを行った。これまでの「狩野派の世界」では、各画家の名品、優品を展示してきたが、今回は、研究者を含めてほぼ知られていない画家が大半という、「未知の狩野派」に焦点を当て、作品の質よりも、狩野派とはどのような組織であるか検証し、その展開を具体的に示すことで来館者の知的好奇心を刺激するという点に注力した。来館した研究者やSNSなどの反応を見る限り、この狙いは展覧会に関心を抱いた人には好意的に迎えられたと思われ、「狩野派」という存在そのものへの関心を高めるきっかけになったように思う。</p> <p>現在の江戸絵画の展覧会では、未だメディアが仕掛ける、名品や話題作を集めた大型展が首都圏を中心に数多く開催されるが、今後、若い層に江戸絵画ファンを広げていく際に、本展形式の「文脈解説型」の展覧会を自主企画で開いていくことも、一つの方向性を探る上で重要と感じた。その際、インターネットを活用した広報戦略がより重要な意味を持つため、その点を抜本的に見直し、現在の方法の課題を洗い出すことが必要になるだろう。最重要課題と考えるのは、図録をはじめ、展覧会グッズのEC決済可能な通販サイトの開設であろう。今回、図録販売を外部ECサイトで行ったが、その契約が展覧会最終週直前となり、契約直後に放送した「ニコニコ美術館」後、会期終了までにECサイトで図録が4回売り切れた。展覧会に来られない遠方のインフルエンサーなどが会期中図録を買った場合、ツイッター等で呟いてもらうことで広報効果がある。会期終了後は売れ行きが鈍るため、商機を逃すと特財率にもかかわる。展覧会開始直後からの通販開始が望ましい。</p>	

令和3年度
調査・研究に関する自己点検評価報告書

令和4年4月
静岡県立美術館

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和4年4月1日

職・氏名 学芸課長 石上充代

- 専門分野 近世・近代の日本画
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 近代日本画

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・研究ノート「木村武山《羽衣》における天女の図像について」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第143号、2021年10月1日)

小計1本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「ストーリーズ～作品について学芸員が知っていること」(4月6日～5月16日) 副担当
- ・同展 美術講座 1回
- ・企画展「忘れられた江戸絵画史の本流」(5月22日～6月27日) 副担当
- ・移動美術展「静岡県立美術館超名品展 風景と人間」(11月13日～12月19日) 副担当

小計4本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・ふじのくに芸術祭 企画委員会委員、美術部門美術展審査員
- ・ふじのくに子ども芸術大学実行委員会委員

小計2本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

- ・研究ノート「木村武山《羽衣》における天女の図像について」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』No.143、2021年10月1日)

小計(1)本

合計7本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和4年3月30日	
職・氏名	上席学芸員 南 美幸
●専門分野	美学・美術史
●所属学会	美術史学会、日仏美術学会
●主要研究テーマ	西洋美術史
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
・論文「マルキ・ド・サド『イタリア紀行』ナポリ篇について2—絵画館の翻訳と解題」(『静岡県立美術館紀要』第37号、2022年3月31日)	
	小計1本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業	
・企画展「古代エジプト展」(7月10日～9月5日) 副担当	
・移動美術展「静岡県立美術館超名品展 風景と人間」(11月13日～12月19日) 副担当	
	小計2本
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
・静岡文化芸術大学「美術史(西洋)Ⅱ 特別講義」講師	
	小計1本
4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】	
	小計()本
合計4本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和4年4月7日	
職・氏名	上席学芸員 新田建史
●専門分野	美学美術史
●所属学会	地中海学会、保存修復学会
●主要研究テーマ	西洋16～18世紀美術、東西美術交流史、東西版画史、文化財保存
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	小計0本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業 <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「古代エジプト展」(7月10日～9月5日) 主担当 ・同展 特別講演会「古代エジプト人の思想と宗教：信仰と世界観」講師：近藤二郎氏 7月10日 ・同展 関連ワークショップ「切り絵でデザイン〇〇神！」 7月25日 ・同展 館長美術講座「古代エジプトの肖像をめぐる話」 8月1日 ・同展 学芸員スライドトーク 8月7日、8月14日 	小計5本
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・「博物館の動画制作」静岡県博物館協会講習会、2月22日 ・「二〇二一（令和三）年度の大規模修繕について」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第144号、2022年1月1日） 	小計2本
4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・「二〇二一（令和三）年度の大規模修繕について」（『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第144号、2022年1月1日） 	合計（1）本
合計7本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和4年4月1日	
職・氏名	上席学芸員 川谷承子
●専門分野	現代美術
●所属学会	
●主要研究テーマ	戦後美術
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	小計0本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業 展覧会 ・企画展「ストーリーズ～作品について学芸員が知っていること」(4月6日～5月16日) 主担当 ・新収蔵品展 ・鴻池朋子展 (令和4年度開催 準備) 普及事業 ・特別講演会 企画・実施 「名品を手に入れる 静岡県立美術館所蔵 草間彌生《無題(No. White A. Z.)》を中心に」講師：石坂泰章氏 (サザビーズジャパン 代表取締役会長兼社長) 4月11日 ・美術講座「石田徹也の作品は海外でどのように紹介されたか」4月29日 ・清水南高校芸術科出張授業 7月15日、1月13日	小計6本
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動 ・購入・寄贈作品の受け入れ (購入1点、寄贈6点) ・デジタルアーカイブ スペシャル動画制作担当	小計2本
4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】 ・デジタルアーカイブ スペシャル動画制作担当	小計(1)本
合計8本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和4年3月23日	
職・氏名	上席学芸員 村上 敬
●専門分野	日本近代美術
●所属学会	美学会、美術史学会、明治美術学会、文化資源学会
●主要研究テーマ	日本近代洋画、工芸・デザイン
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	小計0本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業 ・収蔵品展「構図を巡って」(6月29日～9月5日) 担当	小計1本
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動 ・静岡市立芹沢銈介美術館協議会委員	小計1本
4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】	小計()本
合計2本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和4年4月6日	
職・氏名	上席学芸員 泰井 良
●専門分野	日本近代洋画
●所属学会	明治美術学会、日本文化政策学会
●主要研究テーマ	明治時代から昭和戦前期までの近代洋画
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	小計0本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業 ・美術講座「和田英作と曾宮一念 二つの絶筆」5月2日	小計1本
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	小計0本
4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】	小計()本
合計1本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和4年4月7日	
職・氏名	上席学芸員 植松 篤
●専門分野	現代美術
●所属学会	美学会、広島芸術学会
●主要研究テーマ	戦後美術
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
・研究ノート「白髪一雄《屋島》について」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第142号、2021年7月1日)	
	小計1本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業	
・移動美術展「静岡県立美術館超名品展 風景と人間」(11月13日～12月19日) 主担当	
・同展 館長講演会	
・企画展「古代エジプト展」(7月10日～9月5日) 副担当	
・同展 特別講演会副担当	
・同展 館長美術講座副担当	
	小計5本
3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
・静岡文化芸術大学公開講座シンポジウム「ミュージアムは誰とつながるのかー過去・現在・未来ーコレクションの地域社会における意義を考えるー」(静岡文化芸術大学、11月14日)[移動美術展連携イベント]	
	小計1本
4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】	
・研究ノート「白髪一雄《屋島について》」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第142号、2021年7月1日)	
	小計(1)本
合計7本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和4年4月6日

職・氏名 上席学芸員 野田麻美

- 専門分野 日本近世絵画
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 狩野派を中心とする桃山末～江戸時代の絵画

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・研究ノート「真贋論の行方—添帖のこと」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第141号、2021年4月1日)
- ・「巨大組織・江戸狩野派の250年—奥絵師と表絵師に関する諸問題」(『忘れられた江戸絵画史の本流：江戸狩野派の250年』図録 静岡県立美術館、2021年5月18日)
- ・「江戸狩野派による模本と倣古図に関する一考察—狩野常信・栄信・養信ほか「唐絵手鑑」の分析を中心に」(『江戸狩野派の古典学習：その基盤と広がり』図録 静岡県立美術館、2021年5月18日)
- ・「狩野探信守道・狩野探淵守真ほか『摹宋元画冊頁』(ボストン美術館)について」(『美術史論叢』38号 東京大学美術史学研究室、2022年3月31日)
- ・「江戸時代〈庭園画史〉序説—江戸・関西画壇における庭園画様式の成立と展開」(『近世庭園の研究』奈良文化財研究所、2022年3月31日)

小計5本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「忘れられた江戸絵画史の本流：江戸狩野派の250年」(5月22日～6月27日) 主担当
- ・特別展示「江戸狩野派の古典学習：その基盤と広がり」(5月18日～6月27日) 主担当
- ・両展共通 フロアレクチャー 5月29日、6月26日
- ・両展共通 美術講座 6月13日

小計5本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・広島市立大学 芸術学研究Ⅰ・Ⅱ 4コマ(非常勤講師)(10月28・29日)
- ・広島市立大学 芸術理論 1コマ(非常勤講師)(10月29日)

小計2本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

- ・「江戸狩野派による模本と倣古図に関する一考察—狩野常信・栄信・養信ほか「唐絵手鑑」の分析を中心に」(『江戸狩野派の古典学習：その基盤と広がり』図録 静岡県立美術館、2021年5月18日)
- ・「江戸時代〈庭園画史〉序説—江戸・関西画壇における庭園画様式の成立と展開」(『近世庭園の研究』奈良文化財研究所、2022年3月31日)

小計(2)本

合計12本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和4年4月4日

職・氏名 主任学芸員 貴家映子

- 専門分野 西洋美術史
- 所属学会 日仏美術学会
- 主要研究テーマ フランス近代美術、風景画

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・オンライン口頭発表「東海圏の美術館におけるボナール作品ーその多様性と研究の可能性について」
(シンポジウム「日本の美術館とナビ派ー地方美術館から考える研究の可能性」主催：一橋大学大学院言語社会研究科、2021年12月13日)

小計 1本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「大展示室展」(令和4年度開催 準備) 副担当
- ・出張美術講座 1回

小計 2本

5. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・「博物館の動画制作」静岡県博物館協会講習会、2月22日

小計 1本

6. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 ()本

合計 4本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和4年4月6日	
職・氏名	主任学芸員 浦澤倫太郎
●専門分野	日本画
●所属学会	美術史学会
●主要研究テーマ	近世絵画
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
・研究ノート「温泉と絶景—熱海本陣・今井半太夫家と画家たちの交遊—」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第144号、2022年1月1日)	
・論文「原在正《富士山図巻》の再検討—描かれた風景の虚実—」(『静岡県立美術館紀要』第37号、2022年3月31日)	
	小計2本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業	
・出張講座(静岡市立富士見小学校、12月1日)	
	小計1本
7. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
・講義「小杉文庫について」(静岡大学講義「地域の人と文字文化」全2回、7月5日、12日)	
	小計2本
8. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】	
・研究ノート「温泉と絶景—熱海本陣・今井半太夫家と画家たちの交遊—」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第144号、2022年1月1日)	
	小計(1)本
合計5本	

定性評価の状況（令和3年度）

【日本画】

日本画では、27 点の作品を貸出した。画家の個展では、「渡辺省亭一欧米を魅了した花鳥画」（東京藝術大学大学美術館、岡崎市美術博物館）に代表作の《十二月花鳥図》（個人蔵・寄託品）を貸出したが、コロナ禍で藝大美術館での展示公開は中止となった。テーマ展では、「映える NIPPON 江戸～昭和 名所を描く」（府中市美術館）に小林清親作品 4 点、「日本美術の源流—雪舟・狩野派から近代美術」（都城市立美術館）に狩野探幽・狩野芳崖作品各 1 点などを貸出した。また、2021 年度の日本画関連の展覧会で高評を得た「大雅と蕪村—文人画の大成者」（名古屋市博物館）には、池大雅の代表作として《蘭亭曲水・龍山勝会図》が出陳された。

2021 年度後半は当館が休館したため、例年よりも大規模な形で開催された移動美術展「静岡県立美術館超名品展 風景と人間」（浜松市美術館）においては、《富士三保松原図屏風》、秋野不矩《たむろするクーリー》など、当館の日本画の名品計 11 点を貸出した。

（野田麻美）

【日本洋画】

「生誕 110 年 香月泰男展」に、香月の帰国後、故郷山口県長門市三隅町で制作された《冬島》を出品した。香月は、帰国後、シベリア抑留体験をもとにした大作「シベリアシリーズ」を制作したが、それとあわせて、三隅町の自然をモチーフとした小品を制作した。本作は、その中でも、秀逸な作品であり、本作が回顧展で評価されたことは意義深い。また、「エビハラがいた時代」展に《かぜ》が出品された。本展は、鹿児島出身の海老原喜之助が、戦争末期、熊本に疎開した際に設立した画塾・海老原美術研究所での活動に焦点をあてた展覧会である。また地域美術の視点から海老原の作画活動を検証する展覧会で、これまでにない新たな視座の展覧会でもある。図録には、精査された多くの資料が掲載され、大変充実した研究書となっている。本展に、代表作《かぜ》が出品されたことは、大変意義深い。

なお、移動美術展「超名品展 風景と人間」展にも、和田英作《富士》、佐伯祐三《ラ・クロッシュ》、その他富士山をモチーフとした作品の数々が出品され、当館のコレクションポリシー「17 世紀以降の東西の山水・風景画の収集」を名品でたどることができた。

（泰井良）

【西洋】

令和 3 年度は、下記のとおり、4 つの展覧会に計 23 点の作品を貸出・出品した。

昨年度から巡回されている「クールベと海 フランス近代 自然へのまなざし」展には、クロード＝ジョゼフ・ヴェルネの《嵐の海》ほか計 3 点を、引き続き出品した。

町田市立国際版画美術館「映える風景を探して」は、「古代ローマから世紀末パリまで」という副題のもと、各作家の感性と工夫によって生み出された「映える風景」を紹介しながら、16 世紀から 19 世紀までの西洋の風景表現の歴史を辿った内容で、当館の西洋風景画コレクションから、クロード・ロランの《笛を吹く人物のいる牧歌的風景》、レンブラント《三本の木》、カミーユ・ピサロ《ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ》のほか油彩画 2 点、版画 8 点の計 10 点の作品が展示された。

移動美術展「静岡県立美術館超名品展 風景と人間」には、クロード・モネ《ルーアンのセヌ川》を始めとする 18 世紀から 20 世紀までの 7 点の油彩画、ロダンの《パオロとフランチェスカ》ほか計 2 点の彫刻を出品した。

Bunkamura ザ・ミュージアムほか 2 会場で開催される、日本とジュアン・ミロとの関係に焦点を当てたレトロスペクティブ「ミロ展—日本を夢見て」には、同画家の《シウラナの教会》が出品され、ミロが手

元に置いていたという歌川国虎の《近江八景》復刻版との表現の類似性が言及された。

(南美幸)

【現代】

当館に寄託されている森村泰昌《批評とその愛人》のマケットを、3331 Arts Chiyoda で開催された「オルタナティブ！小池一子展 アートとデザインのやわらかな文化創造に向けて」展に貸し出した。同展は、日本で初めてのオルタナティブ・スペース「佐賀町エキジビット・スペース」を創設した小池一子を検証する展覧会で、この「佐賀町エキジビット・スペース」で1990年に開催された森村の個展「美術史の娘」展に出品された当時の展示プランを再現して、マケットは床に置いた額縁入りの鏡の上に乗せて展示された。発表当時の記憶を掘り起こすとともに、最終形態としての写真作品を制作する過程で使用される小道具という位置づけに収まらないマケットの意味を提起する展示であった。

(川谷承子)

イサム・ノグチ《クロノス》を、「イサム・ノグチ 発見の道」(東京都美術館)に貸し出した。本作は、イサムにとって1940年代の重要な作品であるが(所蔵品は1986年の鋳造)、出品されていた、パーツを組み合わせる構造をした「インターロッキング・スカルプチュア」に比べても、吊り構造を有する本作は、独自の地位をしめていたと言える。そのほか、本展は「あかり」のインスタレーションにより展示上の効果としても変化をつけ、イサムの庭園への関心にも焦点あてるなどし、単なる概観ではない工夫のある企画であった。

また、「ミニマル／コンセプチュアル ドロテ&コンラート・フィッシャーと1960-70年代美術」に、カール・アンドレ《鉛と亜鉛のスクエア》を貸し出した。本展は、DIC川村記念美術館、愛知県美術館、兵庫県美術館の3館により企画された巡回展である。ドイツのコンラート・フィッシャー画廊は、ミニマル・アートやコンセプチュアル・アートの歴史において最重要の画廊であり、当作品もこの画廊で発表されたものである。いわゆる作品だけでなく、アーティストと画廊との間でやりとりされた書簡なども展示され、当時、この種の表現がどのようにできあがっていったのかが伝わる企画であった。

移動美術展「静岡県立美術館超名品展 風景と人間」には、所蔵品24点と、上述の森村泰昌の寄託品1点を出品した。章立てに応じ、富士山を写した石川直樹の「Mt. Fuji」シリーズの写真2点や、広い意味で人を主題とする河原温のデイトペインティング3点、浜松市出身の中村宏による《早来迎機・1》など、様々な表現メディアの作品により展示を構成した。

(植松篤)

【ストーリーズ～作品について学芸員が知っていること】〈自主企画展〉

・所蔵（寄託・借用を含む）作品を取り上げているため、作品の来歴を含み、収蔵するまでのプロセスが解り、従来の展示方法から深化させており、学芸員がどういう意図で展示・陳列しているかがはっきりと判るところが良い。

（金原委員）

・今回の「STORIES」展は、「鑑賞者への普及・啓発」という点ではすこぶる斬新な試みである。しかし、その反面、学芸員が「手の内を晒す」、という側面があるので、どうしてもさじ加減の難しさを伴う展覧会であったのではないかと思う。その晒し方が上手いけば、鑑賞者のさらなる関心を掻き立て、学芸の仕事の意義をもう一度確認・評価してもらえる成果となるけれど、普段の作品解説に比べてそれほど踏み込まない、あるいは新たに興味をそそる話題を提供できないで終わると、期待値が高いだけに物足りなさが残る心理状態になるという、両側面があると想像される。

全体としては、学芸員の研究面での充実を感じさせる、読ませてもらって改めて勉強になったと言える成果であったことは言うまでもないが、それでも、個別に比較して行くと、どれとは指摘しないが、執筆者の知的好奇心の高さに促され、またその内容の巧妙な提示の仕方に導かれ、知的興奮を感じる章もあれば、晒される内容が通り一遍の解説に終わり、期待感が凋んでしまうような章があったことも指摘しておかなければならない。

（潮江委員）※図録評価のみ

・この展覧会は、開館 35 周年を迎えた静岡県立美術館が個々の収蔵品の生涯にどのようにかかわってきたか、その物語とともに作品を展示する企画で、会場に掲出するには煩瑣になる情報を盛り込み、また、今後の記録とする役目を図録が負っている。

第 1 章「名品の軌跡」では収集した作品を調査し、展覧会に貸与したり展示したりするなどの美術館活動によって価値を高めてきた経緯が、美術館の内部資料とともに跡付けられている。学芸員や美術関係者以外にはあまり知られていない展覧会や収集活動の背景が公開され、美術館活動への一般の理解を促す図録となっている。その時々々の学芸員のファクスまで美術館のアーカイブとして残され、活用できるようになっていることに深い敬意を表す。今後もこのシステムが継続されるように期待する。

2, 3 章以降はゆるやかに編年的に編集されており、静岡ゆかりの作家たちの作品と歴代学芸員のかかわりが記されている。いずれも、日常的な美術館活動に基づいており、静岡県立美術館ならではのものである。作家や作家遺族と学芸員との交渉の過程など、他では得難い記録として貴重である。6 章の「石田哲也とその足跡」では、海外展に貸与された作品とともに現地にわたった学芸員の物語によって、所蔵作品という身近なものから世界へと視野が開かれ、見知った作品が新たなものに見えてくることが示されていて意義深い。

新型コロナウイルス禍により作品や人の移動が困難になり、今後の展覧会のあり方が問われている現在、美術館が作品を収蔵することの意味と責任を具体例で示した先駆的な企画である。

A4 判のハンディな図録で、鑑賞者が会場に持参して手軽に参照できる点も評価できる。

（山梨委員）※図録評価のみ

【忘れられた江戸絵画史の本流】〈自主企画展〉

・江戸時代の狩野派が如何にして江戸絵画史の本流となりえたか。作品を第1章と第2章に分けて基盤形成から全国展開へと展示し、第3章で表絵師の体制確立がはっきりと理解できるように工夫している。本来中国の絵画を規範としているのでなじみやすいものばかりではないが、中橋家、木挽町家、というふうに整理して展示してわかりやすく並べている。

出品作品は充実しており、調査研究のたまものである。色彩が鮮やかなものが少なく地味ながら、多くの作品により、県民は当時の作家の心ばえを知ったのではないか。一方、浮世絵なども流行していたのであるから、当時の時代相を考えることも必要である。

(金原委員)

・これだけの江戸狩野派コレクションを築いた日照軒々主の覚悟に対しまずは敬意を表したい。と同時に日頃の調査研究活動の中でこのコレクションの存在を知り、それを整理した結果展覧会開催を実現させた担当学芸員の努力と、それを認めた静岡県立美術館の寛容さに対しても敬意を表す。静岡県立美術館でなければこの展覧会は開催できなかったのではないか。

文字史料からその活動が窺い知れる江戸狩野派の絵師たちの、では実際の作品となると甚だころもとなかったのだが、ここにとにもかくにも作品が提示されたことの意味は大きい。今後の江戸狩野派研究の出発点となるはずでこの点は大いに評価する。

(榊原委員)

『静岡県立美術館紀要』No. 37（令和4年3月31日発行）掲載論文について

南 美幸 「マルキ・ド・サド『イタリア紀行』ナポリ篇について2—絵画館の翻訳と解題」

サドの『イタリア紀行』第二弾のナポリ編ということだが、ポンペイやヘルクラネウムから出土した古代遺物に対して、「素人」を自覚する知識人がいかに関心を持っていたかの事例としてとても興味深いものだと思う。見学の許可を得ても、詳細なメモも許されないことから、記憶を頼りに綴られたものだが、その濃淡にサドの趣味が反映しているという指摘も、おもしろかった。古代再発見が、真摯な「新古典主義」的方向性だけでなく、むしろ正反対の価値観を抱いていたサドの関心を大いに刺戟したことは、そのブーム広がり大きさだけでなく、案外と輻輳した状況にあったことを教えてくれる文献の紹介として意義のあるものだと思う。

（潮江委員）

先号に引き続く本号のサドの『イタリア紀行』ナポリ篇の翻訳は、「古代への情熱—18世紀イタリア・考古学と芸術の出会い」展（2019）の基礎となった美術館コレクションの意義づけを補完するものであり、館にとって学術的、教育的価値をもっている。また18世紀の新古典主義の一側面をわが国に紹介する点で資料的な価値を有している。訳文は読みやすく、注釈も充実している。解題もリチャールの記述との対比を試みることで、サドの記述の特色をより明瞭に浮かび上がらせることに成功しており、原典資料紹介としては高い水準にあると評価できる。

なお、細かいが、注56の comte de Caylus は、しばしばケリユス伯爵と辞典類で表記されてきたが、Warnant や Duden の発音辞典ではケリユス[kelys]であり、船岡美穂子氏の研究でもケリユス伯爵とされている。また、31頁の Staintrager の表記は、スタイントラガーではなく、スタイントレジャーの方が良いかもしれない。

（栗田委員）

浦澤倫太郎 「原在正「富士山図巻の再検討」—描かれた風景の虚実—」

この原在正「富士山図巻」をもう一度検討して、その描かれた風景の虚実を確認してみようという興味深い論文で、多岐にわたっており、第1巻 無題、第2巻 相州高砂、第3巻 相豆駿州堺箱根湖、第4巻 駿州従原吉原間眺望の如く、第14巻まで丁寧に論述してあますところがない。それらは大きく3つに分けられるが、抑揚のある構成と単調なものに分けて特色をわかりやすく示している。

分担制作があったこと。長期の時間を要したことから、内容に粗密があらわれていることを指摘していることも面白いことである。

（金原委員）

静岡県立美術館などの展示を通じ、従来より注目されてきた「富士山図巻」全14巻全74図各図について、描写内容と実景とを比較した意義は極めて大きい。しかも、その検証はすべて筆者による

現地踏査を経たものである点、特筆すべきだろう。今後、本作品について考える上で、まずは参照すべき基本的文献となるはずで、大いに評価したい。

さらに各図の表現内容や構図を考える前提に、用紙の継ぎ方、その横幅に着目した分析手法は新しい。

少なくとも本図巻のような実景描写を試みた作品の分析には有効な方法ではないか。

(榊原委員)

一般向け、学校向けとも、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業毎にリスクの順位をつけ、状況に合わせて実施の可否や感染対策を行った。消毒や換気、参加者の人数制限等を基本的な低策としながら、一部を除き実施することができた。しかしながら、8月からのまん延防止等重点措置（8月8日～19日）や緊急事態宣言（8月20日～9月30日）により、一般向け、学校向けの事業は全て中止となった。

【一般向け】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は「わくわくアトリエ」では「版画家が実物投影機を利用して実演する紙版画」「屏風の構造を作るところから始めるミニ屏風づくり」では、一人につき一台の作業台に限定（小学3年生以下は保護者同席可）し、また制作道具の共有を無くした。プログラムの一環として展示を鑑賞する際も、密にならずに全体を鑑賞できるよう配慮した。今までのようにさまざまな素材を用いて制作する面白さを発見できることに加え、安心して体験できるプログラムを心掛けた。その他、切り絵作家福井利佐氏に講師依頼した講座では、福井氏が東京在住で緊急事態宣言により来館することができなかつたため、美術館実技室にいる参加者と講師をオンラインで結び、制作活動を行った。ネット環境の整備や講座の段取り等、昨年度の経験を活かし改善を図って行うことで、今後生きる講座となった。

「実技講座」では2事業の内一つが中止となったが、実施した「倣古図に学ぶ～模写・金箔貼り講座～」では、制作に上質な箔を使用し、企画展とも関連の深い内容となった。

「ねんど開放日」及び「えのぐ開放日」は、相対的にリスクが高いため、中止の判断となることが多く、後者については計画したが一度も実施がなかった。一方、「創作週間」や「ロダン館」といった比較的リスクの低い事業は、対策の上、例年のように実施することができた。

新型コロナウイルス感染症により活動が制限された中でも、展覧会と関連させた内容の普及活動をバランスよく行い、展示と鑑賞を結びつけた静岡県立美術館ならではの教育普及活動を展開することができた。

【学校向け】

昨年度に引き続き、「ボランティアとの鑑賞活動」と「美術館の秘密を探れ！」は年度初めから中止となった。例年行われていた県総合教育センターや各地区の図工美術会の教員向け鑑賞教育研修も、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受け、先方の判断により中止となった。また、校外学習の一環で「美術館の秘密を探れ」や「ロダン館ななふしぎ」を例年希望する学校が、今年度は申込後に辞退する学校も多く、学校現場では一斉休校を経て学校再開に向け安全対策や授業時数の確保等、課題が多い様子であった。

一方で、今年度は新たに、年度最初に市内の特別支援学校を対象にした出張ねんど教室の募集をかけた。応募のあった1校には、現地に出張する案とオンラインによるリモートの案の2案を学校と連携して準備し、結果的には学校に出張し、特別支援学校向けのねんど教室を実施することができた。

今後は、新しい生活様式に対応した普及・教育プログラムの教材開発・提供の必要性がさらに高まり、対応が急がれると思われる。

これまでの地域等の連携をさらに深め、地域をパートナーと考える経営を推進した。

地域・企業等

(1) 県立美術館ボランティア

- ・132名の登録ボランティアにより活動を開始。感染対策を講じながら可能な範囲で活動していたが、感染が収束しない中、前年度に引き続き活動休止となったグループがあったため、図書閲覧室受付への参加やSNS広報などの代替活動を用意し、希望者に参加いただいた。
- ・3年間の任期が満了する年度であり本来であれば再募集をするところだが、先行きの見えない状況、また十分に希望の活動をしていただけていない状況であることに鑑み、特例として1年間延長できることとした。結果102名の方が活動延長を希望された。
- ・活動期間（任期）：平成31年4月1日～令和4年3月31日、希望者は令和5年3月31日まで延長
- ・活動方針：「来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携推進」

(2) 有度山地域に立地する5施設、県立美術館、SPAC、日本平ホテル、日本平動物園久能山東照宮による「有度山フレンドシップ協定」による協働

- ・コロナ禍の中、今後、企画展との連携事業を検討していく。

(3) 草薙商店会等との協働

- ・草薙商店会主催の「つながるくさなぎ」夏フェス、冬フェスにて毎年実技体験を実施していたが、コロナ禍によるイベントの中止及び工事休館により参加は見送った。
- ・草薙地域で活動しているグループと連携して美術館前の広場でロダン・ウィーク「丘の上のマルシェ」を毎年開催していたが、工事休館中であることから参加を見送った。

(4) ロダン・ウィーク

平成26年度、開館20周年を契機に開始した「ロダン・ウィーク」。令和3年度は工事休館中であったことから開催を見送った。

(5) 企画展における企業等との連携による効果

- ・「古代エジプト」展では、館内レストラン「ロダンテラス」で特別メニューとして「ピラミッドカレー」を提供した。

ムセイオン静岡

谷田地域の文化教育7機関（県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）は、谷田の丘陵地帯及びその周辺地域の文化振興やまちづくりに貢献する目的で、「ムセイオン静岡」として相互協力し、文化の丘づくりを推進してきた。

今年度も、県立大学の「ムセイオン静岡」の授業の一環で、講義・見学を受け入れた（古代エジプト展）。また、毎年秋に開催している「文化の丘フェスタ」では、コロナ禍及び工事休館中であったが、他機関と連携して「クイズラリー」を実施した。

昨年度に引き続き、様々な広報手段を活用し、県内外への広報を推進した。
企画展の共催者等と協働した広域的な広報を目指した。

新たな取組

- ・教育機関への情報発信を始め、美術館の利用促進に努めた。
- ①「ストーリーズ」展では県立大学事務局に依頼し、メーリングリストにより広報を行った
- ②「忘れられた江戸絵画史の本流展」においては、県内小・中・高校へ利用案内通知を送付した。
- ③「古代エジプト展」においては、美術館周辺大学へ事務局を通じて広報を行った。
- ④「移動美術展」では開催地にある静岡文化芸術大学事務局に依頼し、メーリングリストにより広報を行った。
- ⑤「忘れられた江戸絵画史の本流展」は、ARTPRなどオンライン・プレスリリースの積極活用により、インターネット、新聞、TVなど多数のメディアに取り上げられた。
また、インターネット放送の「ニコニコ美術館」では、2万人を超える視聴があった。
- ⑥「忘れられた江戸絵画史の本流展」では、展覧会に併せ「江戸狩野派総選挙～あなたはだれを推しますか～」と題して、狩野派絵師10人による選挙イベントを館内及び隣接する静岡県立中央図書館で開催したところ、多くの方に投票をいただくとともに新聞にも取り上げられた。

引き続き実施した広報

- ①ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、YouTubeによる情報発信
- ②展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供（記者投げ込み、プレスリリースの利用）
- ③ポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ④県広聴広報課との連携（県民だより）
- ⑤広報サポーターへの情報提供
- ⑥展覧会共催者（新聞社・テレビ局）等との連携
- ⑦企画展に関連する講演会・イベントを館内で行い集客を図った。
- ⑧美術館ニュース「アマリス」の発行
- ⑨インターネットミュージアム等の美術館・博物館情報サイトで展覧会をPRした。

県有文化施設と協働した広報

・毎年秋に谷田地域の文化教育7機関が「ムセイオン静岡」として連携して取り組んでいる「文化の丘フェスタ」は、工事休館中ではあったが、「クイズラリー」には参加し、浜松市美術館で開催する移動美術展「静岡県立美術館超名品展」のPRを行った。

県立美術館は、令和4年3月に「5ヵ年計画」を策定した。

計画では、美術館の基本理念（美術館の目指す姿）を実現するため、8つの実施方針を定めている。

その一つが「運営」であり、運営基盤の強化を目指すこととしている。

計画期間は令和4年度から8年度までの5年間であるが、先行して令和3年度に取り組んだ主な取り組みは以下のとおり。

(1) 運営基盤の拡充（収入の確保）

- ・古代エジプト展では、当初予定になかった文化庁の令和2年度第3次補正予算事業「ARTS for the future!（コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業）」の補助金交付を受け事業を実施した。

(2) 企業との連携強化による運営の充実

- ・企業との連携を強化するため、静岡県経営者協会と3月から協議を開始した。
具体的には、経営者協会の交流会等で、学芸員による美術講座や展覧会の解説など、新たな取り組みを検討している。

歳出予算執行状況調

(令和3年度)
(令和4年5月31日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
款 04 経営管理費	4,833,697	4,833,697	0	
項 01 経営管理費	4,833,697	4,833,697	0	
目 01 一般総務費	1,173,457	1,173,457	0	
01 報酬	784,122	784,122	0	
03 非常勤職員報酬	784,122	784,122	0	
03 職員手当等	51,932	51,932	0	
01 その他の職員手当等	51,932	51,932	0	
04 共済費	328,168	328,168	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	328,168	328,168	0	
08 旅費	9,235	9,235	0	
01 その他の旅費	9,235	9,235	0	
目 03 行政経営費	328,340	328,340	0	
08 旅費	143,540	143,540	0	
02 普通旅費	143,540	143,540	0	
10 需用費	184,800	184,800	0	
01 その他の需用費	184,800	184,800	0	
目 05 資産経営費	3,331,900	3,331,900	0	
10 需用費	295,900	295,900	0	
01 その他の需用費	295,900	295,900	0	
14 工事請負費	3,036,000	3,036,000	0	
款 06 スポーツ・文化観光費	319,526,500	314,525,834	5,000,666	
項 02 スポーツ費	3,180	3,180	0	
目 01 スポーツ費	3,180	3,180	0	
08 旅費	3,180	3,180	0	
02 普通旅費	3,180	3,180	0	
項 03 文化費	314,843,320	309,979,654	4,863,666	
目 01 文化事業費	20,048,160	20,048,160	0	
11 役務費	1,719,410	1,719,410	0	

ZIB0030
ZIRB0030

(令和3年度)
(令和4年5月31日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
12 委託料	18,328,750	18,328,750	0	
目 04 美術館費	294,795,160	289,931,494	4,863,666	
01 報酬	12,371,000	12,370,500	500	
02 委員報酬	90,000	89,700	300	
03 非常勤職員報酬	12,281,000	12,280,800	200	
03 職員手当等	1,081,000	1,080,976	24	
01 その他の職員手当等	1,081,000	1,080,976	24	
04 共済費	1,973,000	1,928,868	44,132	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	1,973,000	1,928,868	44,132	
07 報償費	2,437,000	2,142,330	294,670	
01 その他の報償費	2,410,000	2,116,000	294,000	
02 買上金	27,000	26,330	670	
08 旅費	2,724,000	2,070,159	653,841	
01 その他の旅費	1,672,000	1,108,247	563,753	
02 普通旅費	1,052,000	961,912	90,088	
10 需用費	62,443,000	61,304,637	1,138,363	
01 その他の需用費	62,443,000	61,304,637	1,138,363	
02 食糧費	0	0	0	
11 役務費	18,322,000	17,575,914	746,086	
12 委託料	150,092,000	148,770,372	1,321,628	
13 使用料及び賃借料	1,500,160	1,327,746	172,414	
14 工事請負費	5,934,000	5,643,000	291,000	
17 備品購入費	12,827,000	12,626,912	200,088	
18 負担金、補助及び交付金	23,078,000	23,077,780	220	
26 公課費	13,000	12,300	700	
項 04 観光交流費	4,680,000	4,543,000	137,000	
目 01 観光費	4,680,000	4,543,000	137,000	
12 委託料	2,200,000	2,200,000	0	

ZIB0030
ZIRB0030

(令和3年度)
(令和4年5月31日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
14 工事請負費	2,480,000	2,343,000	137,000	
款 11 教育費	1,044,894	1,044,894	0	
項 09 社会教育費	1,044,894	1,044,894	0	
目 02 図書館費	1,044,894	1,044,894	0	
12 委託料	1,044,894	1,044,894	0	
計	325,405,091	320,404,425	5,000,666	

歳入予算

執行状況調

一般会計

区 分	調 定 額 A 円	収 入 済 額	
		納 期 内 B 円	納 期 後 C 円
款 08使用料及び手数料	7,806,780	7,363,670	443,110
項 01使用料	7,806,780	7,363,670	443,110
目 04スポーツ・文化観光使 用料	7,806,780	7,363,670	443,110
01美術館観覧料	5,646,600	5,622,540	24,060
02美術館使用料	2,101,300	1,694,750	406,550
06庁舎等使用料	58,880	46,380	12,500
款 10財産収入	2,650,566	2,650,566	0
項 02財産売払収入	2,650,566	2,650,566	0
目 04その他財産売払収入	2,650,566	2,650,566	0
01美術館図録売払収入	2,650,566	2,650,566	0
款 14諸収入	17,373,491	17,373,491	0
項 08雑入	17,373,491	17,373,491	0
目 02雑入	17,373,491	17,373,491	0
20美術館特別展共催収入	14,672,628	14,672,628	0
76保険料負担金	1,069,539	1,069,539	0
非常勤職員	1,069,539	1,069,539	0
78過年度返納金	0	0	0
79雑収	1,631,324	1,631,324	0
雑収	1,624,679	1,624,679	0
公文書開示負担金	100	100	0
古新聞・雑誌	6,545	6,545	0
計	27,830,837	27,387,727	443,110

(令和3年度)
(令和4年5月31日現在)

不 納 欠 損 額 D 円	収 入 未 済 額			収 入 歩 合 B+C A-D-F %	納 期 内 収 入 率 B A-D-F %
	納 期 限 経 過 E 円	納 期 限 未 到 来 F 円	計 円		
0	0	0	0	100.0	94.3
0	0	0	0	100.0	94.3
0	0	0	0	100.0	94.3
0	0	0	0	100.0	99.5
0	0	0	0	100.0	80.6
0	0	0	0	100.0	78.7
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	98.4

第三者評価委員会での主な意見と対応状況

基本方針 A：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

1 前回の委員からの意見
<p>収蔵品はいつでも見られると軽く受け止められる傾向があるが、収蔵品展はその館の普段見られない良い作品を敢えてその時に見せるものだから、人の気持ちをつかむ上手い広報ができれば、関心を持たれ来場につながるのではないか。(神山委員)</p>
2 これまでの対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度後半が全館工事休館となったことを受け、浜松市美術館において、館長監修のもと、「超」名品展と題して質量ともに拡充させた特別版の移動美術展を開催し、「風景と人間」というテーマのもと幅広くコレクションを展示した。地元テレビ局・新聞社との共催展であったため、マスメディアを通じた広報の機会も多く、当館コレクションの紹介と魅力発信の機会として有益だった。 ・令和3年度にデジタルアーカイブを整備し、令和4年4月から公開を始めた。公開用写真を新規に撮影するとともに、個々の作品・作家情報を充実させ、収蔵品に関するオンライン上の発信を拡充した。 ・工事休館明けの再始動に当たっては、大展示室展と絡め Twitter によるカウントダウン広報を実施した。
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の収蔵品展では、開催中の企画展と関連するテーマによる企画（「絶景考Ⅰ」「絶景考Ⅱ」）や、県と浙江省との友好提携40周年を記念する特別企画（「鞆川図と蘭亭曲水図」）を組み入れ、様々なチャンネルを通して収蔵品展が注目されるよう内容について工夫した。 ・令和3年度に整備し、さらに充実する予定のデジタルアーカイブと紐づけた SNS 配信を積極的に行い、収蔵品の魅力やその公開情報を広く周知していく。

基本方針A：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

1 前回の委員からの意見
<ul style="list-style-type: none">・ 3Dで実際の館内を見てより見に行きたくなるという需要を喚起するという意味ではバーチャル情報発信は非常に意義が高い。リアルとバーチャルのハイブリッド型の情報発信により県美のことを知ってもらい、県美に行く機会を創出するといった取組も良い。(前田委員)・ 収蔵品に関してデジタル化を推進しているとのことだが、それ以外にも動画での配信などバーチャルなものの活用を今後も積極的に行って欲しい。(田中委員)・ より積極的にオンラインによって新しい客層、ファン層を静岡県美として獲得していくのだというぐらいの意識でいた方がいいのではないか。(荻原委員)
2 これまでの対応状況
<p>国のコロナ関連交付金等(22,000千円)を活用し、令和3年度、以下の内容により構成される「静岡県立美術館デジタルアーカイブ」を整備、公開した。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 収蔵品、図書資料等を対象とした検索システム・ 当館を代表する収蔵品2点の特別撮影データ(「地獄の門」バーチャルリアリティ、池大雅「蘭亭曲水・龍山勝会図屏風」(重要文化財)超高精細画像)・ 館長プロデュースによる収蔵作家に関する動画(中村宏インタビュー、森村泰昌×館長対談)・ ドローンを活用した美術館紹介動画 等
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none">・ 令和3年度事業により、収蔵品のうち約8割の画像をデジタルアーカイブに掲載することができた。今後は残りの画像を順次掲載し、より多くの方に利用していただくよう努める。 <p>併せて、デジタルアーカイブを活用する新たな教育プログラムの準備も進めている。</p>

基本方針B：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

1 前回の委員からの意見
美術品にリアルに触れることが一番良いわけだが、例えばアートカードの貸し出し事業など、色々工夫できるのではないか。教育現場では1人1台タブレットが配布されていて、そういった機器やシステムをうまく活用し美術教育、学校教育との連携を進めていけば新たな展開を望むことができる。(櫻井委員)
2 これまでの対応状況
R4 当初予算において、デジタルアーカイブのコンテンツを利用した図工・美術の授業で活用できるオンラインでの教育プログラムの開発・試行(4,001千円)を計上した。
3 今後の展開
県東部・西部地域を意識して、遠隔対応可能なデジタル教材の開発、整備を進め、学校教育との連携を進めていく。10月から12月にかけて試行と改善を行い、2月をめどに令和5年度実施に向けて学校向け広報を開始する。

基本方針B：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

1 前回の委員からの意見
浜松エリアにおいて教育旅行需要が急激に増加している。静岡県内の魅力的なコンテンツを発信する教育旅行の営業活動を県内で行っているという話もある。美術館としての営業活動の検討、情報の早期取得と人員の投下も含めて検討いただきたい。(前田委員)
2 これまでの対応状況
令和3年7月に、静岡県観光協会が主催する、山梨及び長野県向けのオンラインによる教育旅行説明会に参加し、えのぐ教室やロダン館デッサンなどの学校連携普及事業についてのPRを行った。
3 今後の展開
令和4年度1月にも山梨、長野県の教育旅行関係者向け説明会が開催される予定で、参加を予定している。基本的には、県内の学校との連携が中心となるが、県外からの要望があった場合にも柔軟に対応していく。 また今年度は、8月から11月にかけて、県内小中高校、特別支援学校、私立学校の会議の場に出向き、出張美術講座や美術館の教育プログラムなどについて説明するなど、学校との連携を更に強化していく。

基本方針B：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

1 前回の委員からの意見
例えばボランティアと Zoom で打ち合わせを行うとか、美術館の所蔵品について学んで、その次のプログラムにつなげるとか、オンラインを活用した活動というのは十分できるのではないかと。オンラインを活用しながらボランティア活動を継続できるように活動することはできるのではないかと。(稲庭委員)
2 これまでの対応状況
ボランティアは高齢者が多く、Zoom による打合せだと参加できない方が相当数見込まれる。このため、可能な範囲で、対面により所蔵品を学ぶ機会を設けている。また、新たに、SNS のための記事を希望者に執筆いただくという活動を行い、3 件の実施があった。今後も参加を呼び掛けていく。
3 今後の展開
昨年度、ボランティア任期、募集を延長したため、今年度に募集を行う予定である。ウィズコロナの状況に対応できるよう、グループ活動の内容について検討していく。

基本方針B：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

1 前回の委員からの意見
東京都美術館では特別支援学校や院内学級の間合せが増加しており、美術館オンラインプログラムの需要の高まりを実感している。ミュージアムリテラシーを養成する講座や収蔵品の紹介を対話的に行うなどが先生方に求められていると考えられる。(稲庭委員)
2 これまでの対応状況
学校教育との連携に関しては、出張美術講座を状況に応じてオンライン対応で実施している。令和3年度は、高校に対しオンラインでの出張美術講座を1件実施した。特別支援学校に対しても、結果的に現地に出張することになったが、出張ねんど教室を行うにあたり、対面による実施に加え、オンラインによる実施方法を検討し、両面で対応できる体制を整えてきている。
3 今後の展開
今年度、前述のとおり、学校向けのオンライン教育プログラムの開発に着手している。試行的に実施し、内容を改善して、次年度から、教育普及プログラムの一つとして提供していく。 また今年度は、8月から11月にかけて、県内小中高校、特別支援学校、私立学校の会議の場に出向き、出張美術講座や美術館の教育プログラムなどについて説明するなど、学校との連携を更に強化していく。

基本方針B：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

1 前回の委員からの意見
静岡文化芸術大学でも、メーリングリストによる広報を行っていただきたい。(田中委員)
2 これまでの対応状況
<ul style="list-style-type: none">・「古代エジプト展」は7月に、浜松市美術館で開催された移動美術展「静岡県立美術館超名品展」は11月に、大学事務局のメーリングリストによる広報を実施した。・その他「ストーリーズ展」での県立大学事務局を通じての学生への広報や、「忘れられた江戸絵画史の本流展」の教育委員会を通じた県内小中高校への広報も実施した。
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none">・令和4年度も引き続き、各大学事務局に御協力いただきながら、学生への広報に努めていく。・県内小中高校、特別支援学校には、例年「美術館教室のしおり」を配付し、実技体験ができる各種プログラムを紹介している。令和4年度は、これに加え、鑑賞のポイントなどを記載した「企画展ご利用案内」もあわせて配付した。

基本方針C：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

1 前回の委員からの意見
SNS 広報はこれから非常に重要になってくると思う。今の若い世代の方はウェブでの検索をインスタでしか行わないという人も多い。若い世代に美術館を知っていただくためには有料広告などを検討した方が良い。広報ターゲットを決め、広報を打った後の反応を集約して委託業者と上手く連携してやってみると良い。(稲庭委員)
2 これまでの対応状況
<ul style="list-style-type: none">・「忘れられた江戸絵画史の本流展」は、ART PRなど有料のオンライン・プレスリリースの活用により、インターネット、新聞、TVなどの多数のメディアに取り上げられた。特にインターネットの「ニコニコ美術館」では、2時間にわたり放送され、延べ2万人の視聴があった。・古代エジプト展は、展示室の写真撮影を可能としたため、来館者によるSNSでの情報発信がみられた。
3 今後の展開
<ul style="list-style-type: none">・予算上の制約はあるが、新聞、TVだけでなく、今後もオンライン・プレスリリースの活用をしていく。・展覧会における写真撮影については、来館者によるSNS等への情報発信につながるような撮影ポイントを設置するなど、積極的に検討していく。

基本方針C：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

1 前回の委員からの意見
オンラインの内覧会というのをぜひ学芸員の方に定期的にWEB配信をしていただきたい。WEBでのリアルな生配信ではなくて、録画を中心とした配信を毎週1回必ずやる等の検証を重ねながら定期配信というのをぜひ進めていただきたい。(前田委員)
2 これまでの対応状況
令和4年度の「大展示室展」に際し、当館公式ツイッター上で、画像付き開会前カウントダウンを行ったところ、好評を得た。また、当館公式YouTubeチャンネルでは、準備の一貫としての移動壁設置の状況を、学芸員が撮影編集して公開した。さらに、昨年度の「古代エジプト展」に続き、「大展示室展」でも美術系ユーチューバーにご協力いただき番組制作を行うなど、様々な媒体を使って広報を展開した。
3 今後の展開
SNS等での展覧会情報発信には、担当学芸員の監修が不可欠であるが、広報が必要となる会期1カ月前頃は、展覧会本体の準備に追われるため対応が難しい。展覧会の準備を最優先としながらも、副担当を含め美術館全体で調整を図り、広報のための体制作りを進めていく。

○その他の意見に対する対応状況

1 前回の委員からの意見
美術館の自己評価の枠組みを変えると館長から説明があったが、自己評価というものは美術館自身が評価をするのが中心となるので、美術館の活動やあり方を考える上で参考になるような仕組みにして欲しい。説明のための仕組みであるという以前に、自己評価、自己改善のための仕組みであるといった捉え方をして欲しい。(田中委員)
2 対応について
昨年度の第三者評価委員会での説明を経て、評価シートの『県立美術館の目指す姿(基本理念)』とそれを具体化するための基本方針の見直しを行った。 また、令和3年度末に2026(令和8)年度の開館40周年に向けて、5ヵ年計画を策定した。この計画は、今まで美術館が積み重ねてきた自己評価活動とも連動するものであり、5ヵ年計画に基づく美術館活動を、自己評価により検証、改善する枠組みとなる。今後はこれを有効に活用し、活動を発展させていく仕組みとして機能させる。

令和3年度 設置者(県)の取組状況

1 コロナ禍の対応

○デジタル化の推進

文化政策課ではウィズコロナ時代を見据え、県立美術館を安全安心に訪れることができるよう、令和2年度から下記事業の予算化を進め、順次実施している。

・静岡県立美術館デジタルアーカイブ

ウィズコロナ時代における新たな鑑賞形態として、いつでもどこでもウェブ上で収蔵作品に触れることができる「静岡県立美術館デジタルアーカイブ」を新たに導入し、令和4年度から公開している。

・事前予約サービス

時間指定予約をすることで、並ぶことなく企画展に入場できるサービス。混雑が予想される大型企画展を中心に令和3年度から導入している。

・キャッシュレス決済

券売業務の効率化のため、令和4年度中に Air pay を導入する予定。(クレジット、QR コード、電子マネーに対応)

2 教育機関との連携(ふじのくに文化教育プログラム)

文化政策課では、県事業だけでも年間約8.6万人(令和元年度)の子どもに対して、様々な子ども向け事業を実施することができた。

令和4年度から子ども向け事業の全てを1つのプログラムとして体系付け、各学校に「ふじのくに文化教育プログラム」として情報提供することとした。

子ども向け事業一覧を掲載した簡易リーフレットの作成や、県立美術館を含む文化施設のチラシやパンフレットを集約して、県立学校・市立高等学校校長会、私学協会理事長校長会にて、配布・説明している。

また、令和5年度に向けて、プログラム冊子や専用ホームページの制作を検討している。

3 美術館の修繕

文化政策課では、令和3年度に開館から35周年を迎えた静岡県立美術館について、令和元年度に行った劣化診断業務委託の結果をもとに中期維持保全計画（5年間の修繕計画）を資産経営課と連携して策定し、工事などを進めている。

(1) 劣化診断の結果

区分	部材・設備機器	症状	今後の対応
建築	展示移動壁	穴・補修跡が相当数あり	改修
	乗用・荷物用エレベータ	耐用年数超過	更新
	外壁タイル剥離	外壁全面打診調査(R2)結果により実施	改修
電気	ロダン館受変電設備	耐用年数超過、劣化	更新
	監視カメラ設備	保守部品入手不可・機能低下	更新
	展示室スポットライト	照明効率の低下	更新
機械	吸収式冷凍機・スクリー冷凍機	故障頻発、劣化	更新
	ハロゲン消火装置	耐用年数超過	更新
	ファンコイルユニット	故障頻発	更新
舞台	講堂舞台照明	保守部品入手不可、劣化	更新
	講堂舞台音響設備	故障、保守部品入手不可	更新

(2) 中期維持保全計画

(単位：千円)

	R2	R3	R4	R5	R6	合計
委託料	9,768	4,802	35,959	14,368	13,420	78,317
工事費	170,797	240,512	171,204	396,947	127,362	1,106,822
合計	180,565	245,314	207,163	411,315	140,782	1,185,139

※ 特定天井対策工事（R2 3,224千円、R3 70,701千円）は含まない。

(3) 令和3年度美術館改修工事

中期維持保全計画に基づき、改修工事を実施したほか、美術館エントランスホールの特定天井改修工事を行った。（工事期間中は休館）

項目	内容
決算	中期維持保全計画に基づく改修工事 240,512千円
	特定天井改修工事 70,701千円
	合計 311,213千円
工事期間	令和3年9月～令和4年3月
特定天井対策工事	エントランスホール天井をワイヤーにより落下防止措置
その他の改修工事	客用エレベータ・荷物用エレベータ更新、展示室照明LED化、展示室壁改修、屋上防水工事など

令和3年度
静岡県立美術館評価業務
報告書

令和4年3月
静岡県立美術館

令和3年度 静岡県立美術館評価業務 報告書

目 次

I	調査概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 実施概要	1
	(3) 報告書内のデータ記述について	1
II	調査結果概要	2
	(1) 結果概要	2
	(2) 提言	2
III	美術館評価指標の現状値	3
IV	展覧会アンケート結果	4
	(1) 回収状況	4
	(2) 観覧者の属性	6
	1 性別	6
	2 年齢	8
	3 居住地	10
	(3) 観覧者の行動	12
	1 来館回数	12
	1-1 1年以内の来館回数（今回を除く）	14
	2 来館人数	16
	3 来館時の同行者（複数回答可）	18
	4 展覧会に来たきっかけ・理由（複数回答可）	22
	5 勧誘の手段（複数回答可）	28
	(4) 展覧会の評価	32
	1 作品やテーマへの興味・関心の深まり	32
	2 会場における観覧時の心地よさ	34
	3 スタッフの対応の適切さ	36
	4 展覧会のことを勧めたいか	38
	5 情報の入手しやすさ	40
	6 来館の際の主な交通手段	42
	7-1 公共交通機関の利用のスムーズさ	44
	7-2 自家用車の利用のスムーズさ	46
	8 満足度	48
	9 「風景とロダンの美術館」としての認知度	50

(5) レストラン、ミュージアム・ショップアンケート結果.....	52
1 レストランの満足度.....	52
2 ミュージアム・ショップの満足度.....	54
V 美術館ホームページアンケート結果.....	56
(1) 実施数（回答数）.....	56
(2) アンケート結果.....	56
1 ホームページの閲覧頻度.....	56
2 ホームページの情報内容.....	56
3 ホームページの更新頻度.....	57
4 ホームページのデザイン.....	57
5 ホームページの見やすさ.....	58
6 年齢.....	58
7 性別.....	59
8 職業.....	59
VI 自由意見.....	60
A 感想.....	60
B 要望.....	67
C 苦情.....	72

I 調査概要

(1) 調査目的

静岡県立美術館では、評価委員会提言「評価と経営の確立に向けて」（平成 17 年 3 月）を踏まえ、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築している。

今般、館の全体像を把握する評価指標を整理するためアンケートを実施した。

(2) 実施概要

	ストーリーズ ～作品について学芸員 (わたしたち) が知って いること	忘れられた 江戸絵画史の本流 —江戸狩野派の 250 年	古代エジプト展 —天地創造の神話			
会 期	令和 3 年 4 月 6 日 ～ 5 月 16 日	令和 3 年 5 月 22 日 ～ 6 月 27 日	令和 3 年 7 月 10 日 ～ 9 月 5 日			
開催日数	37 日	32 日	51 日			
観覧者数	5,498 人	5,661 人	31,331 人			
1 日あたり平均観覧者数	149 人/日	177 人/日	614 人/日			
アンケート実施日	4 月 11 日 ～ 4 月 18 日	6 件	5 月 22 日 ～ 5 月 30 日	27 件	7 月 10 日 ～ 7 月 25 日	132 件
	4 月 21 日 ～ 5 月 2 日	9 件	6 月 1 日 ～ 6 月 13 日	33 件	7 月 27 日 ～ 8 月 15 日	136 件
	5 月 4 日 ～ 5 月 16 日	57 件	6 月 15 日 ～ 6 月 27 日	47 件	8 月 17 日 ～ 9 月 5 日	129 件
アンケート実施数	72 件	107 件	397 件			
回収率 ※観覧者数に占める実施の割合	1.3%	1.9%	1.3%			

令和 3 年度の今年度は展覧会開催中、調査票を出口付近に置き、来館者の自記式により調査を行った。また、出口付近に QR コードを掲示し、WEB 回答による調査も同時に行った。

『ストーリーズ～作品について学芸員 (わたしたち) が知っていること』では、前期と中期は WEB 回答による調査のみを行った。

(3) 報告書内のデータ記述について

- ・比率は全て百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が 100% にならないことがある。
- ・基数とすべき実数は、表中に「件数」として記載した。比率はこの基数を 100% として算出している。
- ・質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100% を超える場合がある。
- ・平成 27 年度以前の報告書は、無回答を除いて割合を算出している。平成 28 年度以降は無回答を含み集計している。また、本報告書中の表で無回答がないのは、無回答が 0% である。

Ⅱ 調査結果概要

(1) 結果概要

	ストーリーズ ～作品について学芸員（わた したち）が知っていること	忘れられた 江戸絵画史の本流 —江戸狩野派の250年	古代エジプト展 —天地創造の神話		
① 展覧会満足度（展覧会別）	91.7%	87.9%	87.4%		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
② 展覧会満足度（経年）	84.5%	89.4%	85.0%	84.4%	88.0%
③ レストラン満足度	73.2%	71.1%	63.0%	11.7%	9.4%
④ ミュージアム・ショップ満足度	90.5%	95.2%	94.0%	49.1%	39.2%
⑤ ホームページ満足度	72.7%	70.0%	62.5%	71.8%	70.6%

(2) 提言

満足度と評価の相関係数

問	Q5①	Q5②	Q5③	Q5④	Q5⑤	Q5⑦
評 価	作品やテーマへの興味・関心の深まり	会場における観覧時の心地よさ	スタッフの対応の適切さ	展覧会のことを勧めたいか	情報の入手しやすさ	交通機関の利用のスムーズさ
ストーリーズ ～作品について学芸員（わた したち）が知っていること	0.421	0.190	0.156	0.201	0.196	0.212
忘れられた 江戸絵画史の本流 —江戸狩野派の250年	0.365	0.493	0.330	0.483	0.476	0.335
古代エジプト展 —天地創造の神話	0.485	0.572	0.481	0.534	0.315	0.237
全 体	0.455	0.524	0.419	0.489	0.335	0.241

※算出方法：展覧会の評価【Q5①～⑦】の5段階評価を1点～5点に置き換えて相関係数を算出した。ただし無回答については「どちらともいえない（3点）」と換算した。

（『忘れられた江戸絵画史の本流』では、問【Q6①～⑦】となっている。）

※相関係数：-1～1をとる係数で、0に近いほど相関は薄い。1に近づくほど正の相関が、-1に近づくほど負の相関がある。（0.0～±0.2…ほとんど相関がない／±0.2～±0.4…やや相関がある／±0.4～±0.7…相関がある／±0.7～±0.9…強い相関がある／±0.9～±1.0…極めて強い相関がある）

相関係数をみると、評価が高いほど満足度も高い傾向にある項目は、下表のとおり。

ストーリーズ ～作品について学芸員（わた したち）が知っていること	1位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.421
	2位	交通機関の利用のスムーズさ	0.212
	3位	展覧会のことを勧めたいか	0.201
忘れられた 江戸絵画史の本流 —江戸狩野派の250年	1位	会場における観覧時の心地よさ	0.493
	2位	展覧会のことを勧めたいか	0.483
	3位	情報の入手しやすさ	0.476
古代エジプト展 —天地創造の神話	1位	会場における観覧時の心地よさ	0.572
	2位	展覧会のことを勧めたいか	0.534
	3位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.485
全 体	1位	会場における観覧時の心地よさ	0.524
	2位	展覧会のことを勧めたいか	0.489
	3位	作品やテーマへの興味・関心の深まり	0.455

Ⅲ 美術館評価指標の現状値

			R2 実績	R3 実績	展覧会			
					A*	B*	C*	
A	2	展覧会リピート率	55.2%	83.2%	86.1%	87.9%	81.4%	
	3	展覧会満足度	84.4%	88.0%	91.7%	87.9%	87.4%	
	8	鑑賞環境満足度	80.6%	90.3%	94.4%	89.7%	89.7%	
B	23	風景美術館認知度	53.3%	69.8%	70.8%	71.0%	69.3%	
C	25	情報が「入手しやすい」	78.5%	80.0%	83.3%	79.4%	79.6%	
	26	公共交通機関アクセス満足度	68.8%	67.8%	45.0%	83.3%	65.5%	
	27	自家用車アクセス満足度	54.7%	55.7%	35.6%	75.0%	55.1%	
	29	スタッフ対応満足度	83.9%	85.8%	91.7%	85.0%	84.9%	
	34	レストラン満足度	54.3%	52.0%	55.5%	59.1%	49.3%	
	36	ミュージアム・ショップ満足度	67.3%	67.5%	56.1%	68.2%	69.3%	
D	46	ホームページ満足度	71.8%	70.6%				
	51	展覧会での新規観覧者の割合	43.9%	16.7%	12.5%	12.1%	18.6%	
	52	展覧会での新規観覧者満足度	85.5%	88.5%	88.9%	84.6%	89.2%	
	53	地域別利用者割合	東部	14.6%	17.7%	18.1%	12.1%	19.1%
			中部	36.7%	59.4%	63.9%	55.1%	59.7%
			西部	14.9%	14.4%	16.7%	12.1%	14.6%
			県外	30.8%	7.1%	1.4%	18.7%	5.0%
54	2・3世代観覧割合	38.0%	50.0%	35.1%	26.7%	56.2%		

*展覧会A・・・ストーリーズ～作品について学芸員（わたしたち）が知っていること
 展覧会B・・・忘れられた江戸絵画史の本流―江戸狩野派の250年
 展覧会C・・・古代エジプト展―天地創造の神話

*公共交通機関アクセス満足度は、公共交通機関を利用した人を母数として集計をしています。同様に自家用車アクセス満足度は、自家用車を利用した人を母数として集計をしています。

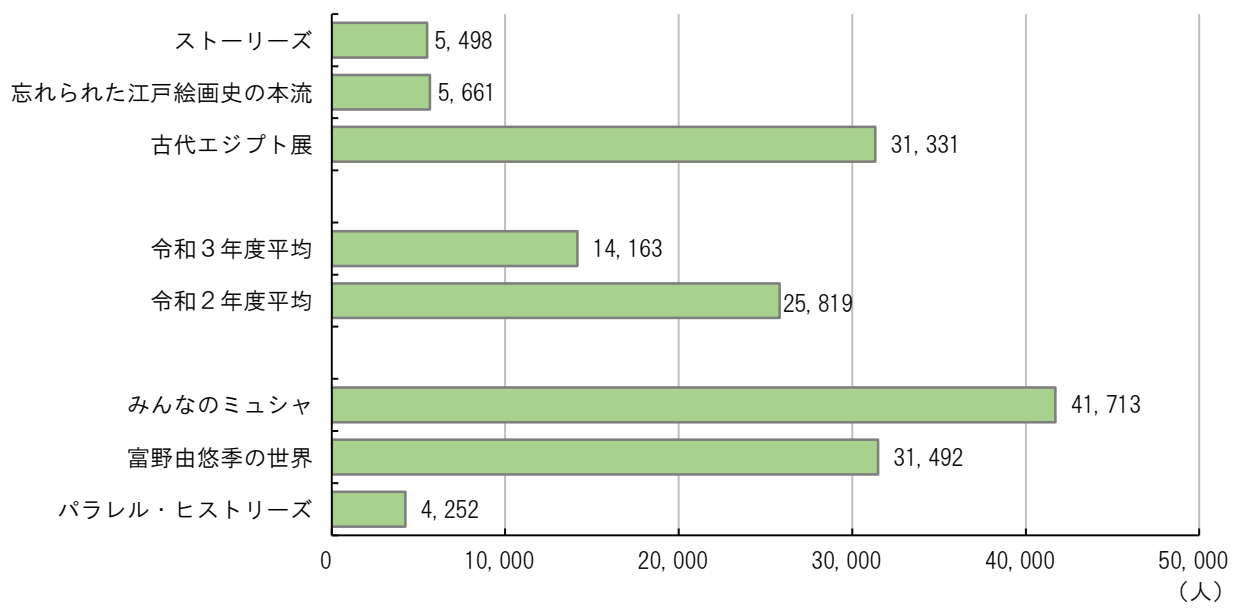
*レストラン満足度は、レストランを利用した人を母数として集計をしています。同様にミュージアム・ショップ満足度は、ミュージアム・ショップを利用した人を母数として集計をしています。

*2・3世代観覧割合は、2人以上で来館し、自分の親、自分の子ども、自分の祖父母、自分の孫と回答した該当者の割合として集計をしています。

Ⅳ 展覧会アンケート結果

(1) 回収状況

		観覧者数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)
令和 3 年度	ストーリーズ	5,498	72	1.3
	忘れられた江戸絵画史の本流	5,661	107	1.9
	古代エジプト展	31,331	397	1.3
経 年	令和3年度平均	14,163	192	1.4
	令和2年度平均	25,819	372	1.4
令和 2 年度	みんなのミュシャ	41,713	331	0.8
	富野由悠季の世界	31,492	695	2.2
	パラレル・ヒストリーズ	4,252	89	2.0



(2) 観覧者の属性

1 性別 ※「その他」は令和3年度『忘れられた江戸絵画史の本流』『古代エジプト展』のみの選択肢全体

		件数 (件)	男性	女性	その他	無回答
令和3年度	ストーリーズ	72	43.1	55.6	-	1.4
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	46.7	53.3	0.0	0.0
	古代エジプト展	397	35.5	62.7	1.3	0.5
経年	令和3年度全体	576	38.5	60.1	0.9	0.5
	令和2年度全体	1115	63.0	34.4	-	2.5
令和2年度	みんなのミュシャ	331	29.0	67.4	-	3.6
	富野由悠季の世界	695	81.2	17.0	-	1.9
	パラレル・ヒストリーズ	89	48.3	48.3	-	3.4

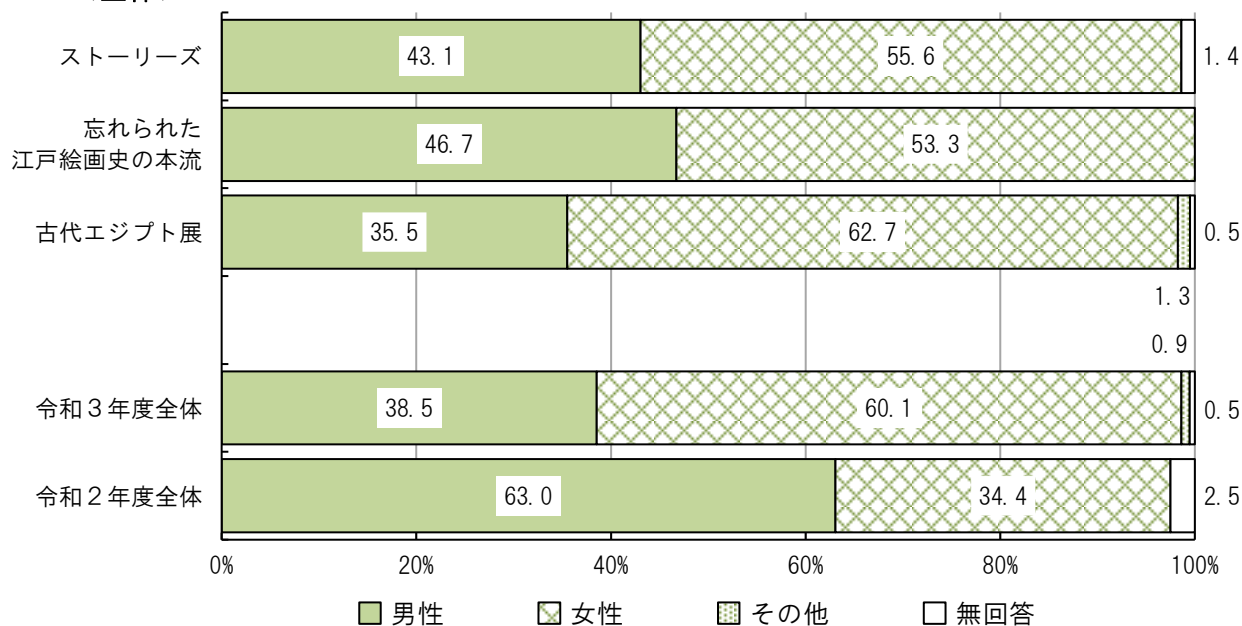
単位：％

新規来館者

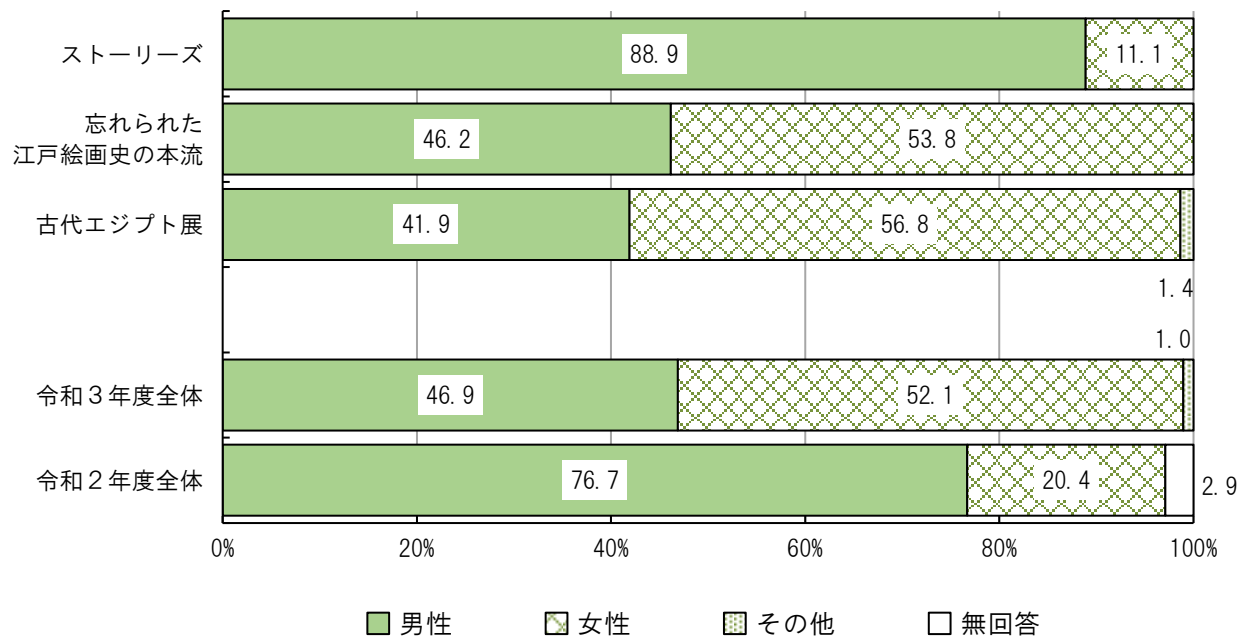
		件数 (件)	男性	女性	その他	無回答
令和3年度	ストーリーズ	9	88.9	11.1	-	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	46.2	53.8	0.0	0.0
	古代エジプト展	74	41.9	56.8	1.4	0.0
経年	令和3年度全体	96	46.9	52.1	1.0	0.0
	令和2年度全体	490	76.7	20.4	-	2.9
令和2年度	みんなのミュシャ	92	33.7	59.8	-	6.5
	富野由悠季の世界	393	86.8	11.2	-	2.0
	パラレル・ヒストリーズ	5	80.0	20.0	-	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



性別について、令和3年度全体は、「男性」38.5%、「女性」60.1%、「その他」0.9%と、令和2年度全体より「男性」が24.5ポイント低くなり、「女性」が25.7ポイント高くなっている。

展覧会別にみると、いずれの展覧会でも「男性」より「女性」の割合が高いが、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「男性」46.7%と他の展覧会と比べ高く、『古代エジプト展』では「女性」62.7%と他の展覧会と比べ高くなっている。

新規来館者の令和3年度全体は、「男性」46.9%、「女性」52.1%、「その他」1.0%と、令和2年度全体より「男性」が29.8ポイント低くなり、「女性」が31.7ポイント高くなっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「男性」88.9%、「女性」11.1%と「男性」の方が高くなっている。『忘れられた江戸絵画史の本流』では「男性」46.7%、「女性」53.3%と「女性」の方が高く、『古代エジプト展』でも「男性」41.9%、「女性」56.8%と「女性」の方が高くなっている。

2 年齢

全体

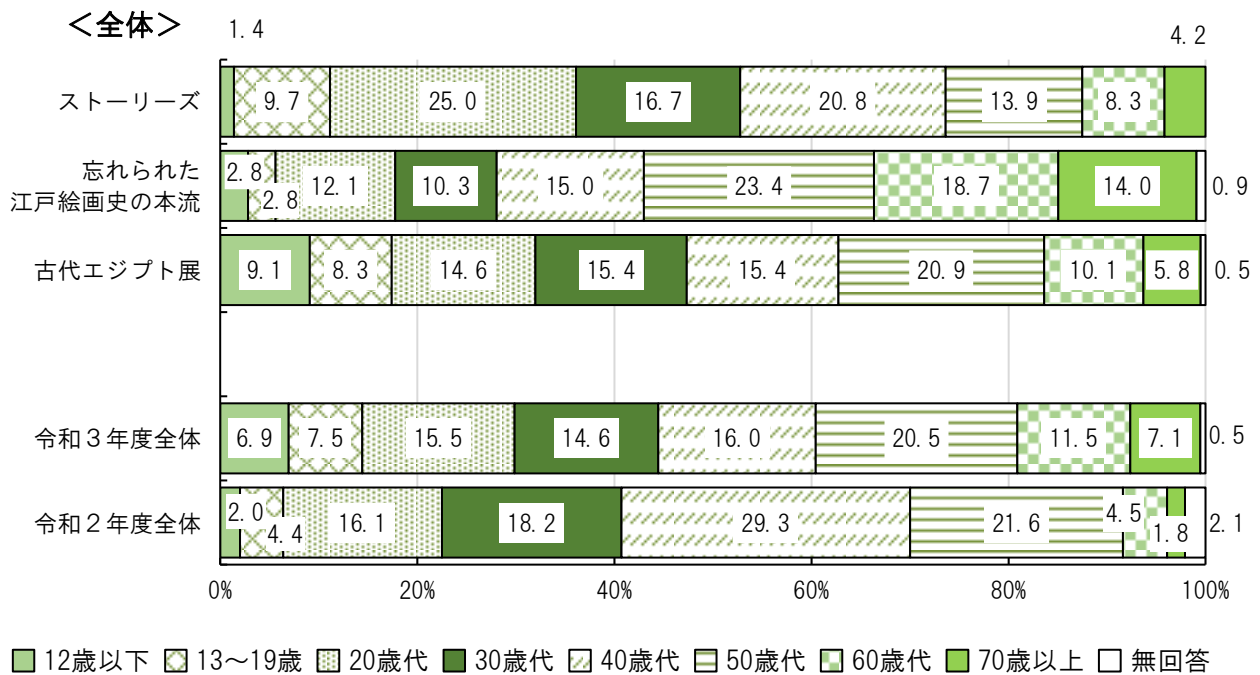
		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上	無 回 答
令和 3 年度	ストーリーズ	72	1.4	9.7	25.0	16.7	20.8	13.9	8.3	4.2	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	2.8	2.8	12.1	10.3	15.0	23.4	18.7	14.0	0.9
	古代エジプト展	397	9.1	8.3	14.6	15.4	15.4	20.9	10.1	5.8	0.5
経 年	令和3年度全体	576	6.9	7.5	15.5	14.6	16.0	20.5	11.5	7.1	0.5
	令和2年度全体	1115	2.0	4.4	16.1	18.2	29.3	21.6	4.5	1.8	2.1
令和 2 年度	みんなのミュシャ	331	5.1	7.9	18.7	14.8	22.1	19.6	6.9	1.5	3.3
	富野由悠季の世界	695	0.4	2.6	14.8	20.1	35.3	22.7	2.2	0.6	1.3
	パラレル・ヒストリーズ	89	2.2	5.6	16.9	15.7	10.1	20.2	13.5	12.4	3.4

単位：％

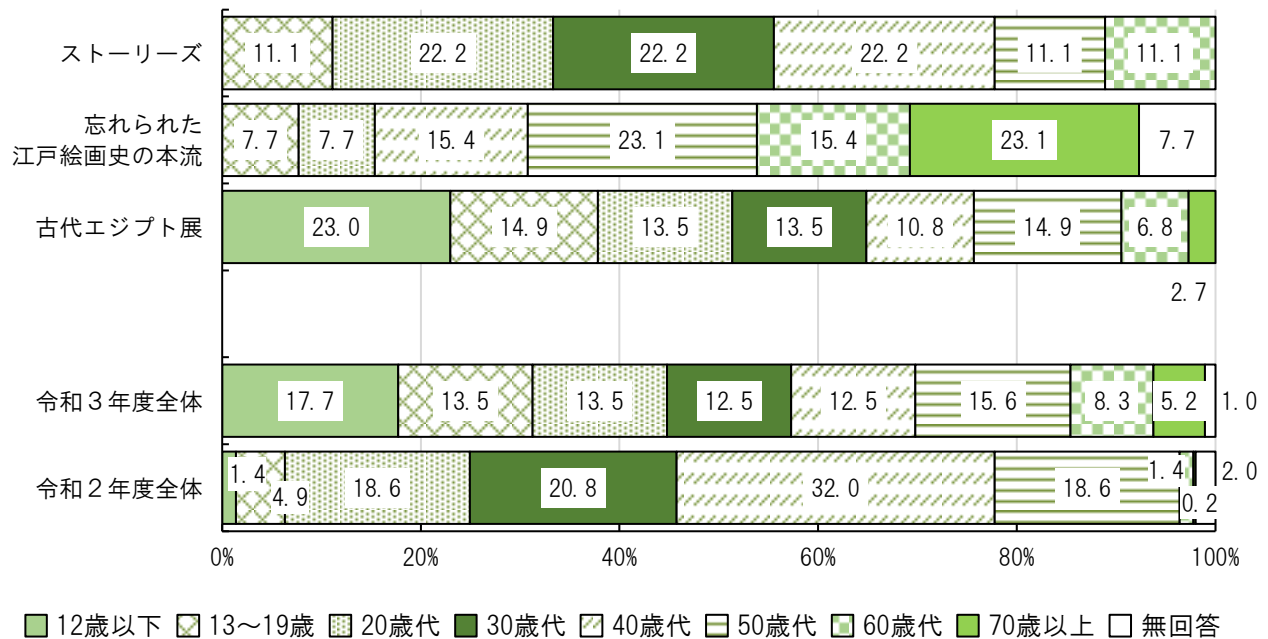
新規来館者

		件数 (件)	12 歳 以下	13 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上	無 回 答
令和 3 年度	ストーリーズ	9	0.0	11.1	22.2	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	7.7	7.7	0.0	15.4	23.1	15.4	23.1	7.7
	古代エジプト展	74	23.0	14.9	13.5	13.5	10.8	14.9	6.8	2.7	0.0
経 年	令和3年度全体	96	17.7	13.5	13.5	12.5	12.5	15.6	8.3	5.2	1.0
	令和2年度全体	490	1.4	4.9	18.6	20.8	32.0	18.6	1.4	0.2	2.0
令和 2 年度	みんなのミュシャ	92	6.5	10.9	25.0	19.6	18.5	7.6	4.3	1.1	6.5
	富野由悠季の世界	393	0.0	3.1	16.8	21.4	35.6	21.4	0.8	0.0	1.0
	パラレル・ヒストリーズ	5	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：％



<新規来館者>



年齢について、令和3年度全体は、「50歳代」20.5%と最も高く、次いで「40歳代」16.0%、「20歳代」15.5%の順となっている。

展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「20歳代」25.0%と最も高く、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「50歳代」23.4%、『古代エジプト展』では「50歳代」20.9%と最も高くなっている。

新規来館者の令和3年度全体は、「12歳以下」17.7%と最も高く、次いで「50歳代」15.6%、「13~19歳」「20歳代」13.5%の順となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「20歳代」「30歳代」「40歳代」22.2%と最も高く、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「50歳代」「70歳以上」23.1%、『古代エジプト展』では「12歳以下」23.0%と最も高くなっている。

3 居住地

全体

		件数 (件)	静岡市	中部 (静岡市以外)	西部	東部	賀茂	県内 (詳細不明)	県外	無回答
令和3年度	ストーリーズ	72	51.4	12.5	16.7	18.1	0.0	0.0	1.4	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	47.7	7.5	12.1	12.1	0.0	0.9	18.7	0.9
	古代エジプト展	397	48.6	11.1	14.6	18.9	0.3	0.8	5.0	0.8
経年	令和3年度全体	576	48.8	10.6	14.4	17.5	0.2	0.7	7.1	0.7
	令和2年度全体	1115	30.0	6.7	14.9	14.6	0.1	0.6	30.8	2.2
令和2年度	みんなのミュシャ	331	37.8	7.9	16.6	24.2	0.0	1.8	8.8	3.0
	富野由悠季の世界	695	22.3	6.2	14.5	10.6	0.1	0.1	44.0	2.0
	パラレル・ヒストリーズ	89	61.8	6.7	11.2	10.1	0.0	0.0	9.0	1.1

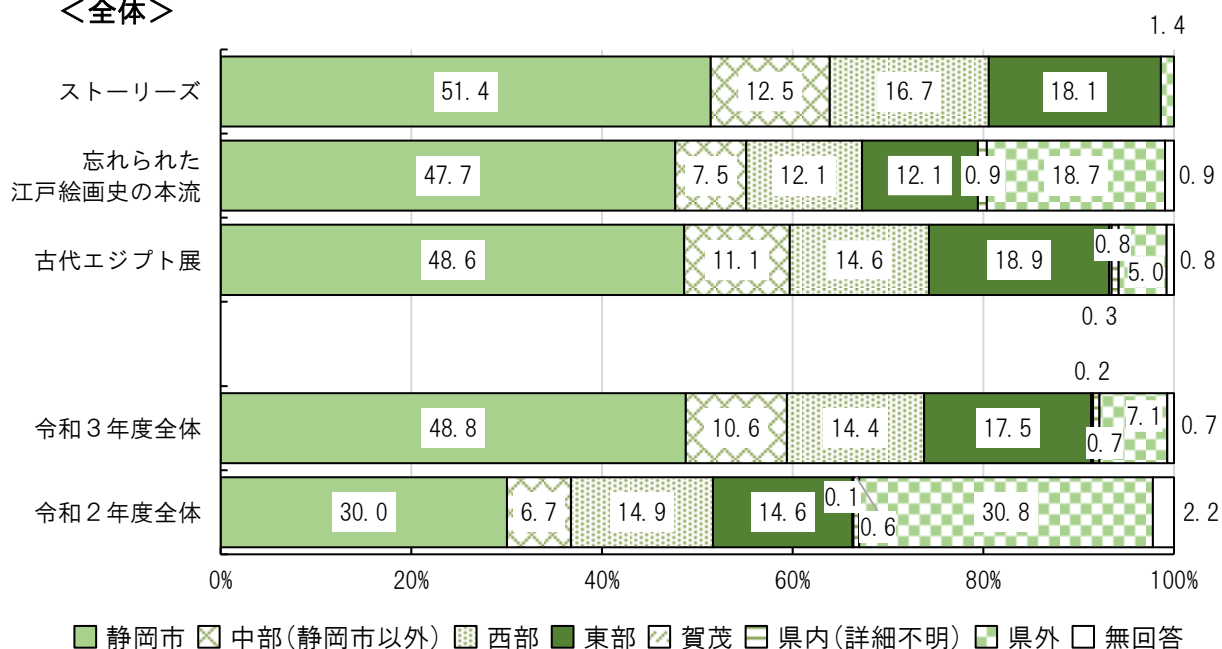
単位：％

新規来館者

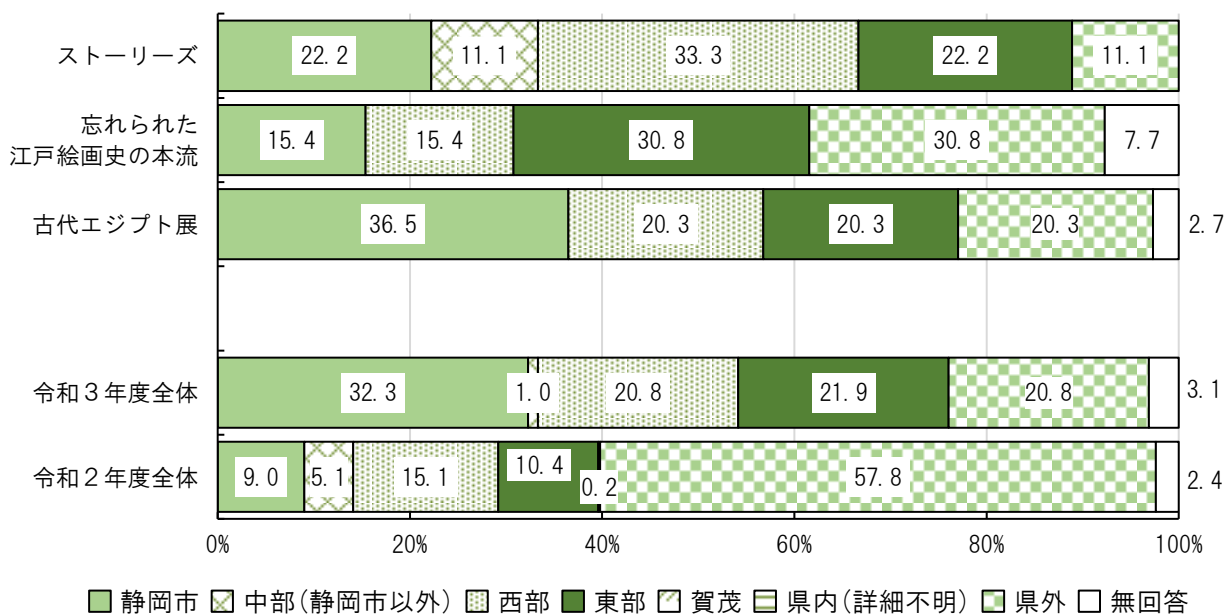
		件数 (件)	静岡市	中部 (静岡市以外)	西部	東部	賀茂	県内 (詳細不明)	県外	無回答
令和3年度	ストーリーズ	9	22.2	11.1	33.3	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	15.4	0.0	15.4	30.8	0.0	0.0	30.8	7.7
	古代エジプト展	74	36.5	0.0	20.3	20.3	0.0	0.0	20.3	2.7
経年	令和3年度全体	96	32.3	1.0	20.8	21.9	0.0	0.0	20.8	3.1
	令和2年度全体	490	9.0	5.1	15.1	10.4	0.0	0.2	57.8	2.4
令和2年度	みんなのミュシャ	92	21.7	5.4	22.8	20.7	0.0	1.1	21.7	6.5
	富野由悠季の世界	393	5.6	5.1	13.0	7.9	0.0	0.0	66.9	1.5
	パラレル・ヒストリーズ	5	40.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



居住地について、令和3年度全体は、「静岡市」48.8%と最も高く、次いで「東部」17.5%、「西部」14.4%の順となっている。

展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「静岡市」51.4%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「静岡市」47.7%、『古代エジプト展』では「静岡市」48.6%といずれの展覧会でも静岡市が最も高くなっている。『忘れられた江戸絵画史の本流』では「県外」18.7%と他の展覧会と比べ高くなっている。

新規来館者の令和3年度全体は、「静岡市」32.3%と最も高く、次いで「東部」21.9%、「西部」「県外」20.8%の順となっている。令和2年度全体と比べると、「県外」は37.0ポイント低くなり、「静岡市」は23.3ポイント高くなっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「西部」33.3%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「東部」「県外」30.8%、『古代エジプト展』では「静岡市」36.5%と最も高くなっている。

(3) 観覧者の行動

1 来館回数

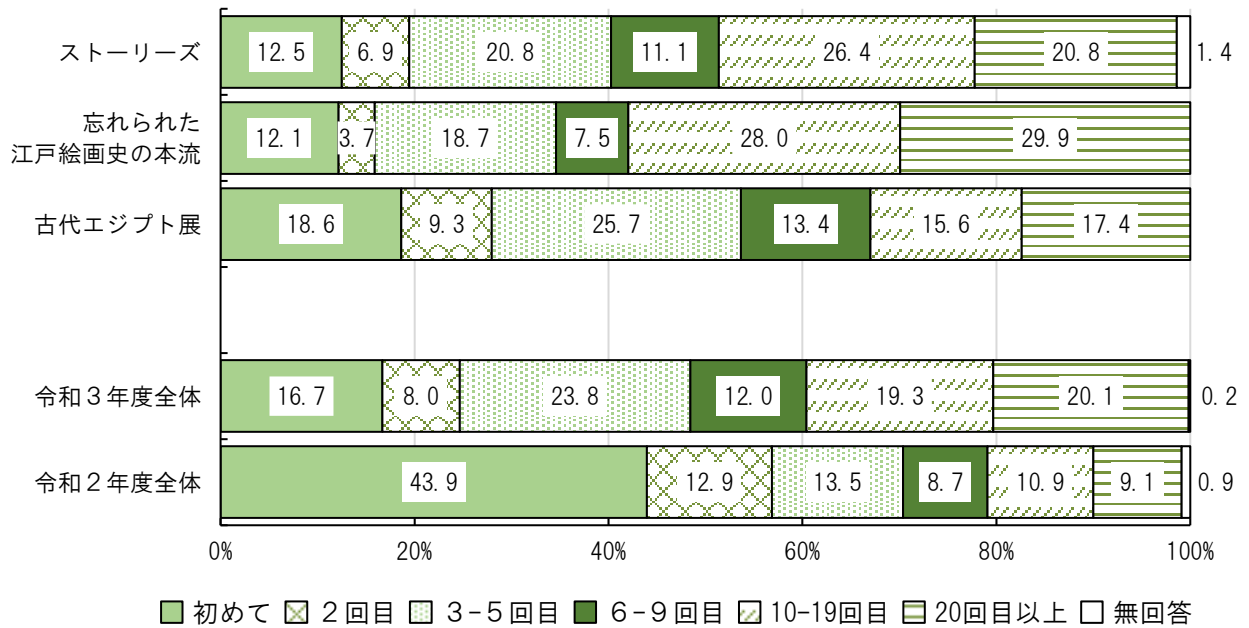
Q1 静岡県立美術館に来館するのは今日が何回目ですか。○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	初め て	2 回 目	3 - 5 回 目	6 - 9 回 目	10 - 19 回 目	20 回 目 以上	無 回 答
令和 3 年 度	ストーリーズ	72	12.5	6.9	20.8	11.1	26.4	20.8	1.4
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	12.1	3.7	18.7	7.5	28.0	29.9	0.0
	古代エジプト展	397	18.6	9.3	25.7	13.4	15.6	17.4	0.0
経 年	令和3年度全体	576	16.7	8.0	23.8	12.0	19.3	20.1	0.2
	令和2年度全体	1115	43.9	12.9	13.5	8.7	10.9	9.1	0.9
令和 2 年 度	みんなのミュシャ	331	27.8	13.6	21.5	8.8	16.6	10.3	1.5
	富野由悠季の世界	695	56.5	13.7	10.2	8.3	6.3	4.3	0.6
	パラレル・ヒストリーズ	89	5.6	4.5	10.1	11.2	25.8	41.6	1.1

単位：%

<全体>



来館回数について、令和3年度全体は、「3-5回目」23.8%と最も高く、次いで「20回目以上」20.1%、「10-19回目」19.3%の順となっている。令和2年度全体と比べると、「3-5回目」は10.3ポイント、「20回目以上」は11.0ポイント高くなり、「初めて」は27.2ポイント低くなっている。

展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「10-19回目」26.4%と最も高く、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「20回目以上」29.9%、『古代エジプト展』では「3-5回目」25.7%と最も高くなっている。『古代エジプト展』では「初めて」18.6%と他の展覧会と比べて高くなっている。

1-1 1年以内の来館回数（今回を除く）

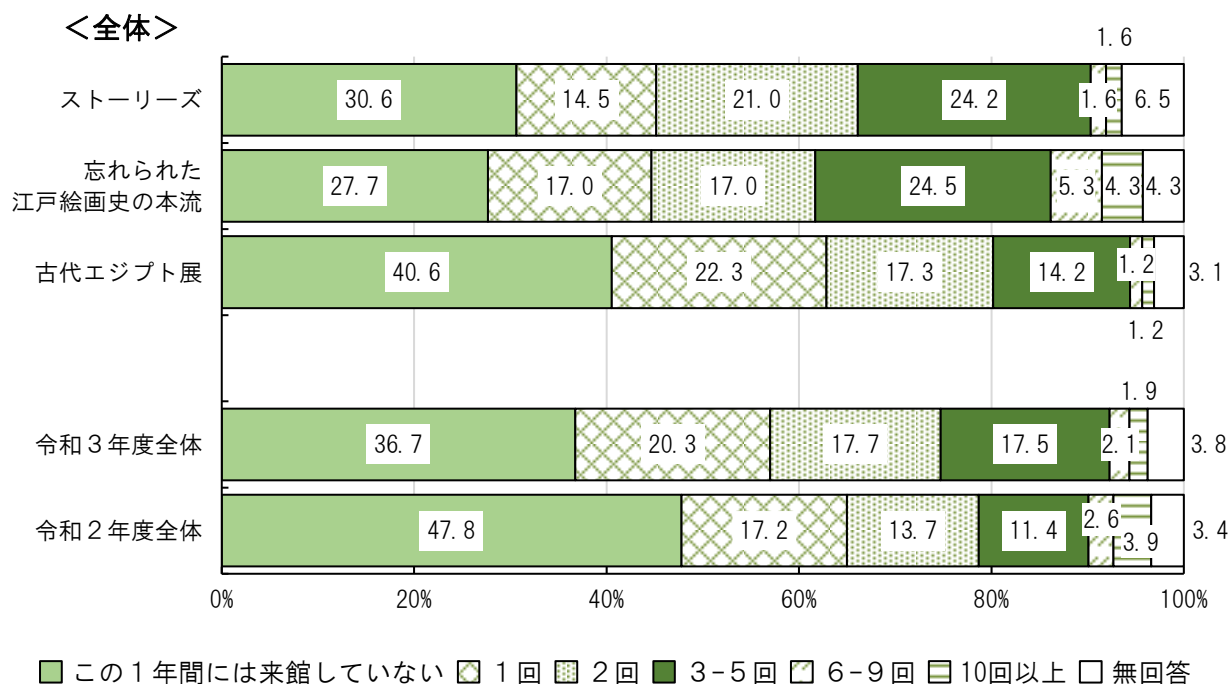
来館回数で、2回目以降の来館と回答した方のみ

Q1で、「2～6」と回答した方（2回目以降の来館の方）にお尋ねします。
 Q1-1 今日以外の、この1年間で当美術館に何回ご来館になりましたか。
 ○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	てにこ いはの ない 来1 館年 し間	1 回	2 回	3 - 5 回	6 - 9 回	10 回 以上	無 回 答
令和3 年度	ストーリーズ	62	30.6	14.5	21.0	24.2	1.6	1.6	6.5
	忘れられた江戸絵画史の本流	94	27.7	17.0	17.0	24.5	5.3	4.3	4.3
	古代エジプト展	323	40.6	22.3	17.3	14.2	1.2	1.2	3.1
経 年	令和3年度全体	479	36.7	20.3	17.7	17.5	2.1	1.9	3.8
	令和2年度全体	615	47.8	17.2	13.7	11.4	2.6	3.9	3.4
令和2 年度	みんなのミュシャ	234	49.6	16.7	15.8	9.4	0.9	2.6	5.1
	富野由悠季の世界	298	56.4	19.1	11.7	8.1	1.3	1.3	2.0
	パラレル・ヒストリーズ	83	12.0	12.0	14.5	28.9	12.0	16.9	3.6

単位：%



1年以内の来館回数について、令和3年度全体は、「この1年間には来館していない」36.7%と最も高く、次いで「1回」20.3%、「2回」17.7%の順となっている。令和2年度全体と比べると、「この1年間には来館していない」は11.1ポイント低くなり、「10回以上」は2.0ポイント低くなっているが、「3-5回」は6.1ポイント高くなっている。

展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「この1年間には来館していない」30.6%、次いで「3-5回」24.2%、「2回」21.0%の順となっている。『忘れられた江戸絵画史の本流』では「この1年間には来館していない」27.7%、「3-5回」24.5%、「1回」「2回」17.0%の順となっている。『古代エジプト展』では「この1年間には来館していない」40.6%、「1回」22.3%、「2回」17.3%の順となっている。

2 来館人数

Q2 今日は何人でおいでになりましたか。数字を右づめでご記入ください。

全体

		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上	無 回 答
令和 3 年度	ストーリーズ	72	48.6	37.5	13.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	57.9	36.4	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	古代エジプト展	397	35.0	40.1	13.6	8.6	1.3	1.5	0.0
経 年	令和3年度全体	576	41.0	39.1	12.2	5.9	0.9	1.0	0.0
	令和2年度全体	1115	53.3	32.9	7.1	3.6	0.4	1.1	1.6
令和 2 年度	みんなのミュシャ	331	36.0	40.5	11.5	7.3	1.2	1.2	2.4
	富野由悠季の世界	695	61.2	29.1	5.2	2.0	0.1	1.2	1.3
	パラレル・ヒストリーズ	89	56.2	34.8	5.6	2.2	0.0	0.0	1.1

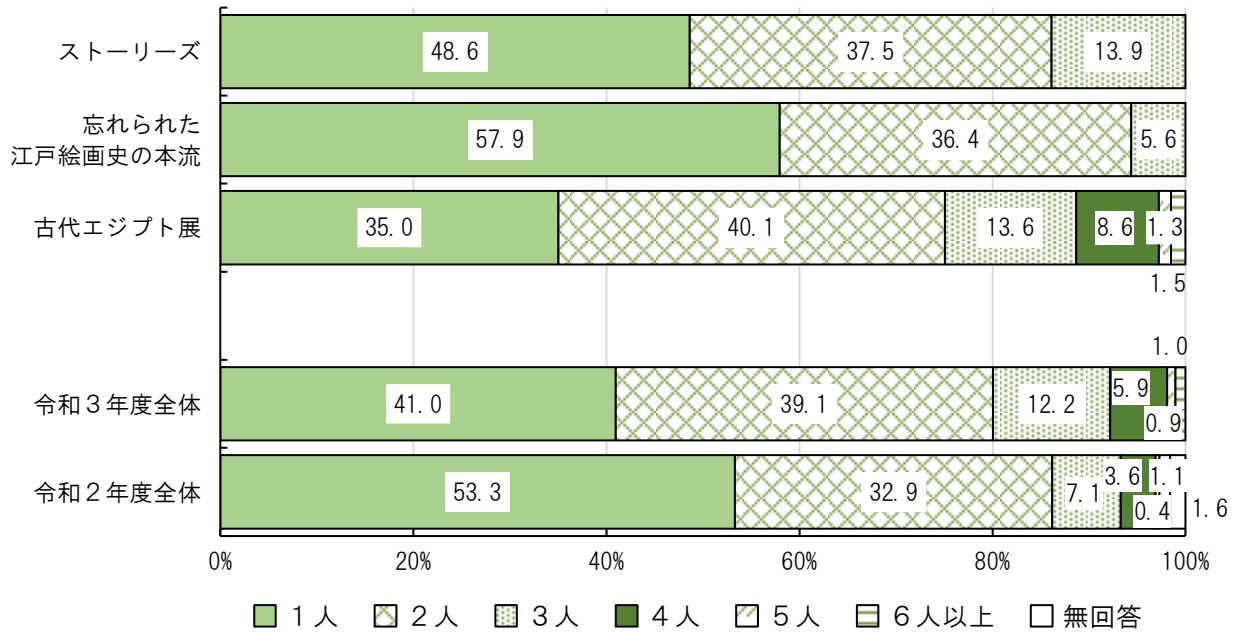
単位：％

新規来館者

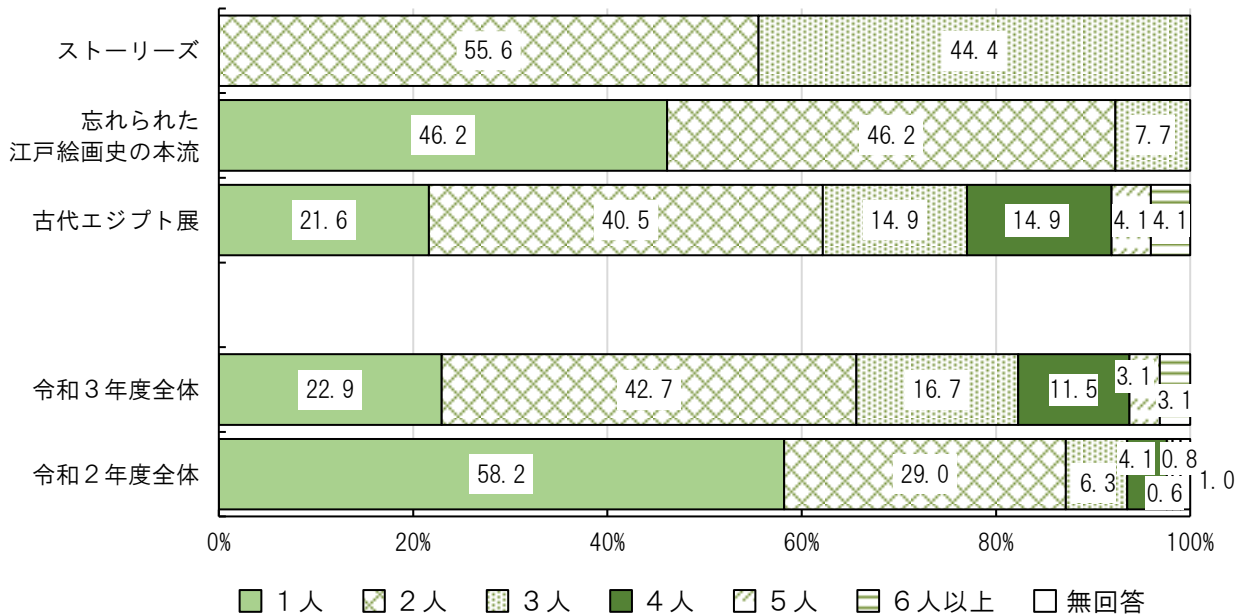
		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上	無 回 答
令和 3 年度	ストーリーズ	9	0.0	55.6	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	46.2	46.2	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	古代エジプト展	74	21.6	40.5	14.9	14.9	4.1	4.1	0.0
経 年	令和3年度全体	96	22.9	42.7	16.7	11.5	3.1	3.1	0.0
	令和2年度全体	490	58.2	29.0	6.3	4.1	0.6	0.8	1.0
令和 2 年度	みんなのミュシャ	92	32.6	38.0	12.0	13.0	2.2	0.0	2.2
	富野由悠季の世界	393	64.4	27.0	4.8	1.8	0.3	1.0	0.8
	パラレル・ヒストリーズ	5	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



来館人数について、令和3年度全体は、「1人」41.0%と最も高く、次いで「2人」39.1%、「3人」12.2%の順となっている。

展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「1人」48.6%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「1人」57.9%と最も高いが、『古代エジプト展』では「2人」40.1%と最も高くなっている。『古代エジプト展』では「4人」8.6%と他の展覧会と比べて高くなっている。

新規来館者の令和3年度全体は、「2人」42.7%と最も高く、次いで「1人」22.9%、「3人」16.7%の順になっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「2人」55.6%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「1人」「2人」46.2%、『古代エジプト展』では「2人」40.5%が最も高くなっている。

3 来館時の同行者（複数回答可）

来館人数で、2人以上で来館したと回答した方のみ

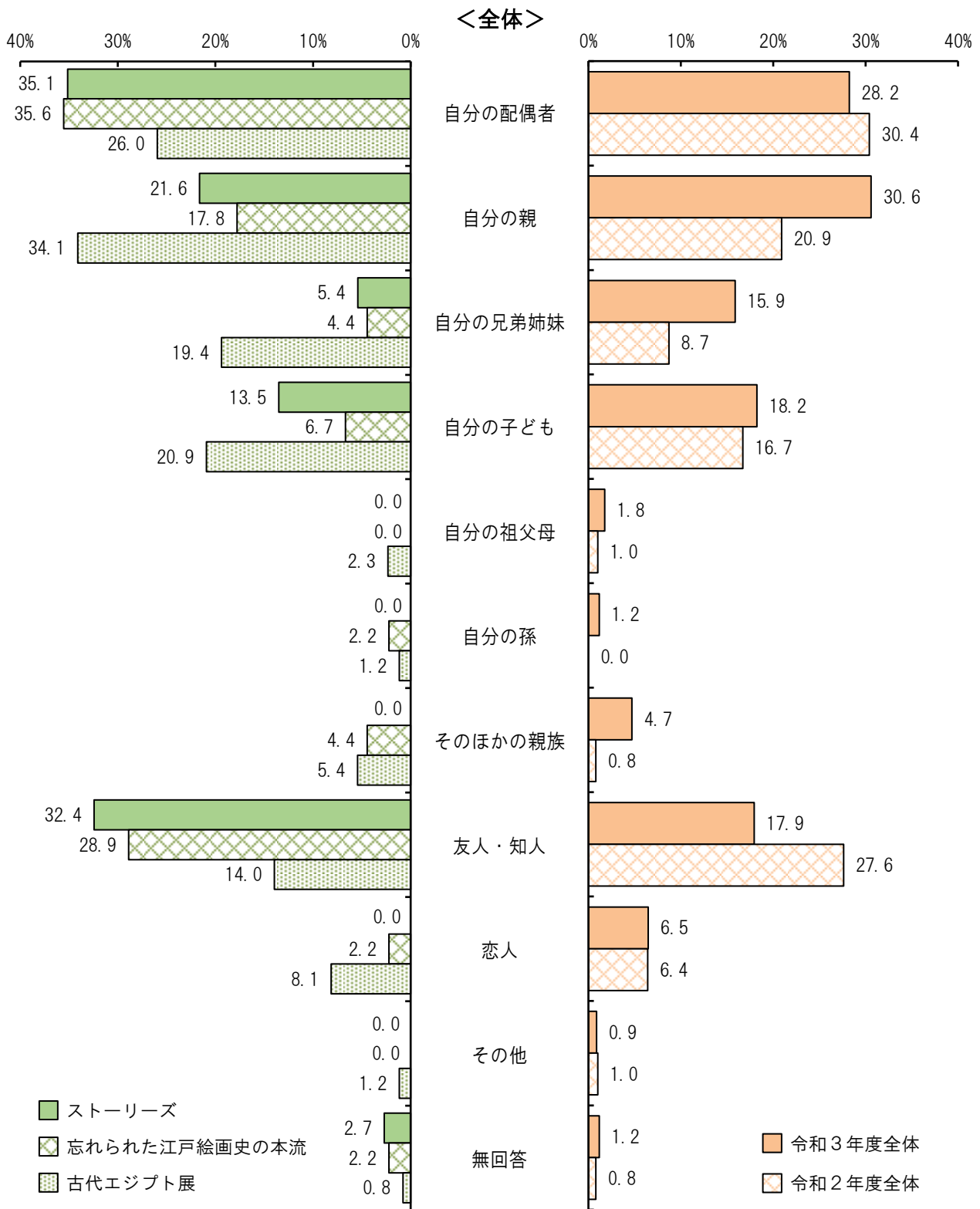
Q2で、「2人」以上と回答した方にお尋ねします。

Q2-1 今日は何人とおいでになりましたか。該当するものすべてに○をお付けください。

全体

		件数 (件)	自分の 配偶者	自分の 親	姉妹 自分の 兄弟	自分の 子ども	自分の 祖父母	自分の 孫	親族 そのほかの	友人・ 知人	恋人	その他	無回答
令和3年度	ストーリーズ	37	35.1	21.6	5.4	13.5	0.0	0.0	0.0	32.4	0.0	0.0	2.7
	忘れられた 江戸絵画史の本流	45	35.6	17.8	4.4	6.7	0.0	2.2	4.4	28.9	2.2	0.0	2.2
	古代エジプト展	258	26.0	34.1	19.4	20.9	2.3	1.2	5.4	14.0	8.1	1.2	0.8
経年	令和3年度全体	340	28.2	30.6	15.9	18.2	1.8	1.2	4.7	17.9	6.5	0.9	1.2
	令和2年度全体	503	30.4	20.9	8.7	16.7	1.0	0.0	0.8	27.6	6.4	1.0	0.8
令和2年度	みんなのミュシャ	204	29.4	33.8	11.8	20.6	2.0	0.0	0.5	16.7	4.9	1.0	0.5
	富野由悠季の世界	261	30.7	9.6	6.9	13.8	0.4	0.0	1.1	37.5	7.7	1.1	1.1
	パラレル・ヒストリーズ	38	34.2	28.9	5.3	15.8	0.0	0.0	0.0	18.4	5.3	0.0	0.0

単位：%



来館時の同行者について、令和3年度全体は、「自分の親」30.6%と最も高く、次いで「自分の配偶者」28.2%、「自分の子ども」18.2%の順となっている。令和2年度全体と比べると、「自分の親」は9.7ポイント高くなり、「自分の配偶者」は2.2ポイント低くなっている。

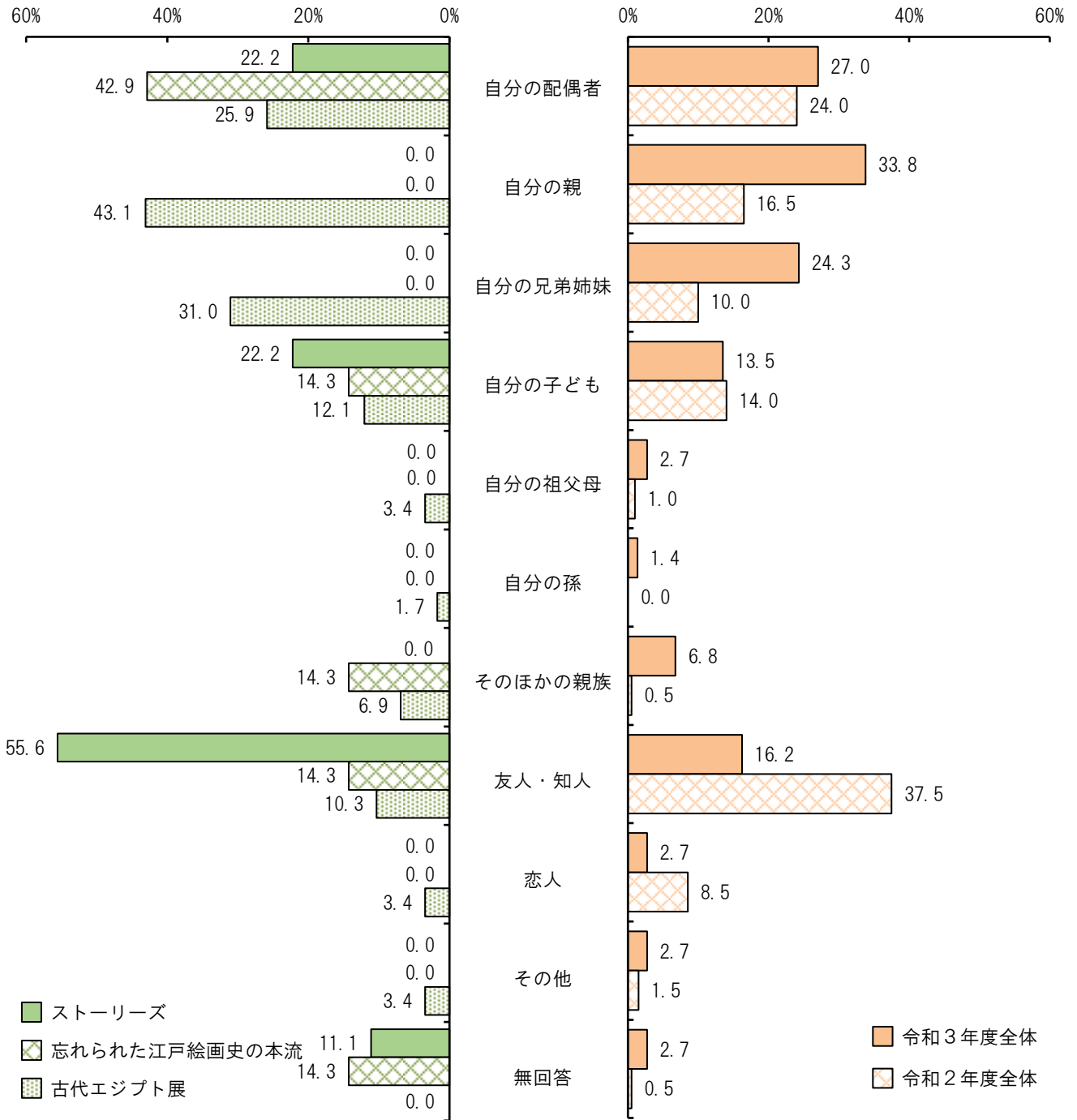
展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「自分の配偶者」35.1%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「自分の配偶者」35.6%、『古代エジプト展』では「自分の親」34.1%が最も高くなっている。『古代エジプト展』では「自分の親」34.1%、「自分の兄弟姉妹」19.4%、「自分の子ども」20.9%と他の展覧会と比べて高くなっている。

新規来館者

		件数 (件)	自分の 配偶者	自分の 親	姉妹 自分の 兄弟	自分の 子ども	自分の 祖父母	自分の 孫	親族 そのほか の	友人・ 知人	恋人	その他	無回答
令和3 年度	ストーリーズ	9	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	55.6	0.0	0.0	11.1
	忘れられた 江戸絵画史の本流	7	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3
	古代エジプト展	58	25.9	43.1	31.0	12.1	3.4	1.7	6.9	10.3	3.4	3.4	0.0
経 年	令和3年度全体	74	27.0	33.8	24.3	13.5	2.7	1.4	6.8	16.2	2.7	2.7	2.7
	令和2年度全体	200	24.0	16.5	10.0	14.0	1.0	0.0	0.5	37.5	8.5	1.5	0.5
令和2 年度	みんなのミュシャ	60	25.0	36.7	15.0	25.0	1.7	0.0	1.7	15.0	10.0	0.0	0.0
	富野由悠季の世界	137	23.4	6.6	7.3	9.5	0.7	0.0	0.0	48.2	8.0	2.2	0.7
	パラレル・ヒストリーズ	3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%

＜新規来館者＞



新規来館者の令和3年度全体は、「自分の親」33.8%と最も高く、次いで「自分の配偶者」27.0%、「自分の兄弟姉妹」24.3%の順となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「友人・知人」55.6%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「自分の配偶者」42.9%、『古代エジプト展』では「自分の親」43.1%が最も高くなっている。

4 展覧会に来たきっかけ・理由（複数回答可）

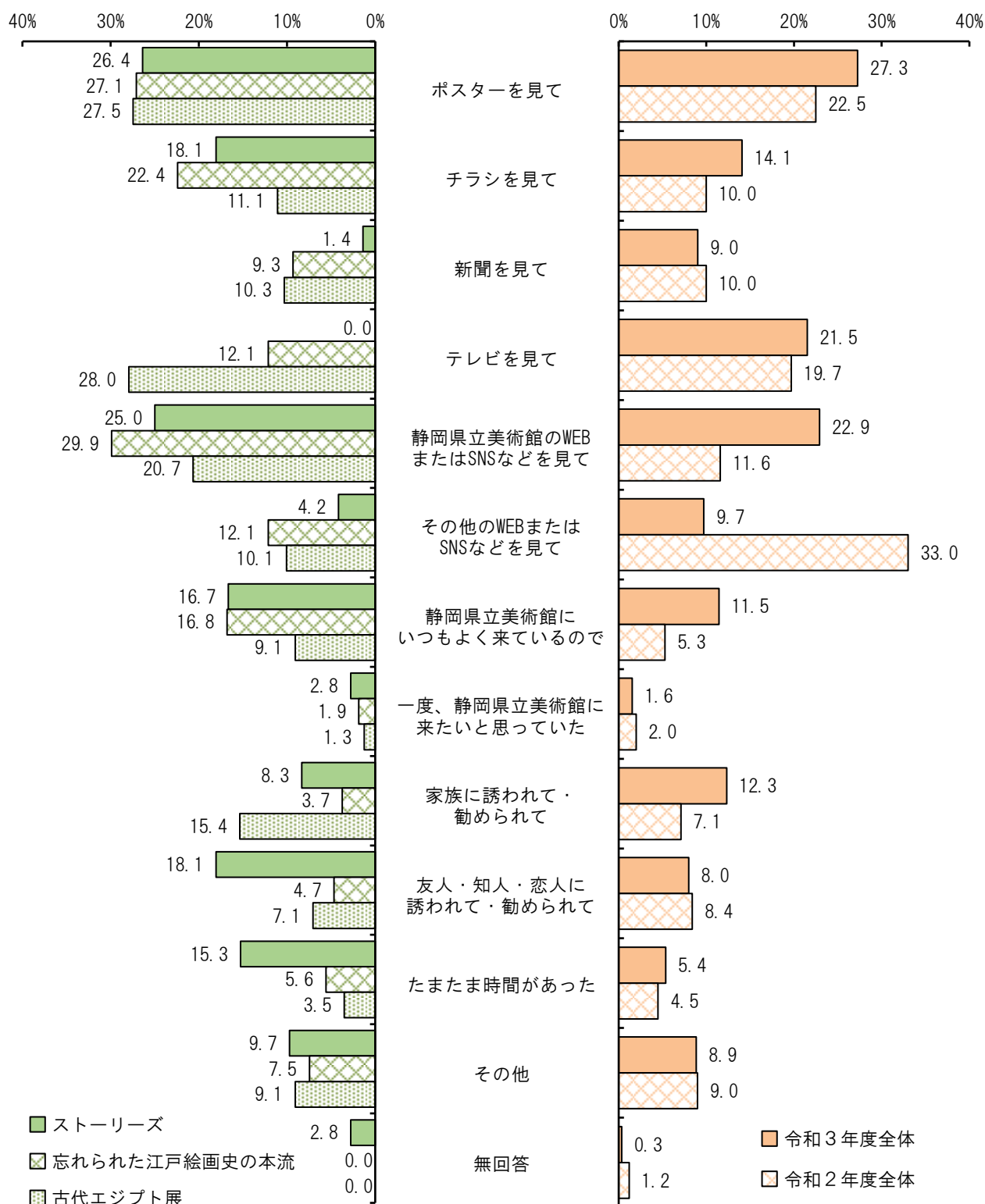
Q3 この展覧会に来た「きっかけ」、「理由」は何ですか。該当するものすべてに○をお付けください。

全体

		件数 (件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	静岡県立美術館のWEB またはSNSなどを見て	その他のWEBまたは SNSなどを見て	静岡県立美術館に いつもよく来ているので	一度、静岡県立美術館に 来たいと思っていた	家族に誘われて・ 勧められて	友人・知人・恋人に 誘われて・勧められて	たまたま時間があつた	その他	無回答
令和3年度	ストーリーズ	72	26.4	18.1	1.4	0.0	25.0	4.2	16.7	2.8	8.3	18.1	15.3	9.7	2.8
	忘れられた 江戸絵画史の本流	107	27.1	22.4	9.3	12.1	29.9	12.1	16.8	1.9	3.7	4.7	5.6	7.5	0.0
	古代エジプト展	397	27.5	11.1	10.3	28.0	20.7	10.1	9.1	1.3	15.4	7.1	3.5	9.1	0.0
経年	令和3年度全体	576	27.3	14.1	9.0	21.5	22.9	9.7	11.5	1.6	12.3	8.0	5.4	8.9	0.3
	令和2年度全体	1115	22.5	10.0	10.0	19.7	11.6	33.0	5.3	2.0	7.1	8.4	4.5	9.0	1.2
令和2年度	みんなのミュシャ	331	33.2	12.1	6.6	48.6	12.4	7.6	5.1	3.3	12.1	6.6	4.8	5.4	1.8
	富野由悠季の世界	695	16.5	7.9	12.7	8.1	9.9	48.8	1.7	1.4	4.7	9.4	3.6	10.9	0.7
	パラレル・ヒストリーズ	89	29.2	18.0	1.1	3.4	21.3	4.5	33.7	1.1	6.7	7.9	10.1	6.7	2.2

単位：%

＜全体＞



展覧会に来たきっかけ・理由について、令和3年度全体は、「ポスターを見て」27.3%と最も高く、次いで「静岡県立美術館のWEB または SNS などを見て」22.9%、「テレビを見て」21.5%の順となっている。

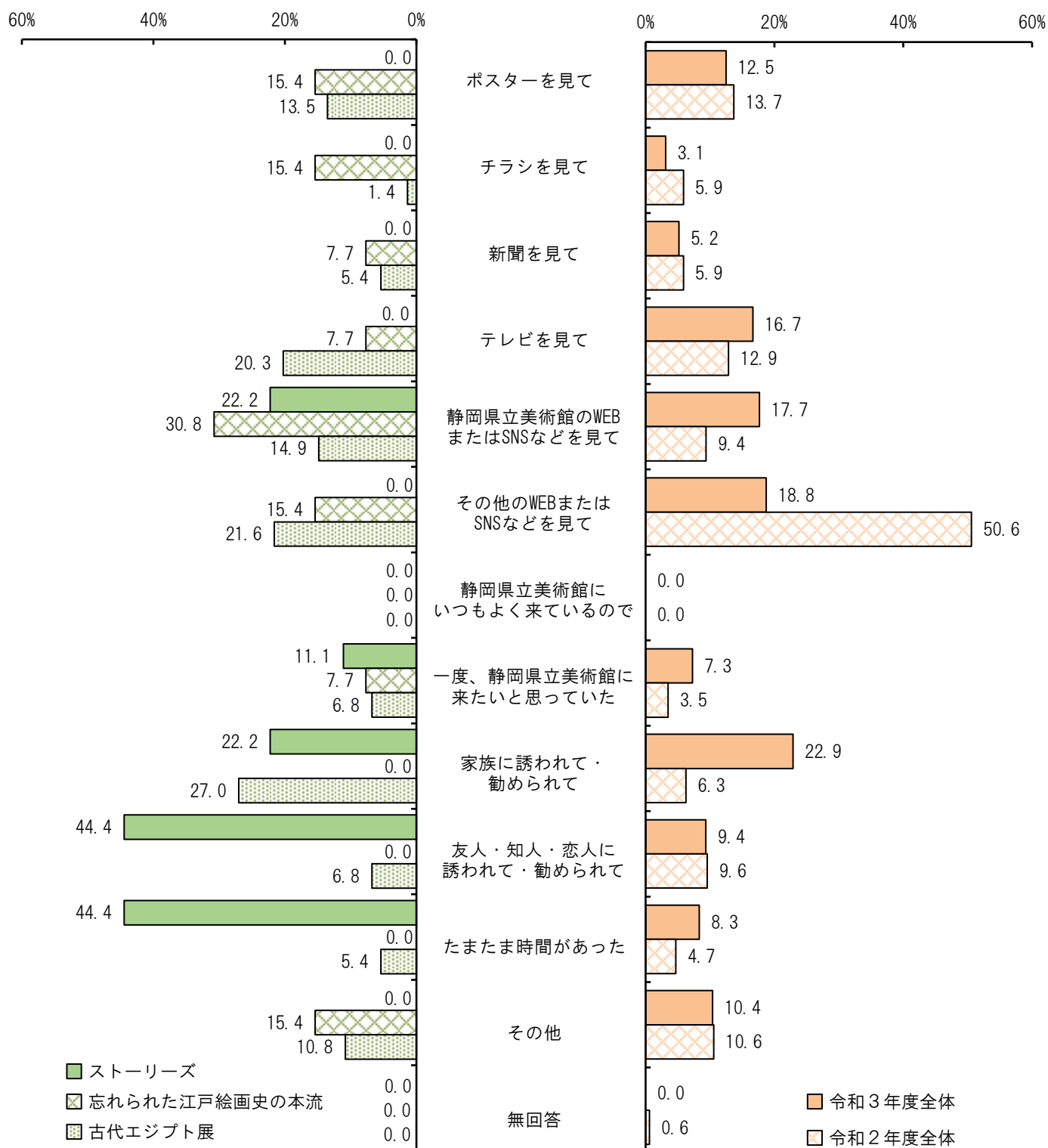
展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「ポスターを見て」26.4%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「静岡県立美術館のWEB または SNS などを見て」29.9%、『古代エジプト展』では「テレビを見て」28.0%が最も高くなっている。

新規来館者

		件数 (件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	静岡県立美術館のWEB またはSNSなどを見て	SNSなどを見て	その他のWEBまたは 静岡県立美術館のWEB などもよく来ているので	静岡県立美術館に 来たいと思っていた	一度、静岡県立美術館に 勧められて	家族に誘われて・ 誘われて・勧められて	友人・知人・恋人に 誘われて・勧められて	たまたま時間があつた	その他	無回答
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	11.1	22.2	44.4	44.4	0.0	0.0	
	忘れられた 江戸絵画史の本流	13	15.4	15.4	7.7	7.7	30.8	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	
	古代エジプト展	74	13.5	1.4	5.4	20.3	14.9	21.6	0.0	6.8	27.0	6.8	5.4	10.8	0.0	
経年	令和3年度全体	96	12.5	3.1	5.2	16.7	17.7	18.8	0.0	7.3	22.9	9.4	8.3	10.4	0.0	
	令和2年度全体	490	13.7	5.9	5.9	12.9	9.4	50.6	0.0	3.5	6.3	9.6	4.7	10.6	0.6	
令和2年度	みんなのミュシャ	92	28.3	5.4	0.0	44.6	9.8	10.9	0.0	10.9	15.2	9.8	6.5	7.6	2.2	
	富野由悠季の世界	393	10.4	5.9	7.4	5.6	9.4	60.6	0.0	1.8	3.8	9.7	4.1	11.2	0.3	
	パラレル・ヒストリーズ	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	

単位：%

＜新規来館者＞



新規来館者の令和3年度全体は、「家族に誘われて・勧められて」22.9%と最も高く、次いで「その他のWEBまたはSNSなどを見て」18.8%、「静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て」17.7%の順となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「友人・知人・恋人に誘われて・勧められて」「たまたま時間があった」44.4%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て」30.8%、『古代エジプト展』では「家族に誘われて・勧められて」27.0%と最も高くなっている。

来館時期別 展覧会に来たきっかけ・理由

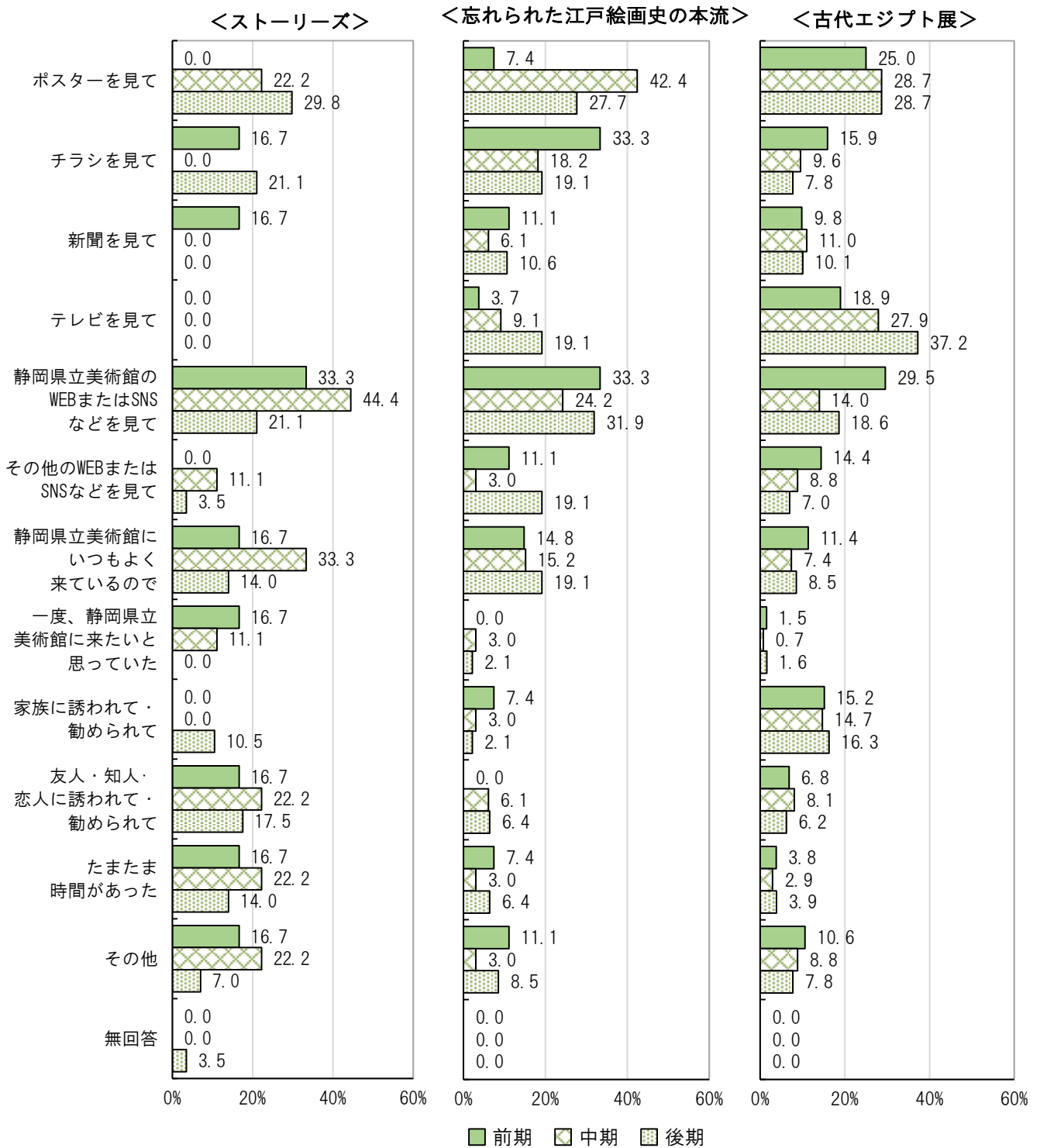
展覧会	件数(件)			ポスターを見て			チラシを見て			新聞を見て			テレビを見て		
	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*
全体	72	107	397	26.4	27.1	27.5	18.1	22.4	11.1	1.4	9.3	10.3	0.0	12.1	28.0
前期	6	27	132	0.0	7.4	25.0	16.7	<u>33.3</u>	15.9	16.7	11.1	9.8	0.0	3.7	18.9
中期	9	33	136	22.2	<u>42.4</u>	<u>28.7</u>	0.0	18.2	9.6	0.0	6.1	11.0	0.0	9.1	27.9
後期	57	47	129	<u>29.8</u>	27.7	28.7	21.1	19.1	7.8	0.0	10.6	10.1	0.0	19.1	<u>37.2</u>

展覧会	静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て			その他のWEBまたはSNSなどを見て			静岡県立美術館にいつもよく来ているので			一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた			家族に誘われて・勧められて		
	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*
全体	25.0	29.9	20.7	4.2	12.1	10.1	16.7	16.8	9.1	2.8	1.9	1.3	8.3	3.7	15.4
前期	<u>33.3</u>	<u>33.3</u>	<u>29.5</u>	0.0	11.1	14.4	16.7	14.8	11.4	16.7	0.0	1.5	0.0	7.4	15.2
中期	<u>44.4</u>	24.2	14.0	11.1	3.0	8.8	33.3	15.2	7.4	11.1	3.0	0.7	0.0	3.0	14.7
後期	21.1	<u>31.9</u>	18.6	3.5	19.1	7.0	14.0	19.1	8.5	0.0	2.1	1.6	10.5	2.1	16.3

展覧会	友人・知人・恋人に誘われて・勧められて			たまたま時間があつた			その他			無回答		
	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*	A*	B*	C*
全体	18.1	4.7	7.1	15.3	5.6	3.5	9.7	7.5	9.1	2.8	0.0	0.0
前期	16.7	0.0	6.8	16.7	7.4	3.8	16.7	11.1	10.6	0.0	0.0	0.0
中期	22.2	6.1	8.1	22.2	3.0	2.9	22.2	3.0	8.8	0.0	0.0	0.0
後期	17.5	6.4	6.2	14.0	6.4	3.9	7.0	8.5	7.8	3.5	0.0	0.0

単位：％

*展覧会A・・・ストーリーズ
 展覧会B・・・忘れられた江戸絵画史の本流
 展覧会C・・・古代エジプト展



展覧会に来たきっかけ・理由を来館時期別にみると、『ストーリーズ』では、<前期>は「静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て」33.3%、<中期>は「静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て」44.4%、<後期>は「ポスターを見て」29.8%が最も高くなっている。『忘れられた江戸絵画史の本流』では、<前期>は「チラシを見て」「静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て」33.3%、<中期>は「ポスターを見て」42.4%、<後期>は「静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て」31.9%が最も高くなっている。『古代エジプト展』では、<前期>は「静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て」29.5%、<中期>は「ポスターを見て」28.7%、<後期>は「テレビを見て」37.2%が最も高くなっている。

5 勧誘の手段（複数回答可）

展覧会に来たきっかけ・理由で、家族・友人・知人・恋人に誘われて・勧められてと回答した方のみ

Q3で、「9～10」と回答した方（家族や友人・知人・恋人に誘われた、勧められた方）にお尋ねします。

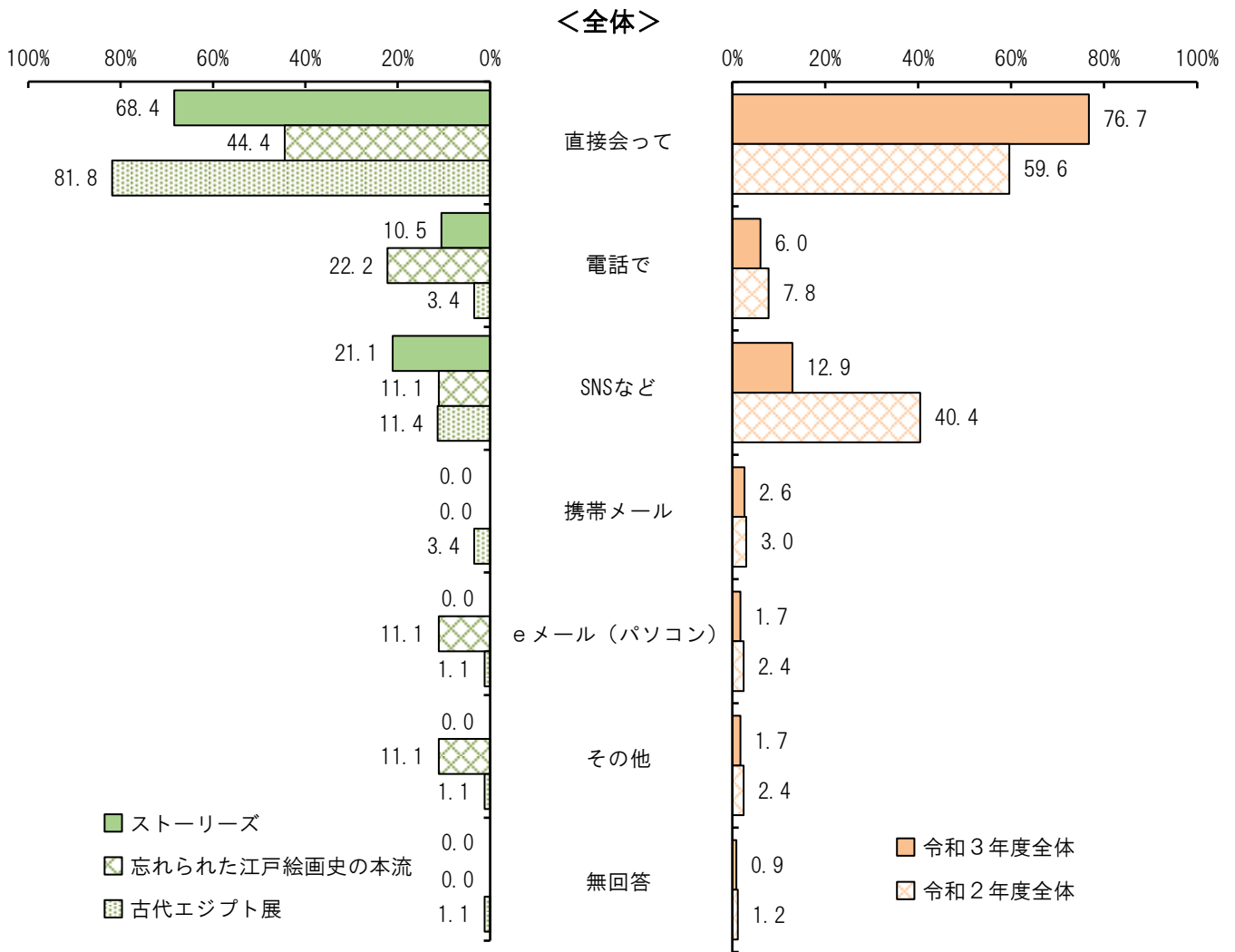
Q3-1 どのような手段で、誘われたり、勧められましたか。該当するものすべてに○をお付けください。

全体

		件数 (件)	直接会って	電話で	SNSなど	携帯メール	eメール (パソコン)	その他	無回答
令和3年度	ストーリーズ	19	68.4	10.5	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	9	44.4	22.2	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0
	古代エジプト展	88	81.8	3.4	11.4	3.4	1.1	1.1	1.1
経年	令和3年度全体	116	76.7	6.0	12.9	2.6	1.7	1.7	0.9
	令和2年度全体	166	59.6	7.8	40.4	3.0	2.4	2.4	1.2
令和2年度	みんなのミュシャ	58	69.0	5.2	22.4	5.2	0.0	1.7	3.4
	富野由悠季の世界	95	50.5	9.5	53.7	2.1	4.2	3.2	0.0
	パラレル・ヒストリーズ	13	84.6	7.7	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%

※SNSなどはSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）LINE・Facebook・Twitter・mixiなどを示す



勧誘の手段について、令和3年度全体は、「直接会って」76.7%と最も高く、次いで「SNSなど」12.9%、「電話で」6.0%の順となっている。令和2年度全体と比べると、「直接会って」が17.1ポイント高くなり、「SNSなど」が27.5ポイント低くなっている。

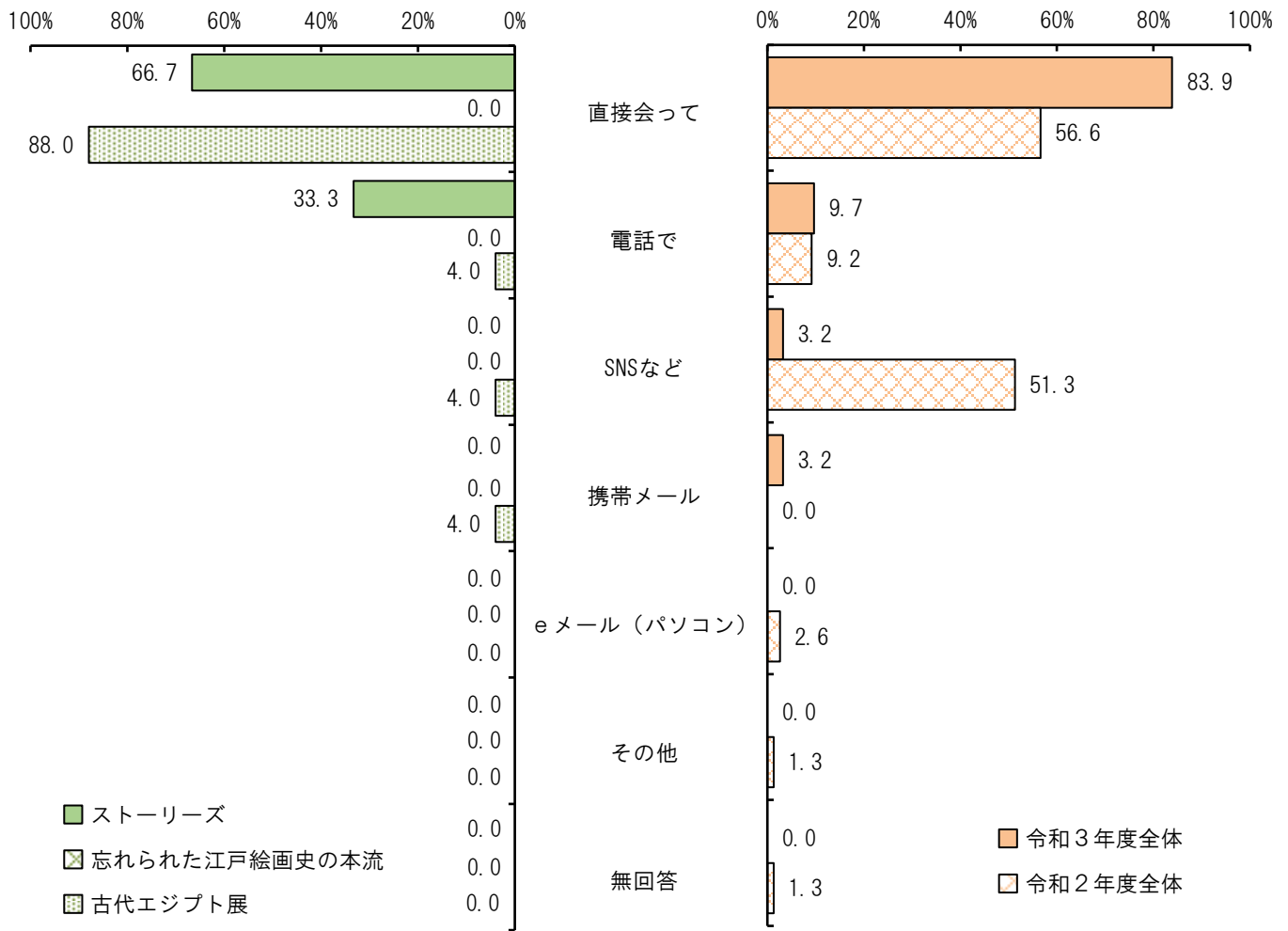
展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「直接会って」68.4%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「直接会って」44.4%、『古代エジプト展』では「直接会って」81.8%といずれの展覧会でも「直接会って」が最も高くなっている。『ストーリーズ』では「SNSなど」21.1%と他の展覧会と比べて高くなっている。

新規来館者

		件数 (件)	直接会 って	電話 で	S N S な ど	携 帯 メ ー ル	e メ ー ル (パ ソ コ ン)	そ の 他	無 回 答
令 和 3 年 度	ストーリーズ	6	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古代エジプト展	25	88.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0
経 年	令和3年度全体	31	83.9	9.7	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0
	令和2年度全体	76	56.6	9.2	51.3	0.0	2.6	1.3	1.3
令 和 2 年 度	みんなのミュシャ	21	71.4	4.8	23.8	0.0	0.0	0.0	4.8
	富野由悠季の世界	53	49.1	11.3	64.2	0.0	3.8	1.9	0.0
	パラレル・ヒストリーズ	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%

＜新規来館者＞



新規来館者の令和3年度全体は、「直接会って」83.9%と最も高く、次いで「電話で」9.7%となっている。令和2年度全体と比べると、「直接会って」が27.3ポイント高くなり、「SNSなど」が48.1ポイント低くなっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「直接会って」66.7%、『古代エジプト展』では「直接会って」88.0%と最も高くなっている。

(4) 展覧会の評価

1 作品やテーマへの興味・関心の深まり

Q6 ①作品やテーマについての興味・関心が深まりましたか。

全体

		件数 (件)	いいえ	どちらかとい うといいえ	ない どちらでも	どちらかとい うとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	72	0.0	0.0	1.4	26.4	72.2	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	0.9	0.9	1.9	27.1	65.4	3.7
	古代エジプト展	397	0.8	1.5	5.5	16.4	74.1	1.8
経年	令和3年度全体	576	0.7	1.2	4.3	19.6	72.2	1.9
	令和2年度全体	1115	1.8	0.7	4.1	16.1	74.5	2.8
令和2年度	みんなのミュシャ	331	1.5	0.6	4.2	13.6	77.3	2.7
	富野由悠季の世界	695	2.0	0.6	3.9	15.7	75.1	2.7
	パラレル・ヒストリーズ	89	1.1	2.2	5.6	28.1	59.6	3.4

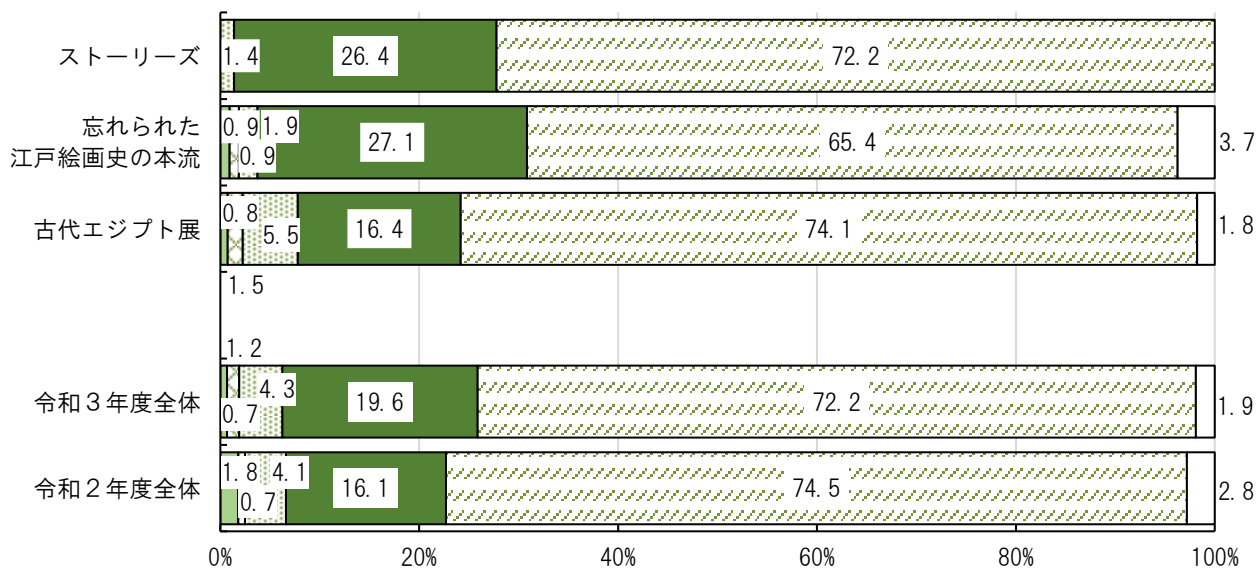
単位：％

新規来館者

		件数 (件)	いいえ	どちらかとい うといいえ	ない どちらでも	どちらかとい うとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	44.4	55.6	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	0.0	7.7	84.6	7.7
	古代エジプト展	74	0.0	1.4	4.1	10.8	81.1	2.7
経年	令和3年度全体	96	0.0	1.0	3.1	13.5	79.2	3.1
	令和2年度全体	490	2.2	0.6	3.3	13.7	77.3	2.9
令和2年度	みんなのミュシャ	92	3.3	0.0	7.6	14.1	70.7	4.3
	富野由悠季の世界	393	2.0	0.8	2.3	13.5	78.9	2.5
	パラレル・ヒストリーズ	5	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0

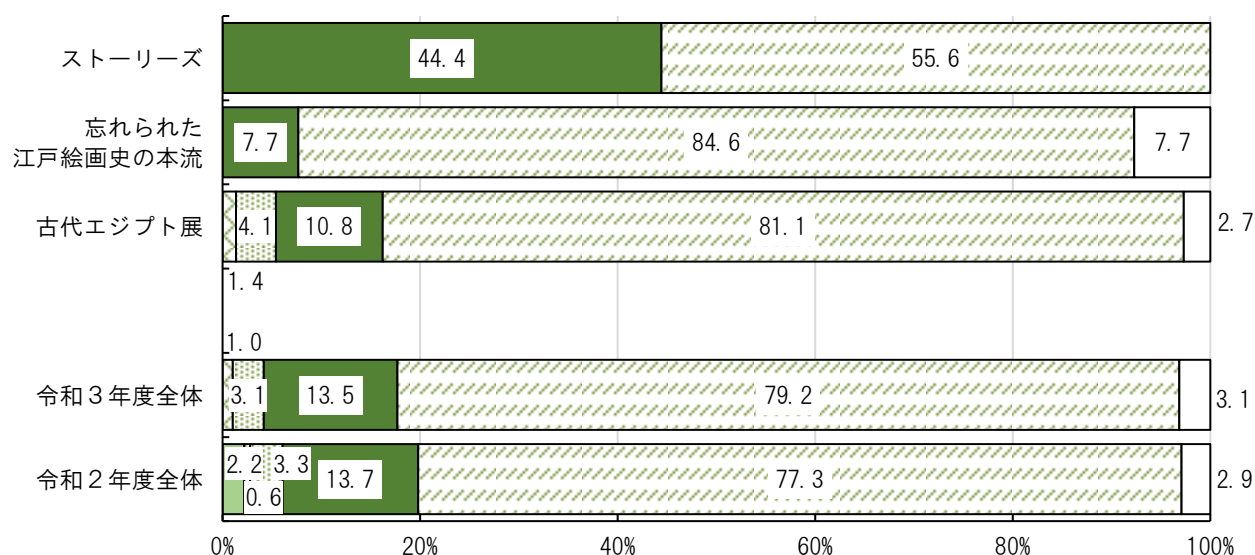
単位：％

<全体>



■ いいえ ■ どちらかというといいえ ■ どちらでもない ■ どちらかというとはい ■ はい □ 無回答

<新規来館者>



■ いいえ ■ どちらかというといいえ ■ どちらでもない ■ どちらかというとはい □ はい □ 無回答

作品やテーマへの興味・関心の深まりについて、令和3年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が91.8%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』98.6%、『忘れられた江戸絵画史の本流』92.5%、『古代エジプト展』90.4%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は1.9%となっている。

新規来館者の令和3年度全体は、肯定的評価が92.7%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』100.0%、『忘れられた江戸絵画史の本流』92.3%、『古代エジプト展』91.9%の順となっている。

否定的評価は1.0%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

2 会場における観覧時の心地よさ

Q 6 ②展覧会の会場では、心地よく観覧できましたか。

全体

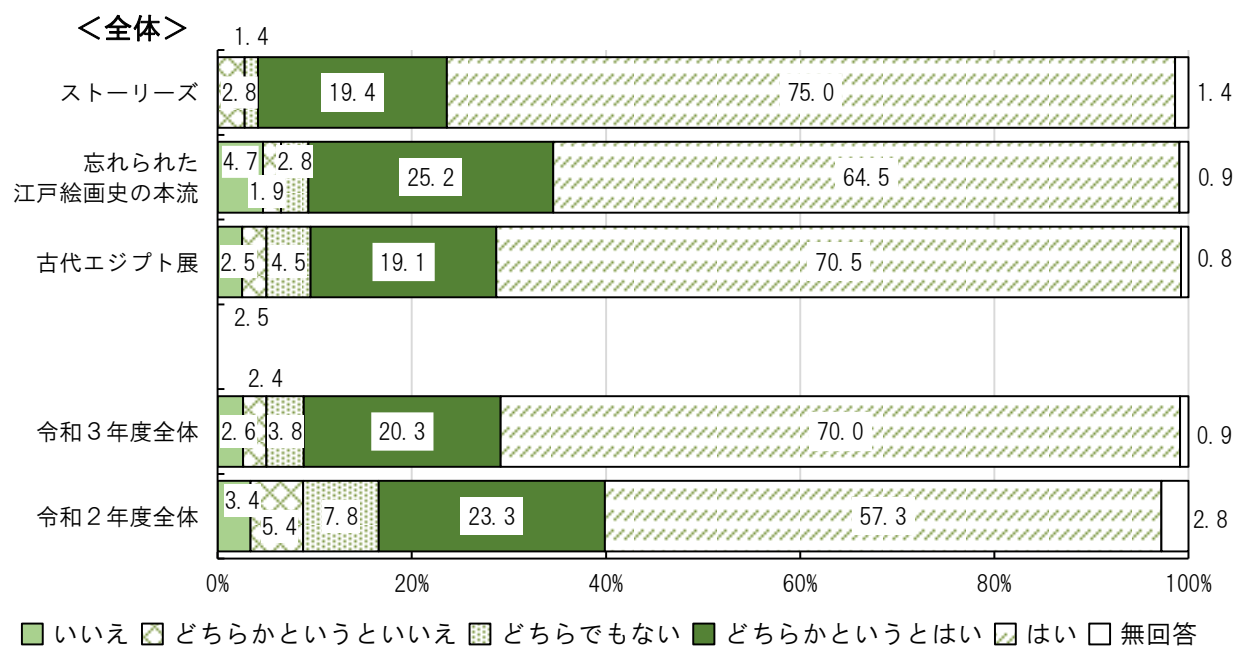
		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうといいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	72	0.0	2.8	1.4	19.4	75.0	1.4
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	4.7	1.9	2.8	25.2	64.5	0.9
	古代エジプト展	397	2.5	2.5	4.5	19.1	70.5	0.8
経年	令和3年度全体	576	2.6	2.4	3.8	20.3	70.0	0.9
	令和2年度全体	1115	3.4	5.4	7.8	23.3	57.3	2.8
令和2年度	みんなのミュシャ	331	5.1	6.0	7.9	24.8	53.5	2.7
	富野由悠季の世界	695	3.0	5.6	8.5	24.2	56.0	2.7
	パラレル・ヒストリーズ	89	0.0	1.1	2.2	11.2	82.0	3.4

単位：％

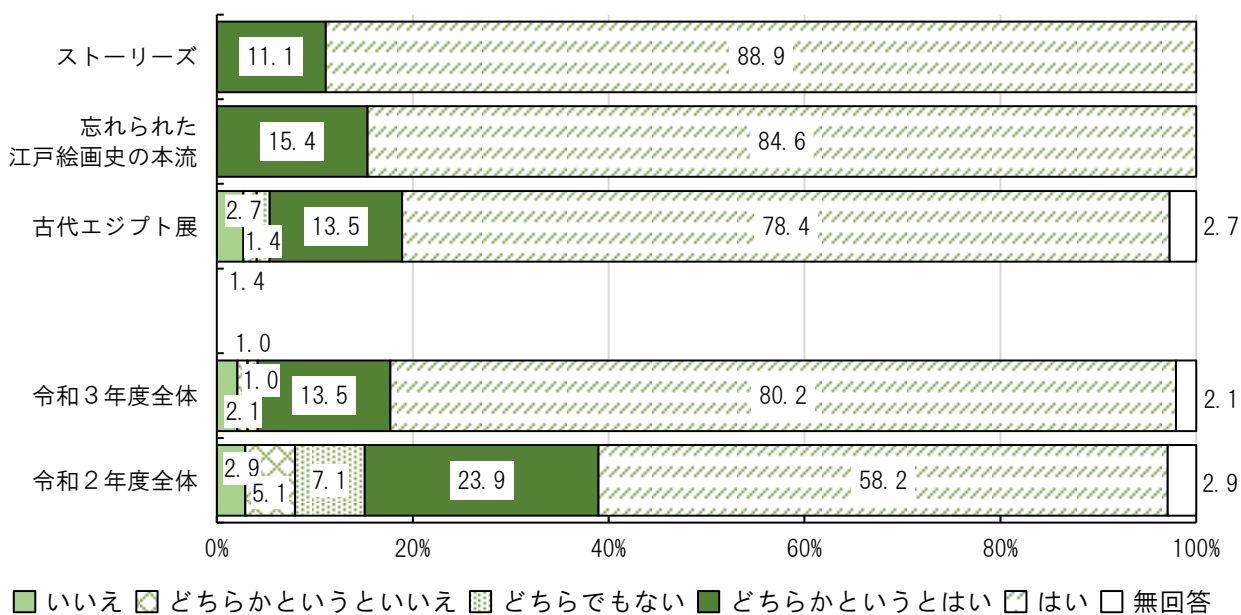
新規来館者

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうといいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	11.1	88.9	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	0.0	15.4	84.6	0.0
	古代エジプト展	74	2.7	1.4	1.4	13.5	78.4	2.7
経年	令和3年度全体	96	2.1	1.0	1.0	13.5	80.2	2.1
	令和2年度全体	490	2.9	5.1	7.1	23.9	58.2	2.9
令和2年度	みんなのミュシャ	92	5.4	7.6	5.4	22.8	54.3	4.3
	富野由悠季の世界	393	2.3	4.6	7.6	24.4	58.5	2.5
	パラレル・ヒストリーズ	5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

単位：％



<新規来館者>



会場における観覧時の心地よさについて、令和3年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が90.3%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』94.4%、『忘れられた江戸絵画史の本流』『古代エジプト展』89.7%となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は5.0%となっている。

新規来館者の令和3年度全体は、肯定的評価が93.8%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』『忘れられた江戸絵画史の本流』100.0%、『古代エジプト展』91.9%の順となっている。

否定的評価は3.1%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

3 スタッフの対応の適切さ

Q6 ③美術館のスタッフの対応は適切でしたか。

全体

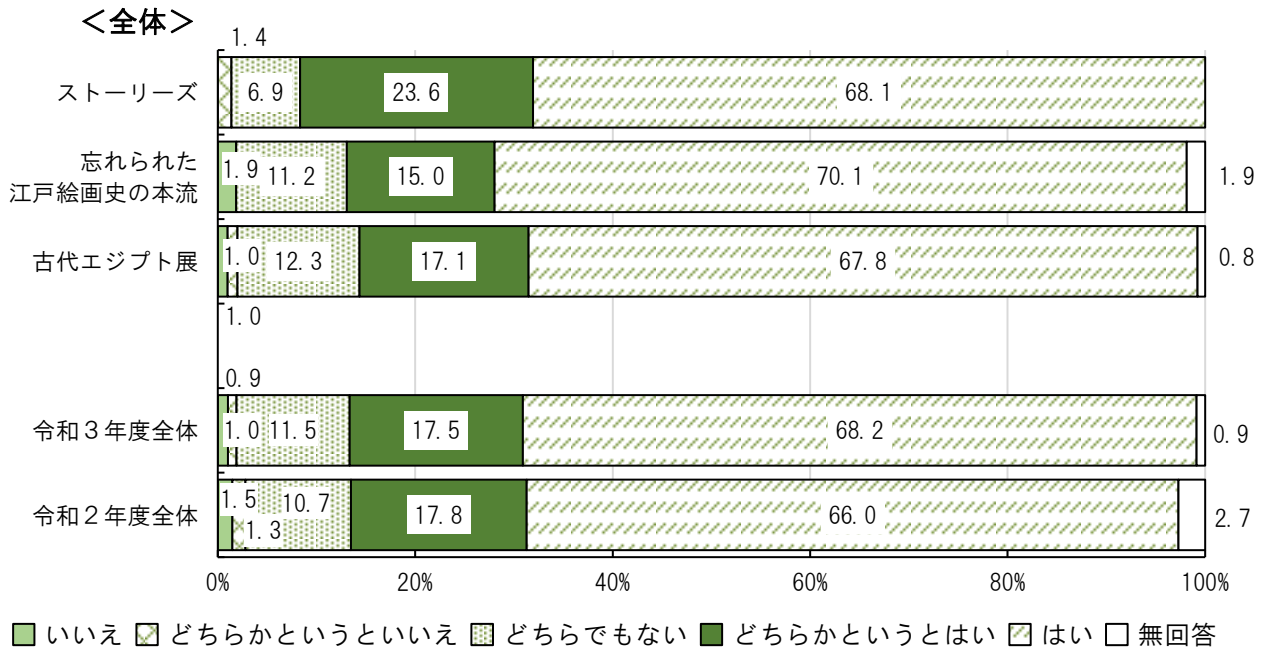
		件数 (件)	いいえ	どちらかとい うといいえ	ない どちらでも	どちらかとい うとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	72	0.0	1.4	6.9	23.6	68.1	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	1.9	0.0	11.2	15.0	70.1	1.9
	古代エジプト展	397	1.0	1.0	12.3	17.1	67.8	0.8
経年	令和3年度全体	576	1.0	0.9	11.5	17.5	68.2	0.9
	令和2年度全体	1115	1.5	1.3	10.7	17.8	66.0	2.7
令和2年度	みんなのミュシャ	331	2.1	1.8	12.1	17.2	64.4	2.4
	富野由悠季の世界	695	1.4	1.2	10.2	19.0	65.3	2.9
	パラレル・ヒストリーズ	89	0.0	0.0	9.0	11.2	77.5	2.2

単位：％

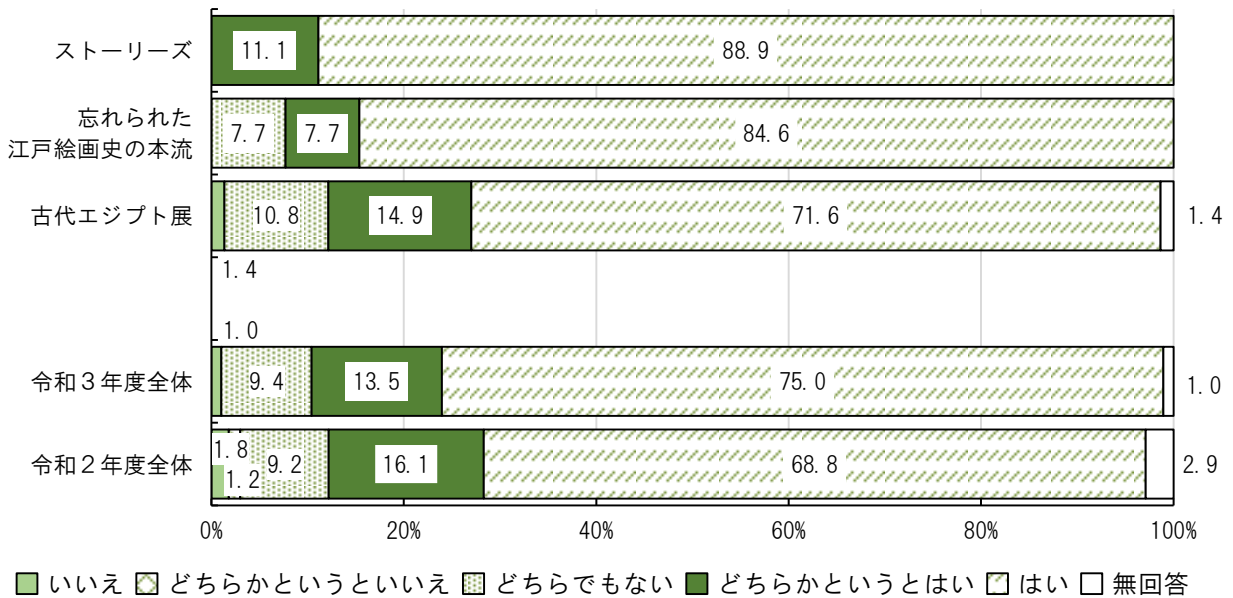
新規来館者

		件数 (件)	いいえ	どちらかとい うといいえ	ない どちらでも	どちらかとい うとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	11.1	88.9	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	7.7	7.7	84.6	0.0
	古代エジプト展	74	1.4	0.0	10.8	14.9	71.6	1.4
経年	令和3年度全体	96	1.0	0.0	9.4	13.5	75.0	1.0
	令和2年度全体	490	1.8	1.2	9.2	16.1	68.8	2.9
令和2年度	みんなのミュシャ	92	3.3	1.1	14.1	12.0	64.1	5.4
	富野由悠季の世界	393	1.5	1.3	8.1	17.3	69.5	2.3
	パラレル・ヒストリーズ	5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

単位：％



<新規来館者>



スタッフの対応の適切さについて、令和3年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が85.8%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』91.7%、『忘れられた江戸絵画史の本流』85.0%、『古代エジプト展』84.9%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は1.9%となっている。

新規来館者の令和3年度全体は、肯定的評価が88.5%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』100.0%、『忘れられた江戸絵画史の本流』92.3%、『古代エジプト展』86.5%の順となっている。

否定的評価は1.0%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

4 展覧会のことを勧めたいか

Q6 ④この展覧会のことを誰かに伝え、来館を勧めたいですか。

全体

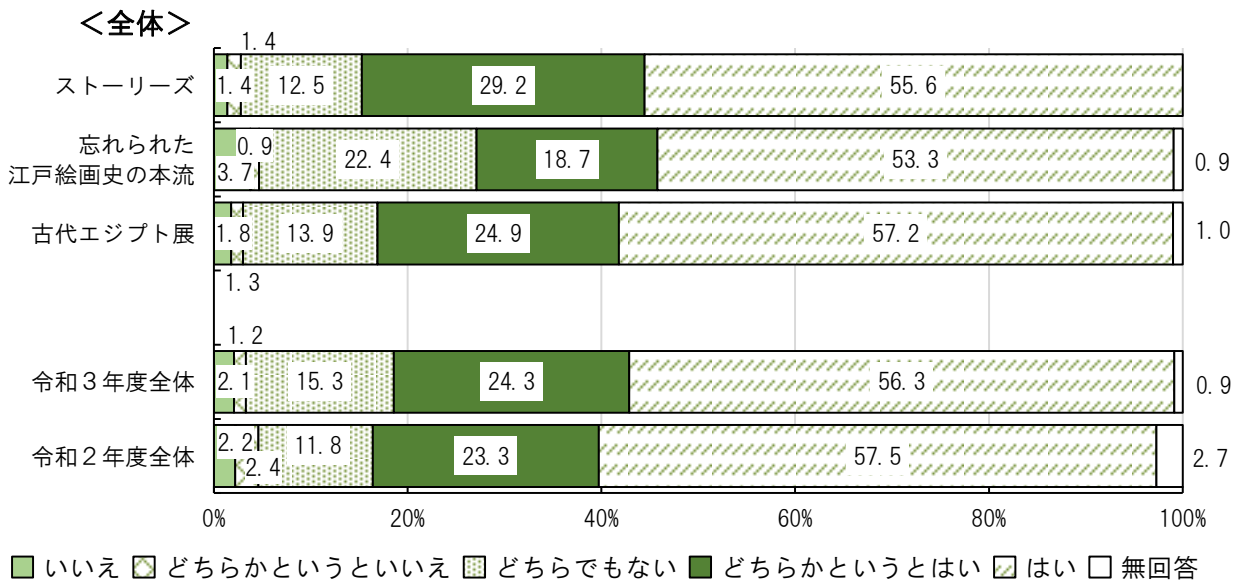
		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうといいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	72	1.4	1.4	12.5	29.2	55.6	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	3.7	0.9	22.4	18.7	53.3	0.9
	古代エジプト展	397	1.8	1.3	13.9	24.9	57.2	1.0
経年	令和3年度全体	576	2.1	1.2	15.3	24.3	56.3	0.9
	令和2年度全体	1115	2.2	2.4	11.8	23.3	57.5	2.7
令和2年度	みんなのミュシャ	331	2.4	3.3	12.4	25.4	54.1	2.4
	富野由悠季の世界	695	1.9	2.2	10.5	23.0	59.9	2.6
	パラレル・ヒストリーズ	89	4.5	1.1	20.2	18.0	51.7	4.5

単位：％

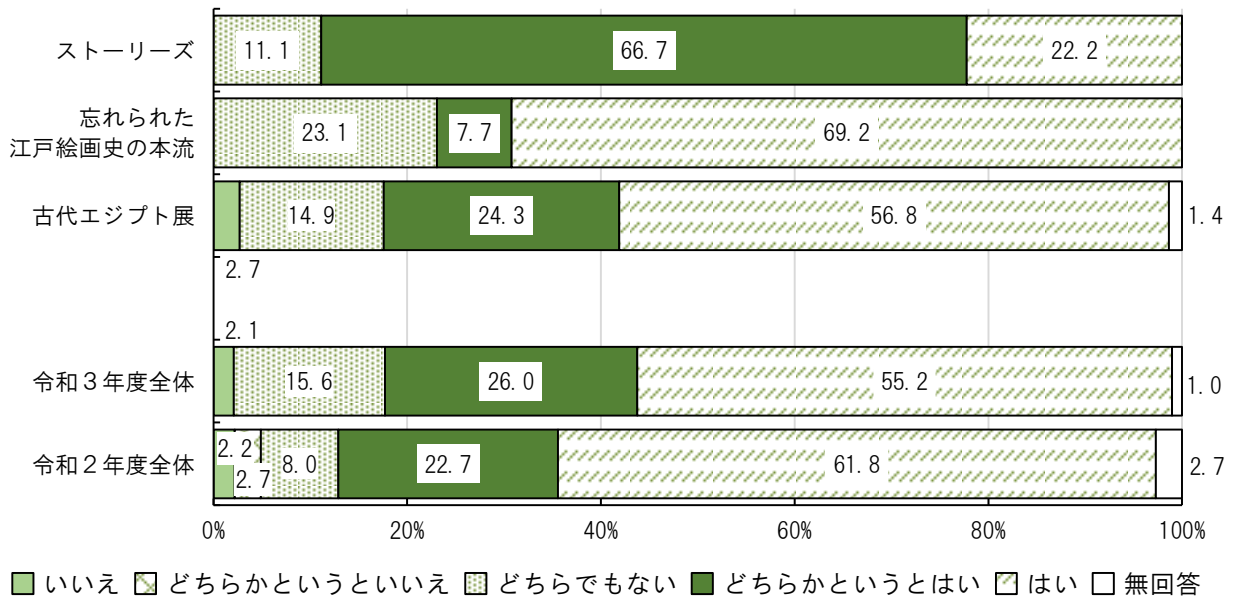
新規来館者

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうといいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	11.1	66.7	22.2	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	23.1	7.7	69.2	0.0
	古代エジプト展	74	2.7	0.0	14.9	24.3	56.8	1.4
経年	令和3年度全体	96	2.1	0.0	15.6	26.0	55.2	1.0
	令和2年度全体	490	2.2	2.7	8.0	22.7	61.8	2.7
令和2年度	みんなのミュシャ	92	3.3	3.3	10.9	28.3	50.0	4.3
	富野由悠季の世界	393	2.0	2.5	7.4	21.1	64.6	2.3
	パラレル・ヒストリーズ	5	0.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0

単位：％



<新規来館者>



展覧会のことを勧めたいかについて、令和3年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が80.6%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』84.7%、『古代エジプト展』82.1%、『忘れられた江戸絵画史の本流』72.0%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は3.3%となっている。

新規来館者の令和3年度全体は、肯定的評価が81.3%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』88.9%、『古代エジプト展』81.1%、『忘れられた江戸絵画史の本流』76.9%の順となっている。

否定的評価は2.1%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

5 情報の入手しやすさ

Q6 ⑤当美術館に関する情報は入手しやすかったですか。

全体

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうといいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	72	0.0	8.3	8.3	27.8	55.6	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	2.8	0.9	13.1	23.4	56.1	3.7
	古代エジプト展	397	2.5	4.0	12.6	28.2	51.4	1.3
経年	令和3年度全体	576	2.3	4.0	12.2	27.3	52.8	1.6
	令和2年度全体	1115	2.0	3.0	13.6	26.3	52.2	3.0
令和2年度	みんなのミュシャ	331	2.1	1.5	12.7	26.3	54.1	3.3
	富野由悠季の世界	695	2.0	3.7	14.2	26.5	50.8	2.7
	パラレル・ヒストリーズ	89	1.1	2.2	12.4	24.7	56.2	3.4

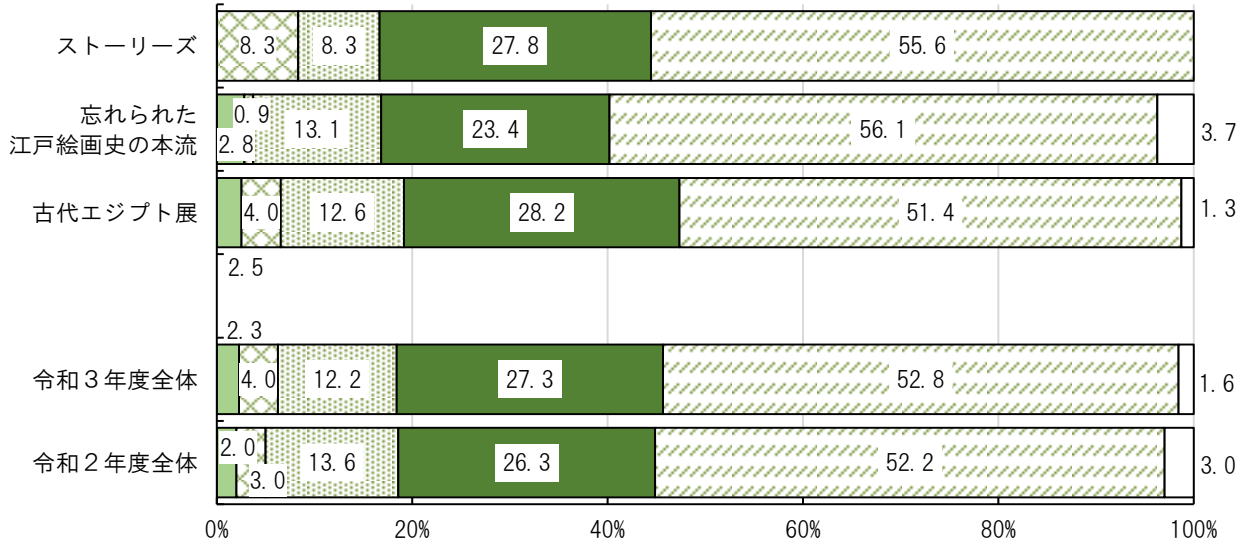
単位：％

新規来館者

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうといいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	11.1	44.4	44.4	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	23.1	38.5	30.8	7.7
	古代エジプト展	74	2.7	4.1	5.4	23.0	62.2	2.7
経年	令和3年度全体	96	2.1	3.1	8.3	27.1	56.3	3.1
	令和2年度全体	490	3.3	3.3	16.3	26.1	48.2	2.9
令和2年度	みんなのミュシャ	92	6.5	1.1	14.1	25.0	47.8	5.4
	富野由悠季の世界	393	2.5	3.6	16.5	26.2	48.9	2.3
	パラレル・ヒストリーズ	5	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0

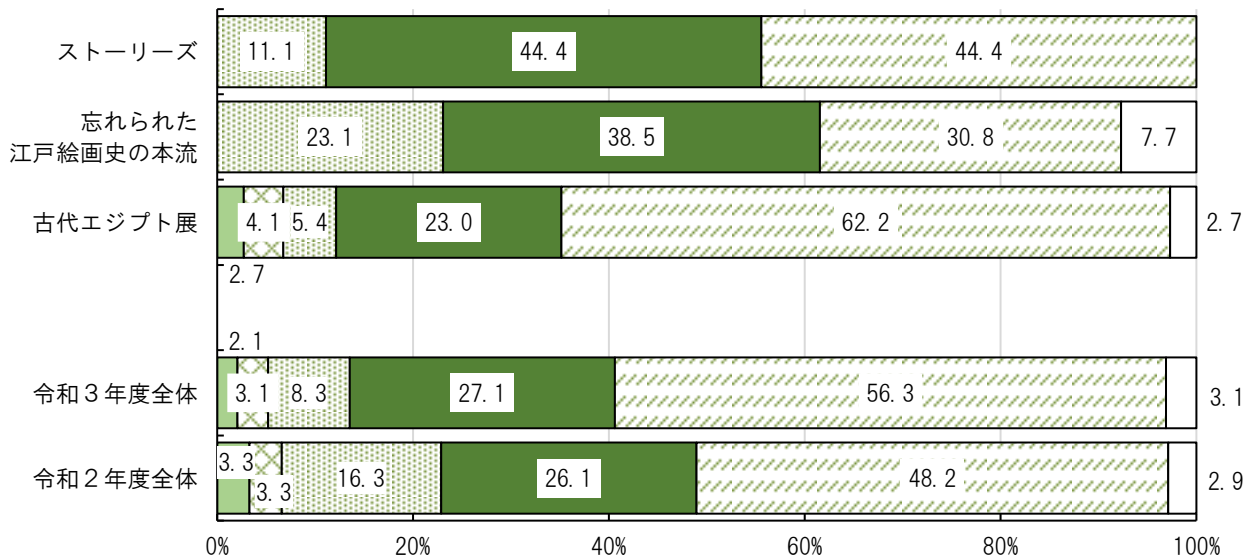
単位：％

<全体>



■ いいえ ■ どちらかというといいえ ■ どちらでもない ■ どちらかというとはい ■ はい □ 無回答

<新規来館者>



■ いいえ ■ どちらかというといいえ ■ どちらでもない ■ どちらかというとはい ■ はい □ 無回答

情報の入手しやすさについて、令和3年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が80.0%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』83.3%、『古代エジプト展』79.6%、『忘れられた江戸絵画史の本流』79.4%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は6.3%となっている。

新規来館者の令和3年度全体は、肯定的評価が83.3%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』88.9%、『古代エジプト展』85.1%、『忘れられた江戸絵画史の本流』69.2%の順となっている。

否定的評価は5.2%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

6 来館の際の主な交通手段

Q6 ⑥当美術館においでになる際には、どのような交通機関を利用しましたか。
 ※回答者ご本人がご利用になった主なものに○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	そ の 他	無 回 答
令 和 3 年 度	ストーリーズ	72	9.7	15.3	2.8	0.0	62.5	9.7	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	19.6	9.3	9.3	0.9	52.3	7.5	0.9
	古代エジプト展	397	11.6	5.3	3.8	0.5	74.1	4.0	0.8
経 年	令和3年度全体	576	12.8	7.3	4.7	0.5	68.6	5.4	0.7
	令和2年度全体	1115	18.4	6.2	3.8	1.0	63.4	4.0	3.2
令 和 2 年 度	みんなのミュシャ	331	10.3	4.5	4.5	0.0	74.6	2.4	3.6
	富野由悠季の世界	695	23.3	6.6	3.6	1.6	57.8	3.9	3.2
	パラレル・ヒストリーズ	89	10.1	9.0	2.2	0.0	65.2	11.2	2.2

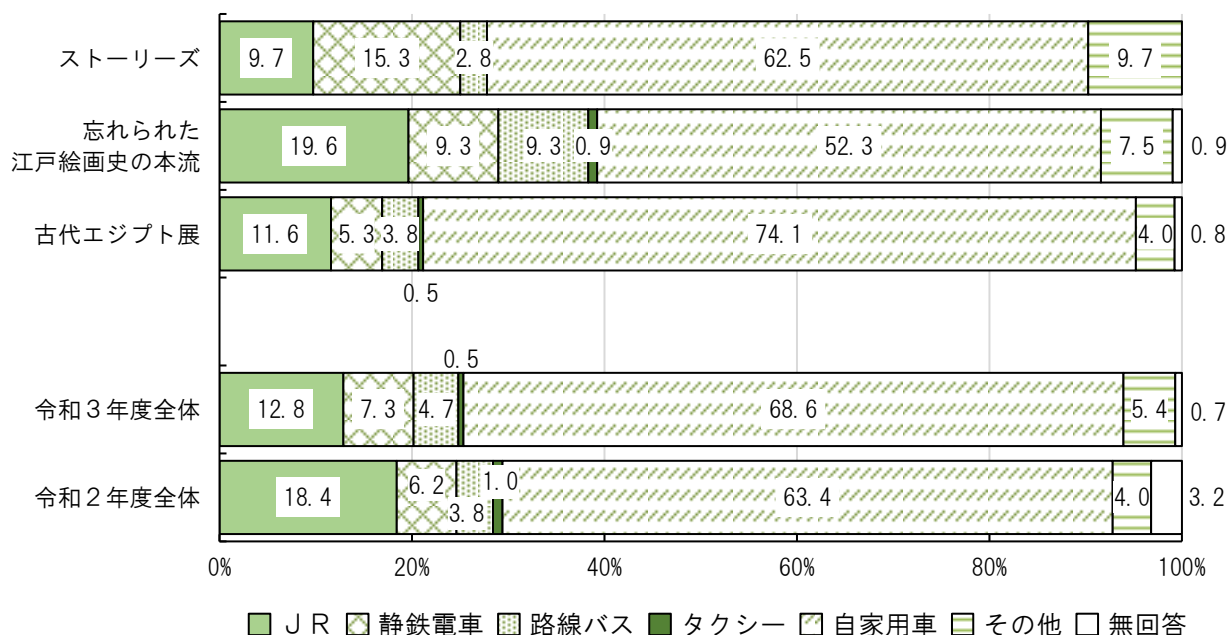
単位：%

新規来館者

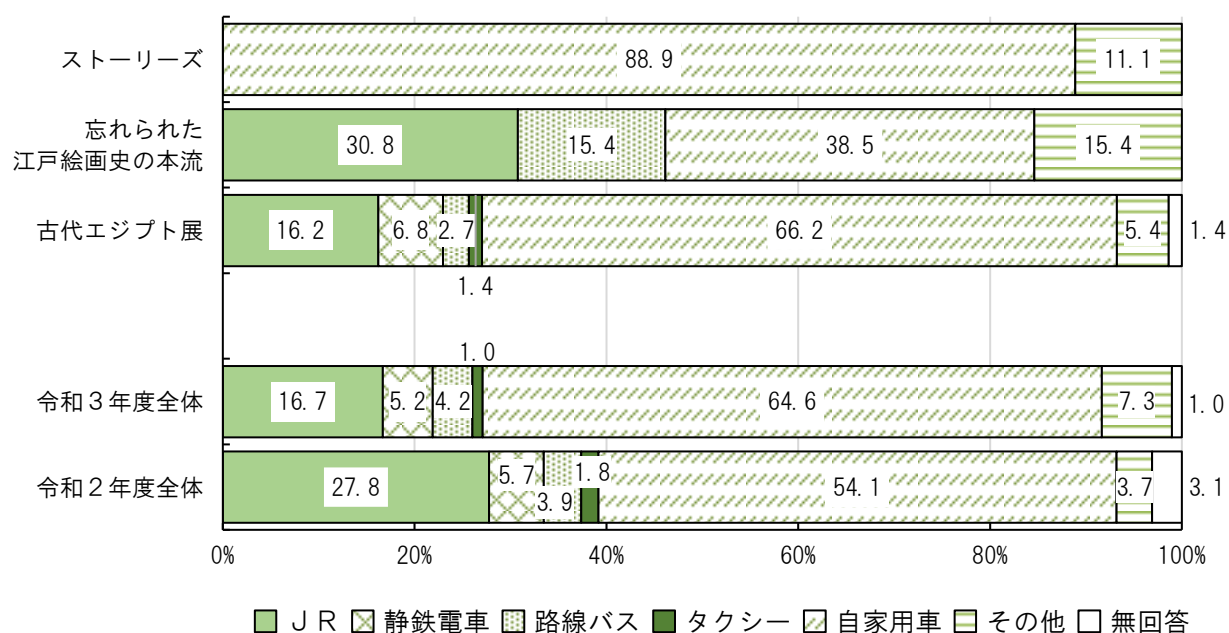
		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	そ の 他	無 回 答
令 和 3 年 度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	0.0	88.9	11.1	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	30.8	0.0	15.4	0.0	38.5	15.4	0.0
	古代エジプト展	74	16.2	6.8	2.7	1.4	66.2	5.4	1.4
経 年	令和3年度全体	96	16.7	5.2	4.2	1.0	64.6	7.3	1.0
	令和2年度全体	490	27.8	5.7	3.9	1.8	54.1	3.7	3.1
令 和 2 年 度	みんなのミュシャ	92	15.2	3.3	5.4	0.0	68.5	3.3	4.3
	富野由悠季の世界	393	30.8	6.4	3.6	2.3	50.6	3.6	2.8
	パラレル・ヒストリーズ	5	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0

単位：%

<全体>



<新規来館者>



来館の際の主な交通手段について、令和3年度全体は、「自家用車」68.6%と最も高く、次いで「JR」12.8%、「静鉄電車」7.3%の順となっている。

展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「自家用車」62.5%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「自家用車」52.3%、『古代エジプト展』では「自家用車」74.1%といずれの展覧会でも「自家用車」が最も高くなっている。『ストーリーズ』では「静鉄電車」15.3%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「JR」19.6%と他の展覧会と比べて高くなっている。

新規来館者の令和3年度全体は、「自家用車」が64.6%と最も高く、次いで「JR」が16.7%、「その他」が7.3%の順となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、いずれの展覧会でも「自家用車」が最も高くなっている。

7-1 公共交通機関の利用のスムーズさ

Q6 ⑦交通機関の利用はスムーズでしたか。

※今年度は公共交通機関を利用した方を母数として集計をしています。

全体

		件数 (件)	いいえ	どちらか というとい え	ない どちら でも	どちらか というとい え	はい	無回 答
令和 3 年度	ストーリーズ	20	0.0	5.0	0.0	5.0	40.0	50.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	42	0.0	11.9	4.8	28.6	54.8	0.0
	古代エジプト展	84	3.6	2.4	7.1	13.1	52.4	21.4
経 年	令和3年度全体	146	2.1	5.5	5.5	16.4	51.4	19.2
	令和2年度全体	327	5.8	8.0	14.1	21.1	47.7	3.4

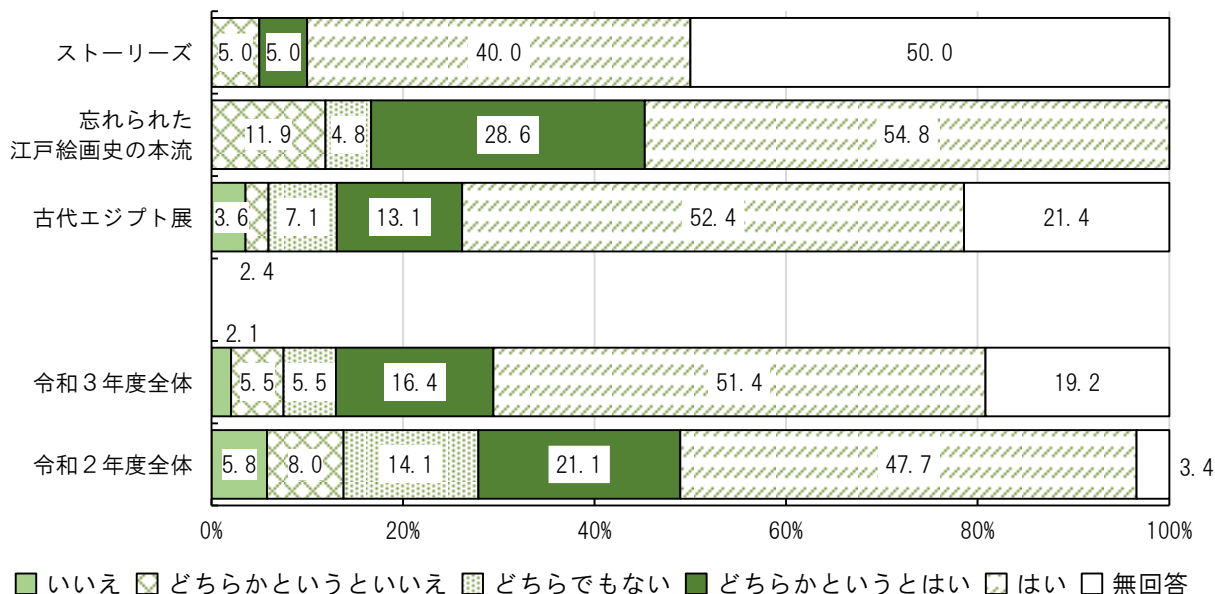
単位：%

新規来館者

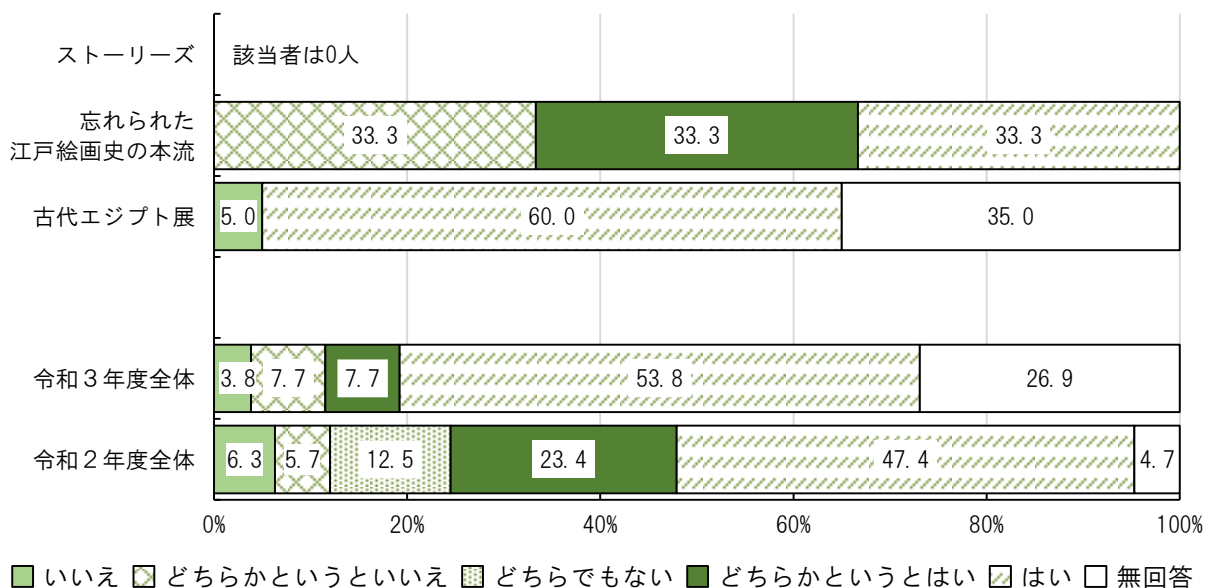
		件数 (件)	いいえ	どちらか というとい え	ない どちら でも	どちらか というとい え	はい	無回 答
令和 3 年度	ストーリーズ	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	6	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0
	古代エジプト展	20	5.0	0.0	0.0	0.0	60.0	35.0
経 年	令和3年度全体	26	3.8	7.7	0.0	7.7	53.8	26.9
	令和2年度全体	192	6.3	5.7	12.5	23.4	47.4	4.7

単位：%

<全体>



<新規来館者>



公共交通機関の利用のスムーズさについて、令和3年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が67.8%となっている。肯定的評価は『忘れられた江戸絵画史の本流』83.3%、『古代エジプト展』65.5%、『ストーリーズ』45.0%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は7.6%となっている。

新規来館者の令和3年度全体は、肯定的評価が61.5%となっている。肯定的評価は『忘れられた江戸絵画史の本流』66.7%、『古代エジプト展』60.0%の順となっている。

否定的評価は11.5%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

7-2 自家用車の利用のスムーズさ

※今年度は自家用車を利用した方を母数として集計をしています。

全体

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうといいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	45	2.2	0.0	2.2	8.9	26.7	60.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	56	3.6	0.0	3.6	8.9	66.1	17.9
	古代エジプト展	294	1.4	0.7	10.2	11.6	43.5	32.7
経年	令和3年度全体	395	1.8	0.5	8.4	10.9	44.8	33.7
	令和2年度全体	707	3.3	3.8	10.0	15.8	38.9	28.1

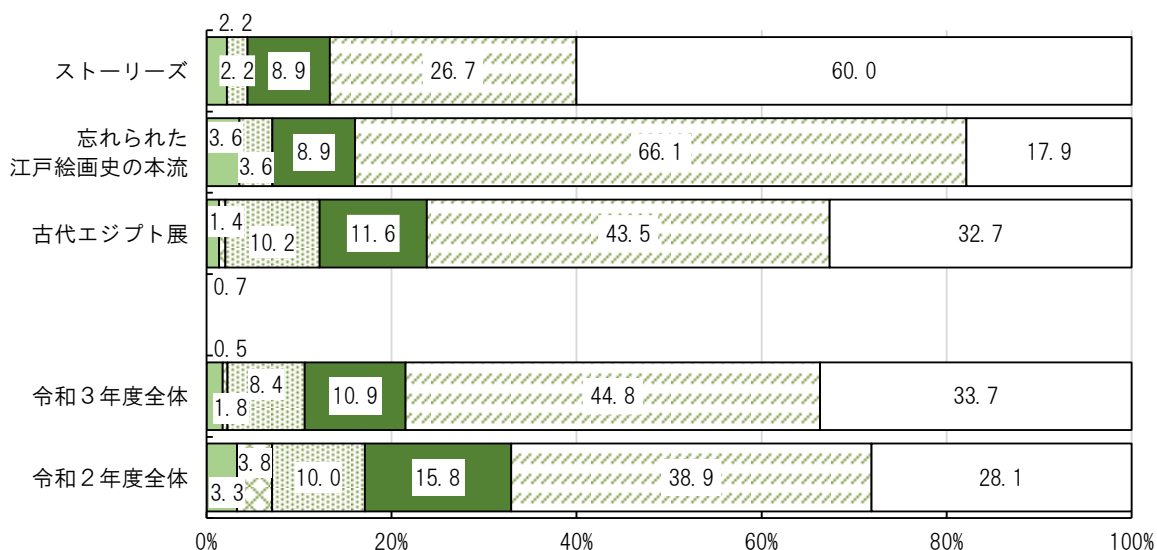
単位：％

新規来館者

		件数 (件)	いいえ	どちらかと いうといいえ	ない どちらでも	どちらかと いうとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	8	0.0	0.0	0.0	37.5	12.5	50.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	5	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0
	古代エジプト展	49	0.0	0.0	10.2	4.1	53.1	32.7
経年	令和3年度全体	62	0.0	0.0	8.1	8.1	48.4	35.5
	令和2年度全体	265	3.8	4.2	11.3	18.9	33.2	28.7

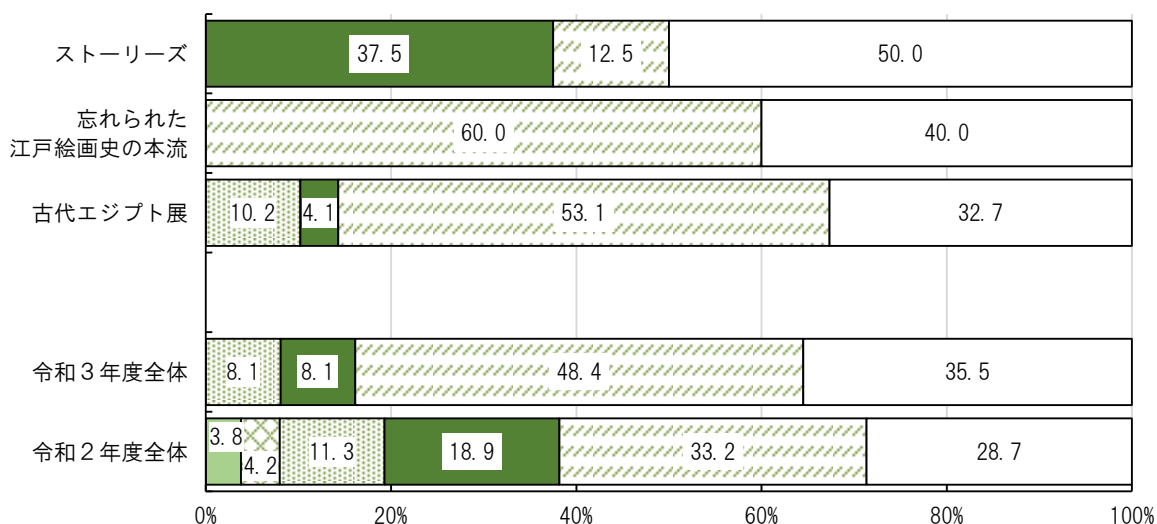
単位：％

<全体>



■ いいえ □ どちらかというといいえ ▨ どちらでもない ■ どちらかというとはい ▨ はい □ 無回答

<新規来館者>



■ いいえ □ どちらかというといいえ ▨ どちらでもない ■ どちらかというとはい ▨ はい □ 無回答

自家用車の利用のスムーズさについて、令和3年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が55.7%となっている。肯定的評価は『忘れられた江戸絵画史の本流』75.0%、『古代エジプト展』55.1%、『ストーリーズ』35.6%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は2.3%となっている。

新規来館者の令和3年度全体は、肯定的評価が56.5%となっている。肯定的評価は『忘れられた江戸絵画史の本流』60.0%、『古代エジプト展』57.1%、『ストーリーズ』50.0%の順となっている。

否定的評価は0.0%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

8 満足度

Q 6 ⑧全体的に見て、今回のご来館はご満足いただけましたか。

全体

		件数 (件)	いいえ	どちらかとい うといいえ	ない どちらでも	どちらかとい うとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	72	1.4	0.0	2.8	15.3	76.4	4.2
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	3.7	0.9	2.8	21.5	66.4	4.7
	古代エジプト展	397	1.5	1.3	5.0	19.4	68.0	4.8
経年	令和3年度全体	576	1.9	1.0	4.3	19.3	68.8	4.7
	令和2年度全体	1115	2.2	2.3	3.5	21.6	62.8	7.6
令和2年度	みんなのミュシャ	331	2.7	2.4	4.5	23.0	62.5	4.8
	富野由悠季の世界	695	2.2	2.2	3.2	21.6	62.7	8.2
	パラレル・ヒストリーズ	89	0.0	3.4	2.2	16.9	64.0	13.5

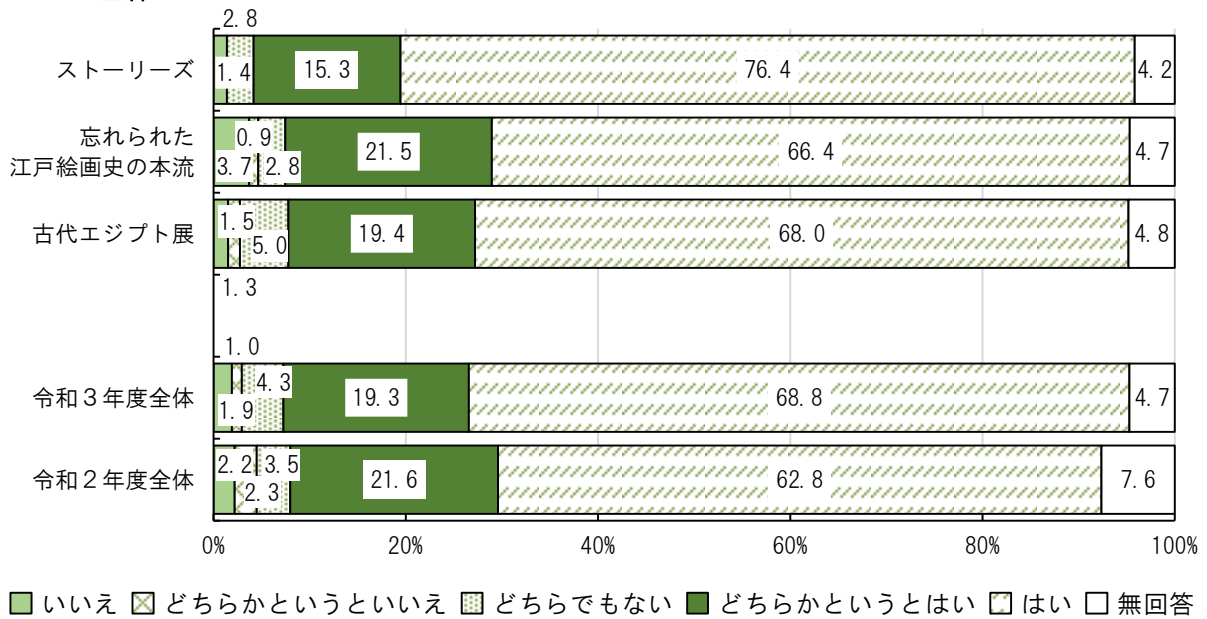
単位：％

新規来館者

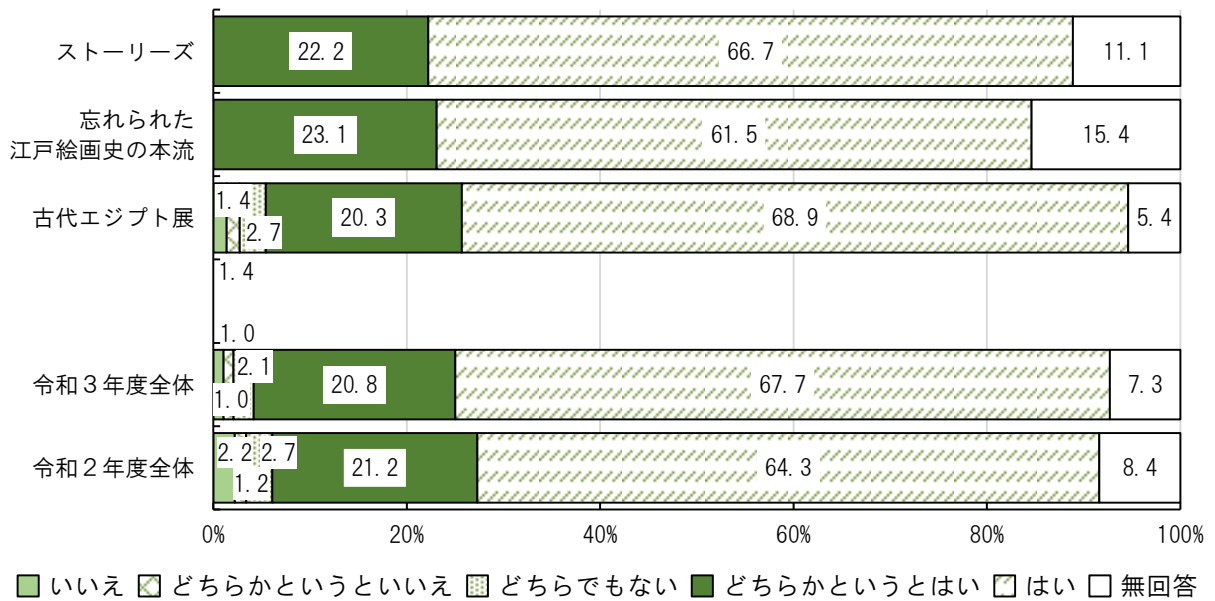
		件数 (件)	いいえ	どちらかとい うといいえ	ない どちらでも	どちらかとい うとはい	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	0.0	22.2	66.7	11.1
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	0.0	0.0	0.0	23.1	61.5	15.4
	古代エジプト展	74	1.4	1.4	2.7	20.3	68.9	5.4
経年	令和3年度全体	96	1.0	1.0	2.1	20.8	67.7	7.3
	令和2年度全体	490	2.2	1.2	2.7	21.2	64.3	8.4
令和2年度	みんなのミュシャ	92	3.3	1.1	5.4	19.6	62.0	8.7
	富野由悠季の世界	393	2.0	1.3	2.0	21.6	64.9	8.1
	パラレル・ヒストリーズ	5	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	20.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



満足度について、令和3年度全体は、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が88.0%となっている。肯定的評価は『ストーリーズ』91.7%、『忘れられた江戸絵画史の本流』87.9%、『古代エジプト展』87.4%の順となっている。

一方、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた否定的評価は3.0%となっている。

新規来館者の令和3年度全体は、肯定的評価が88.5%となっている。肯定的評価は『古代エジプト展』89.2%、『ストーリーズ』88.9%、『忘れられた江戸絵画史の本流』84.6%の順となっている。

否定的評価は2.1%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

9 「風景とロダンの美術館」としての認知度

Q5 当美術館は、「17世紀以降の東西の山水・風景画」や「ロダンと近代の彫刻」などをコレクションの柱にしている「風景とロダンの美術館」ですが、このことをご存じでしたか。
○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	いいえ	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	72	29.2	70.8	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	28.0	71.0	0.9
	古代エジプト展	397	30.7	69.3	0.0
経年	令和3年度全体	576	30.0	69.8	0.2
	令和2年度全体	1115	43.8	53.3	3.0
令和2年度	みんなのミュシャ	331	29.3	65.3	5.4
	富野由悠季の世界	695	53.2	44.9	1.9
	パラレル・ヒストリーズ	89	23.6	74.2	2.2

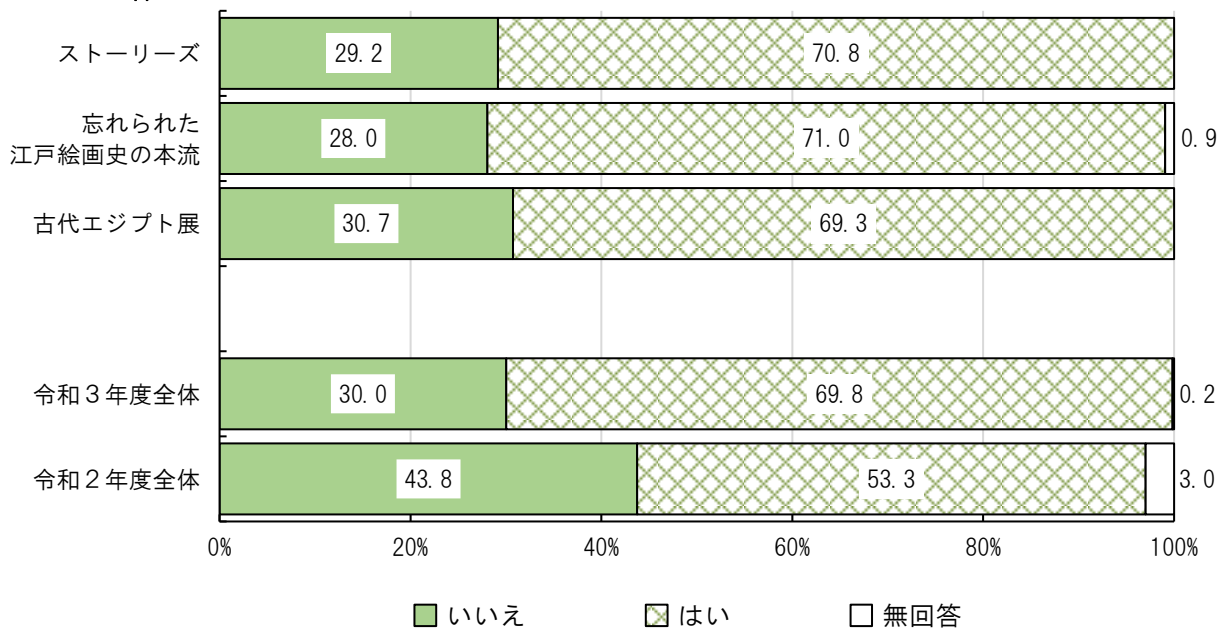
単位：％

新規来館者

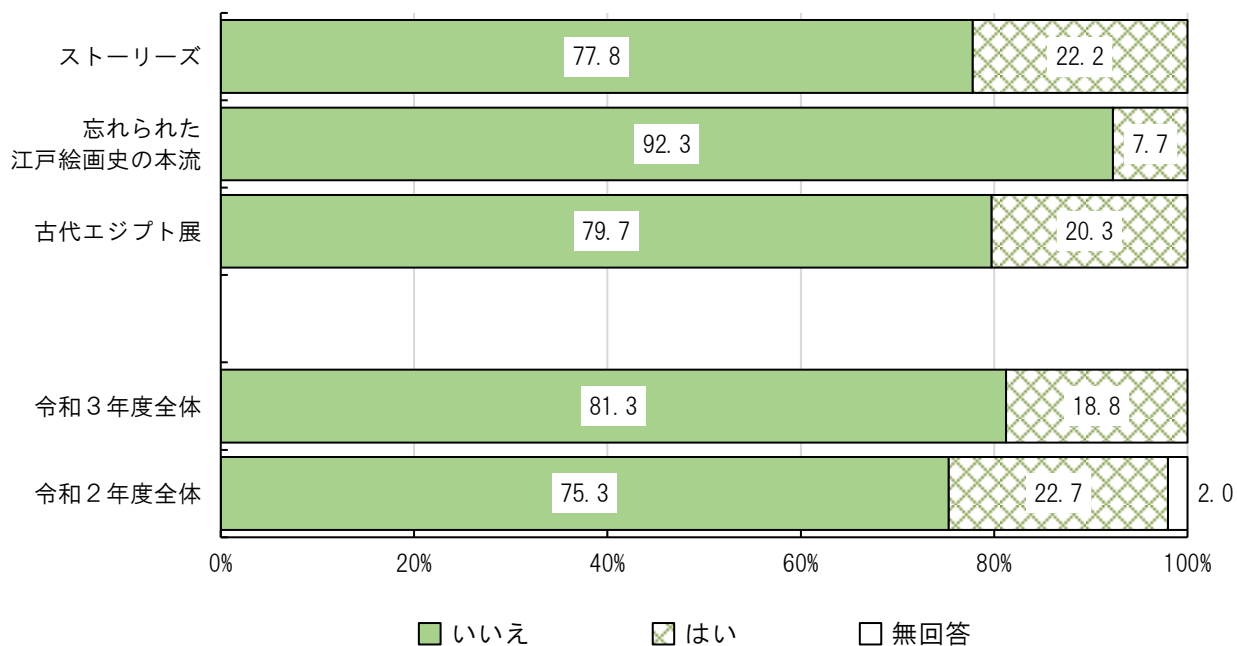
		件数 (件)	いいえ	はい	無回答
令和3年度	ストーリーズ	9	77.8	22.2	0.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	13	92.3	7.7	0.0
	古代エジプト展	74	79.7	20.3	0.0
経年	令和3年度全体	96	81.3	18.8	0.0
	令和2年度全体	490	75.3	22.7	2.0
令和2年度	みんなのミュシャ	92	68.5	28.3	3.3
	富野由悠季の世界	393	76.8	21.4	1.8
	パラレル・ヒストリーズ	5	80.0	20.0	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



「風景とロダンの美術館」としての認知度について、令和3年度全体は、「はい」69.8%、「いいえ」30.0%となっている。

展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「はい」70.8%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「はい」71.0%、『古代エジプト展』では「はい」69.3%と展覧会により大きな差異はみられない。

新規来館者の令和3年度全体は、「はい」18.8%、「いいえ」81.3%となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、『ストーリーズ』では「はい」22.2%、『忘れられた江戸絵画史の本流』では「はい」7.7%、『古代エジプト展』では「はい」20.3%となっている。

(5) レストラン、ミュージアム・ショップアンケート結果

1 レストランの満足度

Q7 レストランを利用された満足度について、それぞれに○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	利用 レスト ラン	利用して いない	無 回 答
令和 3 年度	ストーリーズ	72	12.5	70.8	16.7
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	20.6	59.8	19.6
	古代エジプト展	397	18.4	61.2	20.4
経 年	令和3年度全体	576	18.1	62.2	19.8
	令和2年度全体	1115	21.6	56.2	22.2

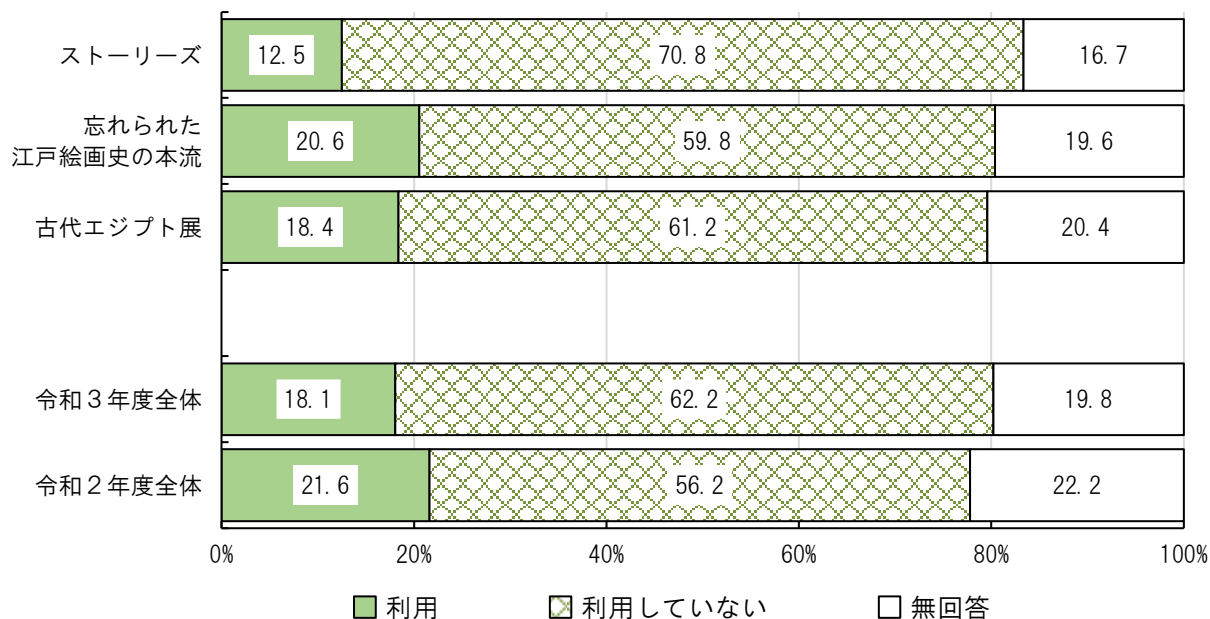
単位：％

レストラン利用

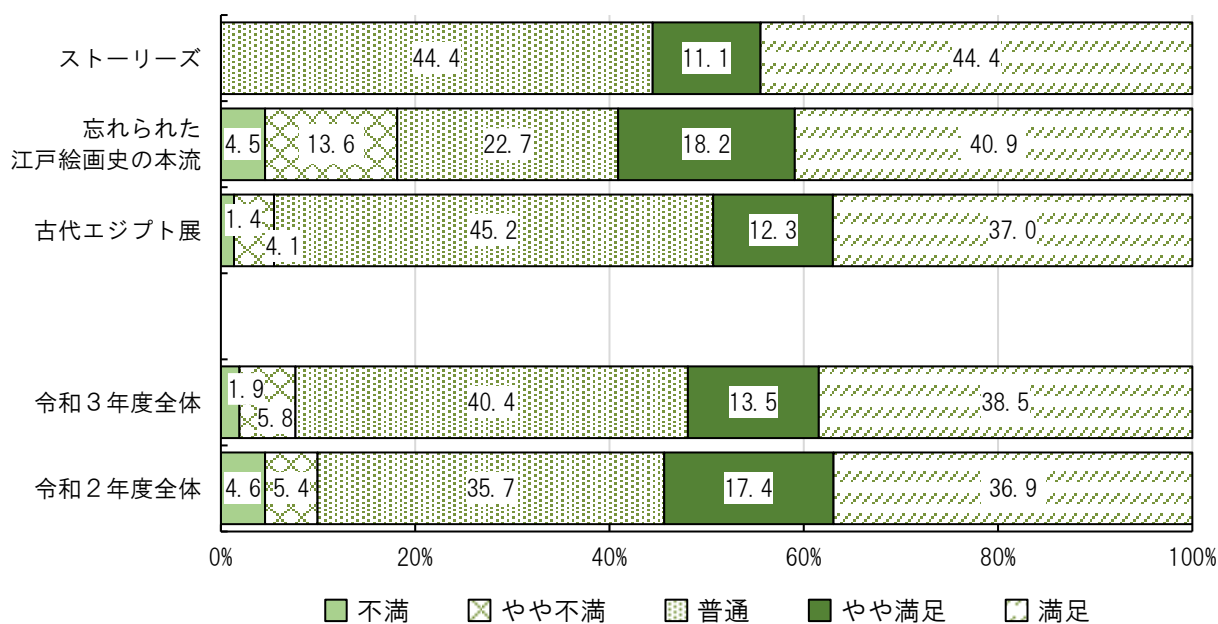
		件数 (件)	不 満	やや 不 満	普 通	やや 満 足	満 足
令和 3 年度	ストーリーズ	9	0.0	0.0	44.4	11.1	44.4
	忘れられた江戸絵画史の本流	22	4.5	13.6	22.7	18.2	40.9
	古代エジプト展	73	1.4	4.1	45.2	12.3	37.0
経 年	令和3年度全体	104	1.9	5.8	40.4	13.5	38.5
	令和2年度全体	241	4.6	5.4	35.7	17.4	36.9

単位：％

<全体>



<レストラン利用>



レストランの利用について、令和3年度全体は、「利用」18.1%、「利用していない」62.2%となっている。

レストランを利用した人の満足度について、令和3年度全体は、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が52.0%となっている。肯定的評価は『忘れられた江戸絵画史の本流』59.1%、『ストーリーズ』55.5%、『古代エジプト展』49.3%の順となっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた否定的評価は7.7%となっている。

※「やや満足」と「満足」を合わせた比率、「不満」と「やや不満」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

2 ミュージアム・ショップの満足度

Q7 ミュージアム・ショップを利用された満足度について、それぞれに○を1つお付けください。

全体

		件数 (件)	ミュージアム・ ショップ利用	利用して いない	無回答
令和3 年度	ストーリーズ	72	56.9	26.4	16.7
	忘れられた江戸絵画史の本流	107	61.7	23.4	15.0
	古代エジプト展	397	57.4	24.7	17.9
経 年	令和3年度全体	576	58.2	24.7	17.2
	令和2年度全体	1115	73.0	12.4	14.6

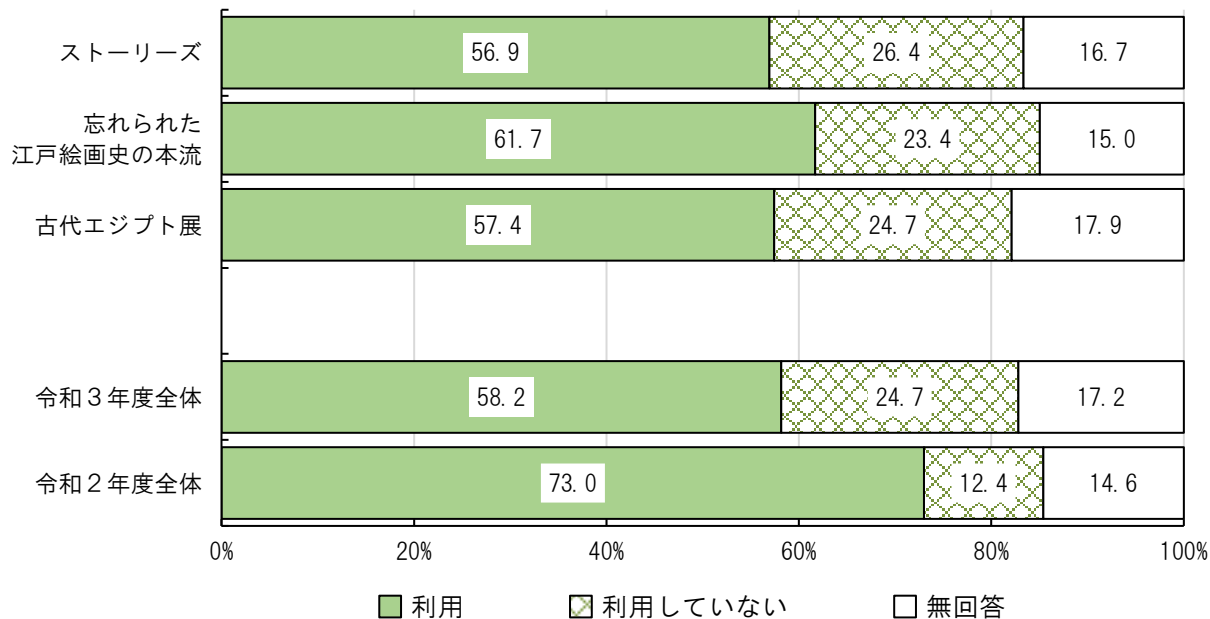
単位：％

ミュージアム・ショップ利用

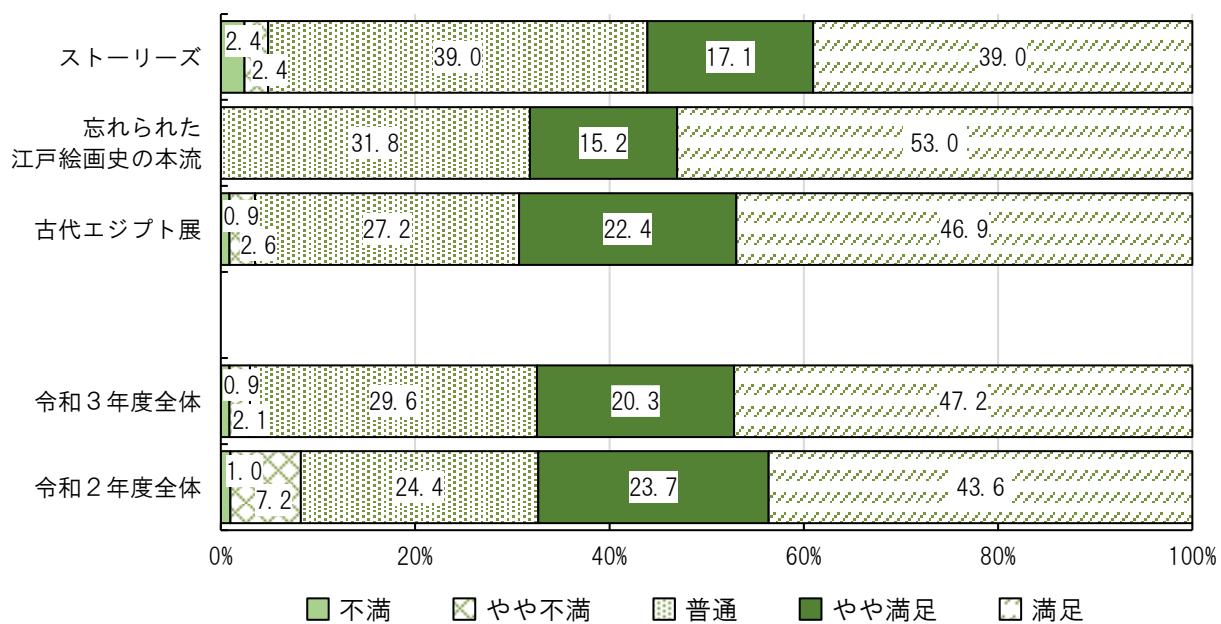
		件数 (件)	不 満	やや 不 満	普 通	やや 満 足	満 足
令和3 年度	ストーリーズ	41	2.4	2.4	39.0	17.1	39.0
	忘れられた江戸絵画史の本流	66	0.0	0.0	31.8	15.2	53.0
	古代エジプト展	228	0.9	2.6	27.2	22.4	46.9
経 年	令和3年度全体	335	0.9	2.1	29.6	20.3	47.2
	令和2年度全体	814	1.0	7.2	24.4	23.7	43.6

単位：％

<全体>



<ミュージアム・ショップ利用>



ミュージアム・ショップの利用について、令和3年度全体は、「利用」58.2%、「利用していない」24.7%となっている。

ミュージアム・ショップを利用した人の満足度について、令和3年度全体は、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が67.5%となっている。肯定的評価は『古代エジプト展』69.3%、『忘れられた江戸絵画史の本流』68.2%、『ストーリーズ』56.1%の順となっている。

一方、「不満」と「やや不満」を合わせた否定的評価は3.0%となっている。

※「やや満足」と「満足」を合わせた比率、「不満」と「やや不満」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

V 美術館ホームページアンケート結果

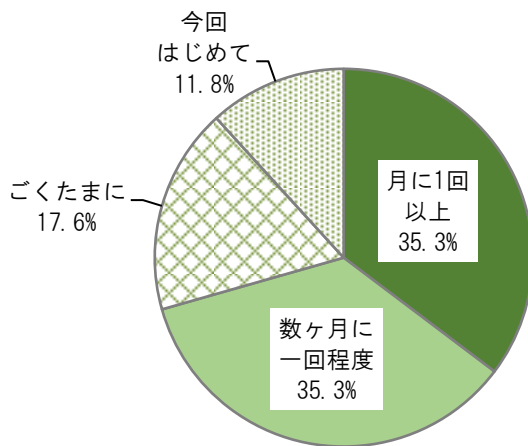
(1) 実施数（回答数）

17件

(2) アンケート結果

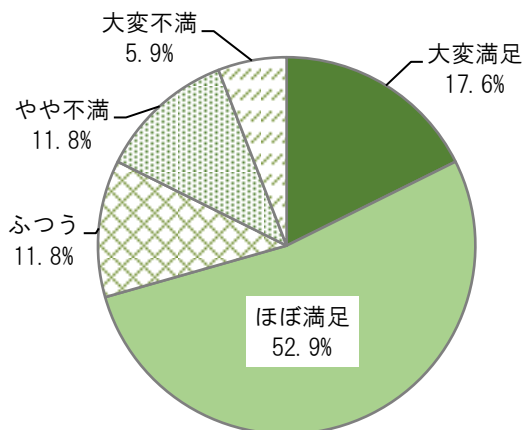
1 ホームページの閲覧頻度

		全体	月に1回以上	数ヶ月に一回程度	ごくたまに	今回初めて
令和3年度	回答数（件）	17	6	6	3	2
	割合（%）	100.0	35.3	35.3	17.6	11.8
令和2年度	回答数（件）	39	14	17	5	3
	割合（%）	100.0	35.9	43.6	12.8	7.7



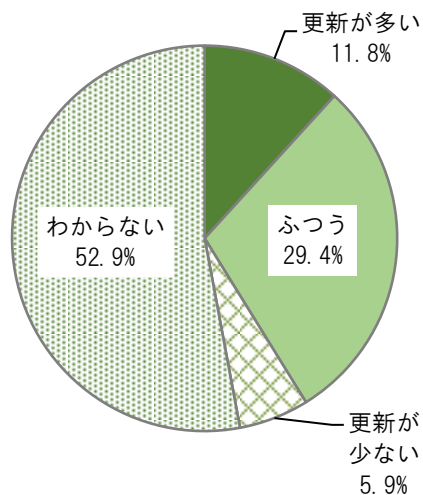
2 ホームページの情報内容

		全体	大変満足	ほぼ満足	ふつう	やや不満	大変不満
令和3年度	回答数（件）	17	3	9	2	2	1
	割合（%）	100.0	17.6	52.9	11.8	11.8	5.9
令和2年度	回答数（件）	39	11	17	6	3	2
	割合（%）	100.0	28.2	43.6	15.4	7.7	5.1



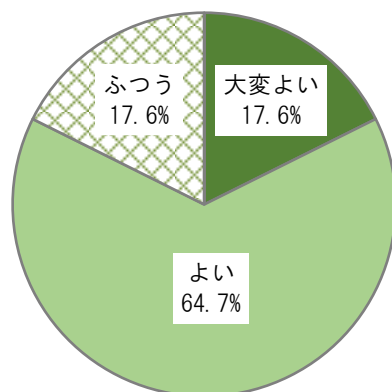
3 ホームページの更新頻度

		全体	更新が多い	ふつう	更新が少ない	わからない
令和 3年度	回答数(件)	17	2	5	1	9
	割合(%)	100.0	11.8	29.4	5.9	52.9
令和 2年度	回答数(件)	39	9	13	3	14
	割合(%)	100.0	23.1	33.3	7.7	35.9



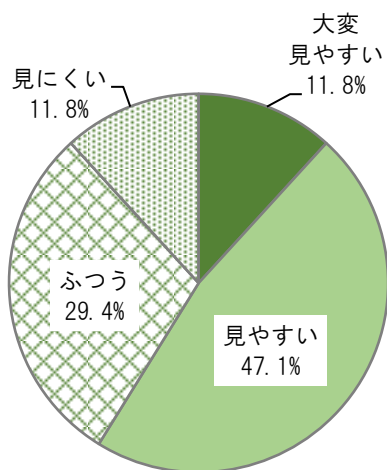
4 ホームページのデザイン

		全体	大変よい	よい	ふつう	あまり よくない	悪い
令和 3年度	回答数(件)	17	3	11	3	0	0
	割合(%)	100.0	17.6	64.7	17.6	0.0	0.0
令和 2年度	回答数(件)	39	12	19	6	2	0
	割合(%)	100.0	30.8	48.7	15.4	5.1	0.0



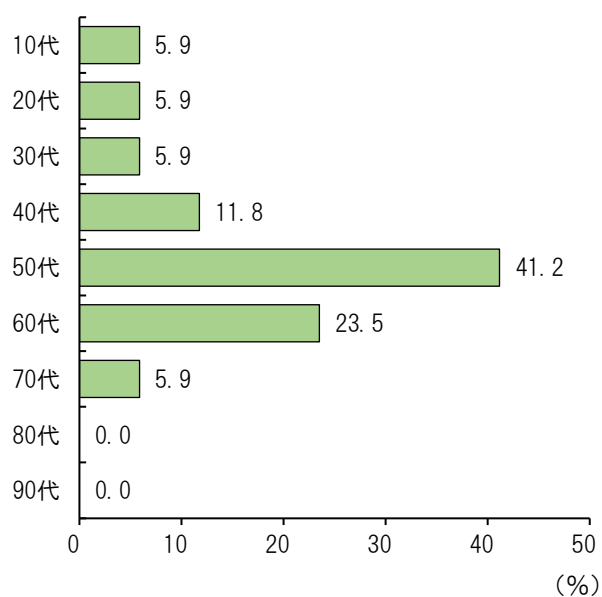
5 ホームページの見やすさ

		全体	大変見やすい	見やすい	ふつう	見にくい	大変見にくい
令和3年度	回答数(件)	17	2	8	5	2	0
	割合(%)	100.0	11.8	47.1	29.4	11.8	0.0
令和2年度	回答数(件)	39	11	18	7	0	3
	割合(%)	100.0	28.2	46.2	17.9	0.0	7.7



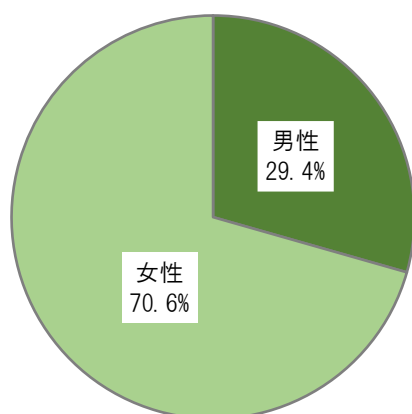
6 年齢

		全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
令和3年度	回答数(件)	17	1	1	1	2	7	4	1	0	0
	割合(%)	100.0	5.9	5.9	5.9	11.8	41.2	23.5	5.9	0.0	0.0
令和2年度	回答数(件)	39	3	1	6	10	13	6	0	0	0
	割合(%)	100.0	7.7	2.6	15.4	25.6	33.3	15.4	0.0	0.0	0.0



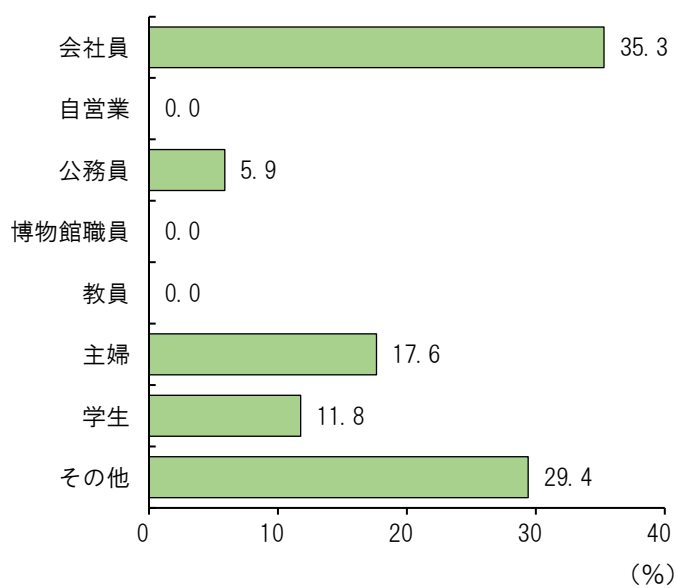
7 性別

		全体	男性	女性
令和 3年度	回答数(件)	17	5	12
	割合(%)	100.0	29.4	70.6
令和 2年度	回答数(件)	39	17	22
	割合(%)	100.0	43.6	56.4



8 職業

		全体	会社員	自営業	公務員	博物館職員	教員	主婦	学生	その他
令和 3年度	回答数(件)	17	6	0	1	0	0	3	2	5
	割合(%)	100.0	35.3	0.0	5.9	0.0	0.0	17.6	11.8	29.4
令和 2年度	回答数(件)	39	21	0	1	0	1	7	2	7
	割合(%)	100.0	53.8	0.0	2.6	0.0	2.6	17.9	5.1	17.9



VI 自由意見

この展覧会または当美術館についてのご指摘やご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。とたずねたところ、293件の自由意見があり、分類・性質別に整理をし掲載する。

自由意見の分類・性質別件数

	1			2			3			4			5		
	今回の展覧会			企画全般			展示方法			施設・環境			運営・スタッフ		
	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情	A 感想	B 要望	C 苦情
ストーリーズ	25	0	0	1	7	0	2	3	2	3	1	3	0	3	0
忘れられた 江戸絵画史の本流	20	1	0	4	7	1	8	5	2	2	7	3	0	2	2
古代エジプト展	40	7	3	10	12	1	25	22	9	8	10	12	7	4	9
全 体	85	8	3	15	26	2	35	30	13	13	18	18	7	9	11

単位：件

A 感想

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年齢
ストーリーズ		
それぞれの作品の裏話がわかり、面白かったです。	女性	20歳代
着眼点が面白く、若冲と草間彌生の購入背景を知られて良かったです。特に石田徹也の作品が一気に見られて満足です。他の作品も解説がついていたので捉えやすく助かりました。人物名にフリガナがついていると、もっとありがたいです。	女性	30歳代
学芸員の方のコメントがわかりやすく興味深く読ませていただきました。本に書かれている文言とは違う視点を知ることができました。このような企画はとても嬉しいです。	男性	60歳代
普段なじみ深い通り道の像、違う展示の時にたまに見かける棚などの作品情報に触れられて、とても良かったです。	女性	30歳代
絵と作者のエピソードが読めて面白かった。もう少しボリュームがあると嬉しい。	女性	40歳代
残照、湖、現代人に心を惹かれました。	男性	13～19歳
石田徹也氏の絵画がメインで物足りなかった。テーマとしては期待外れ。	男性	70歳以上
掛井五郎さんの作品は見知っていたが、静岡との関わりなど初めて知り、作品の見方や感じ方が変わった。	男性	60歳代
若冲、石田徹也が見られて良かったです。	女性	20歳代
掛井五郎先生の詩を模写するため、本展に2回足を運びました。中村岳陵先生の残照にもとても感銘を受けました。	男性	40歳代
今回の企画展は収蔵展というだけではなく、作品に愛着が湧くようなエピソードや裏話があり、とても見ごたえのある展覧会でした。	女性	50歳代

内容	性別	年齢
曾宮一念の絶筆が2作品並んで展覧され、稀有な展示だと感じました。石田徹也の海外での評価の高さに驚きました。若冲の作品の中でも素晴らしい収蔵だと思います。	女性	50歳代
とても心地良く見られました。もう少し作品についての四方山話があってもじっくり読んだかも。普段はキャプションを読み込まないので、今回は説明をじっくり読む楽しさを感じました。	女性	30歳代
とても良かった。	男性	13～19歳
コレクションの入手やその背景を説明するというの面白い視点だと思いました。コレクション展の新しい形ではないでしょうか。	男性	50歳代
静岡県立美術館についてはよく知らなかったのですが、作品が収蔵されたいきさつなどと一緒に美術館の歴史も少し知ることができました。楽しかったです。	女性	20歳代
とても興味深く見ました。	女性	50歳代
満足です。ありがとうございます。	女性	30歳代
今まで知らなかった美術の世界を知ることができました。	男性	30歳代
なかなか知ることのできないエピソードを知り、より深く作品に向かい合えたように思う。	男性	40歳代
石田徹也の作品が好きなので、鑑賞できて良かった。	女性	20歳代
学芸員の視点からの美術館コレクションの作品取得経緯や細かなエピソードを知ることができて、大変興味深かったです。作品鑑賞において、その背景を知ることにより深い鑑賞体験が得られます。地元でこのような画期的な企画展が見られて嬉しかったです。	女性	40歳代
若冲の白象群獣図とエントランスのモネを毎回楽しみにしています。新所蔵のカール・ドービーニーとストーリーズが気になっていたのを時期を合わせて来ました。学芸員さんのお話と一緒に日本画や彫刻をじっくり見る事は初めてでより一層楽しかったです。また、美術館に作品が来るまでも沢山の人の力がある事を再認識しました。作品一つ一つを近くからも遠くからも見る事ができてとても嬉しかったです。	女性	20歳代
楽しく拝見させていただきました。ありがとうございました。	女性	13～19歳
所蔵品への理解が深まり面白かったです。	女性	50歳代
忘れられた江戸絵画史の本流		
今回の狩野派がこんなにあるとは知りませんでした。	女性	70歳以上
こんな状況下ですが、どうしても見たくて来てしまいました。開いてくださりありがとうございます。	女性	50歳代
昨年ステイホームの時に花鳥の夢という本を読んで以来、狩野派の作品にもものすごく興味がわいて、今回の展覧会はとても楽しみにしていました。知らない絵師の作品をたくさん見られて、ますます興味がわく展覧会でした。良かったです。	女性	50歳代
狩野派に興味があるので、とても面白かった。	女性	50歳代
巡回の展覧会でなく単独での企画展で、とても興味深く拝見させて頂きました。	女性	40歳代
解説がわかりやすく面白かったです。投票も良い試みだと思いました。	男性	30歳代
思った以上に作品数が多く、見応えがありました。狩野派についての理解が深まりました。	女性	40歳代

内容	性別	年齢
日本画の基本を培ったというのに、狩野派についてさっぱり知らなかったことを痛感しました。	男性	50 歳代
投票が楽しかったです。いつもキャプションが多めですが、今回は理解の助けになりました。	女性	60 歳代
ここまで狩野派集結はそうあることではないから、実に貴重な機会でした。担当の学芸員さんのご尽力に頭が下がります。	男性	50 歳代
やはり男の絵筆であるため、全体に力があり、迫力がありました。今で言う写真の役割を果たしていたと考えられます。時代を感じます。	女性	50 歳代
人気投票がコメントも含めて面白かった。	男性	20 歳代
面白かったです。江戸狩野派の歴史や様式がわかりやすかった。	女性	50 歳代
優れた作品が揃っていて見応えがありました。前期後期共に見せて頂きました。	男性	60 歳代
古典学習の展覧、模倣の原典の絵もあわせて見られると良かった。著作権的に難しいかもしれませんが、画集などからの写真でよいので比較して見たかった。	女性	50 歳代
回覧板のチラシを見た時は楽しそうだったと思うが、実際は予想より堅かった。	女性	50 歳代
前回の狩野派展も鑑賞しましたが、貴館で開催する狩野派についての展覧会は、絶対外しませんね。今回も大満足。後期展示も必ず参ります！	男性	50 歳代
圧倒されました。表絵師の作品をこんなにたくさん見られるとは思っていませんでした。誰に何を学習して、その成果がどう制作に活かされたのか、立体的に見えた気がします。素敵な展覧会をありがとうございました。	男性	20 歳代
狩野派というものが初めてわかりました。ずっと一人の人かと思っていたので。大変わかりやすかったです。あとロダンの展示が素晴らしかった。予約もスムーズにできました。	女性	40 歳代
狩野派研究の深まりを知ることのできる素晴らしい展示でした。今後も若冲に限らず地道な研究に基づく展示を期待します。	男性	30 歳代
古代エジプト展		
開催してくれてありがとうございました。	女性	50 歳代
昔こちらでセクメトの石像を見てからずっとファンで、いろいろなエジプト展を巡るようになりました。今回たくさんのセクメトに会えて、撮影までできて、本当に嬉しいです。	女性	30 歳代
何回かエジプト展を見せてもらえて良かった。説明文がはつきり書かれていて読みやすかった。	女性	70 歳以上
過去のエジプト展に比べたら物足りなかった。	女性	50 歳代
わかりやすく、撮影可もとても良かった。楽しかった。	女性	20 歳代
とても楽しく展示をまわれました。ヒエログリフを勉強して、また来ます。	女性	20 歳代
素晴らしかった。予想外。	男性	70 歳以上
とても素晴らしい内容で満足できました。ありがとうございました。	男性	50 歳代
とても良かったと思います。	男性	60 歳代
とてもおもしろかったです。	女性	20 歳代
ネフェルティティ像が来ないのは残念。	男性	70 歳以上
これだけ立派なコレクションを展開できる静岡を見直しました。	女性	60 歳代

内容	性別	年齢
長くて少し疲れた。貴重な展示品ばかりで、とても興味深かったです。	女性	12歳以下
今回のエジプト展は、小さいお子さんも楽しそうに見ていました。楽しいあまり声を上げてしまうのを親御さんが申し訳なさそうにしていたので、何か対策があればご家族で見やすいと思います。	その他	30歳代
楽しかったです。	女性	12歳以下
エジプト展は前回も来館しました。今回もとても良かった。	女性	70歳以上
2000年もの昔に、優れたレリーフ、アクセサリ、棺や死者の書に描かれた絵を作りあげた芸術家がいかに感銘を受けました。静岡市美術館でのエジプト展とは違うおもしろい企画でした。	男性	60歳代
今までエジプト展を数多く見てきましたが、日本初公開、しかもトップクラスの展示だと思います。珍しいものがたくさんあり、しかも完全なものが多い。そして撮影可でスマホに入れられることは、かつてなかったです。室内装飾もとても良かったです。	女性	50歳代
アヌビスが格好良くて惚れました。アヌビス推します。エジプト展おもしろかったです。	女性	20歳代
エジプトについてよく知ることができて楽しかったです。	女性	20歳代
ゆっくり観ることができました。エジプトへ旅行したことがあり、今日のエジプト展で再度行きたいと思いました。ありがとうございました。	女性	70歳以上
今回はきれいで見やすかった。	女性	60歳代
ちょうど良いボリュームでした。	女性	20歳代
古代エジプト展すばらしかったです。	女性	50歳代
また見たいです。ミイラがあると、もっと嬉しいです。	女性	20歳代
とても楽しかったです。	女性	20歳代
古代エジプト展良かったです。	女性	40歳代
ナビをした荒牧くんのファンです。エジプトも好きで、とても楽しめました。またナビを聞きたいです。	女性	20歳代
写真撮影を許可していただけて、とても嬉しかったです。たくさん撮影させていただきました。ただ、フラッシュをたいて撮影されているお客様、携帯電話がマナーモードになっていないお客様などが気になりました。また、音声ガイドに荒牧慶彦様を起用してくださってありがとうございました。アヌビス様も荒牧慶彦様も好きなので、たいへん楽しませていただきました。また来館したいと思います。	その他	20歳代
素晴らしい。また来たいと思います。	男性	40歳代
とても楽しく展示を拝観できました。コロナで大変な中、こういった展示を企画していただきありがとうございます。ただ、奇声を上げる子どもを連れた老人がいたので、ラストの方とミュージアム・ショップを見るのが駆け足になってしまい、じっくり見られなかったことだけが残念です。	女性	30歳代
以前から来たいと思っていましたが、エジプト展をきっかけに来ることができて満足です。また機会があれば来たいと思います。	男性	50歳代
メジェド様のグッズがあると嬉しいです。	女性	20歳代

内容	性別	年齢
ミイラではなく、ミイラに関する副葬品をメインにした今回の展示は、棺や小さな像だけでなく大きな石像なども拝見できたので、貴重な経験となりました。	女性	20 歳代
とても良かったです。	女性	30 歳代
今日はとても貴重なものがみられました。	男性	40 歳代
色々な事を学ぶことができました。ありがとうございます。	女性	13～19 歳
荒牧慶彦さんのナレーションがとっても聴きやすく、アニメーションもわかりやすかったです。また是非よろしくお願いします！	女性	13～19 歳
楽しめました。	男性	50 歳代
エジプト神話について、まとまっていてわかりやすかったです。キャラクターもかわいくて親しみがわきました。	男性	20 歳代

【2 企画全般】

内容	性別	年齢
ストーリーズ		
若冲やロダンなどの展示が良かった。モネが無料公開されているのも素晴らしい。	男性	40 歳代
忘れられた江戸絵画史の本流		
ロダンの展示が素晴らしかったです。	女性	40 歳代
富士山の絵が多い。静岡で展示することがありがたい。	男性	60 歳代
意義深い展示だと思う。	男性	20 歳代
静かにゆったり鑑賞できる所が良いですね。コロナ禍の影響もあるのでしょうか、学芸員レクチャーの機会やそれぞれの展覧会の専門家を招いての講演会が少ないような…こちらが増えると嬉しいです。山田五郎さんの講演が中止になってしまったこと、とても残念です。	女性	40 歳代
古代エジプト展		
とても良い企画です。次回も楽しみにしています。	男性	70 歳以上
このままが良いです。	男性	30 歳代
ロダン館も興味深くまわれました。	女性	40 歳代
いつもとても満足しています。	女性	50 歳代
興味深い展覧会でした。また関心の引かれる特別展があれば来たいと思います。	男性	30 歳代
エジプトなど歴史物の展示会が好きなので、近くで開催していただき嬉しかったです。	女性	20 歳代
エジプト展がよく展示されるから良い。	女性	50 歳代
また次回も楽しみにしています。	女性	40 歳代
エジプト展には必ず来館しています。次回の展示も心待ちにしています。	女性	40 歳代
QuizKnock のコラボということで来たのですが、エジプト展はもちろん、ロダンの作品の数々にも引き込まれました。	女性	30 歳代

【3 展示方法】

内容	性別	年齢
ストーリーズ		
座りながら鑑賞できたらいいと思います。静岡市美術館のように。	男性	20 歳代
若冲派についてなど学芸員の仕事がよく分かりました。また石田徹也の作品がまとめて見られて良かったです。強いて言うなら作家略歴があっても良いかと思いました。	男性	50 歳代
忘れられた江戸絵画史の本流		
チラシなどをしっかり読んで来るのですが、もう少し字が大きいと助かります。	女性	70 歳以上
73 と 110 の（傲雪舟）梅潜寿老図は、互いの比較に写真などが置いてあれば良かった。	男性	30 歳代
今回の展示は説明文が前面に表示されており読みやすかった。	男性	70 歳以上
とても面白く充実した内容だったが、作家の系図と作風の把握はなかなか大変。系図だけは配布してくれると追いやすかったと思う。	女性	40 歳代
展示の奥行があり遠い。壁に仮設の展示が数点あったが近くて良い。	男性	60 歳代
模倣作品の展示は面白かった。自分が知っている絵もあり、そのような作品とそれ以外で理解度に差があったので、原画の写真などもあると比較できてもっと良かったと思う。	男性	40 歳代
狩野派の表絵師、奥絵師のキャプションや名前の振り仮名がわかりやすく良い展示だと思いました。	女性	20 歳代
総選挙のパネルが最初にあれば、作品の見方が違った。キャプションの文章が長いのでやや疲れてしまった。	女性	20 歳代
古代エジプト展		
音声ガイドの説明がとても良かったです。	男性	12 歳以下
撮影 OK が嬉しい。日本初の作品を数多く目にすることができて幸せ。平日で人数も多くなく、心ゆくまで楽しめました。	女性	70 歳以上
写真を撮っても良いということですが、観賞している人の前を独占して撮影するのはどうかと思います。	-	-
見せ方がとても素敵でした。	女性	50 歳代
展示が工夫されていて、とても良かった。今回はエジプトの出土品で、石でできているものが多かったので、岩石の種類も知りたくなった。	女性	60 歳代
音声ガイドを利用して良かったです。	男性	60 歳代
展示の仕方も素敵でした。ありがとうございます。写真 OK も良いですね。	女性	30 歳代
エジプト展のパネル説明がわかりやすかったです。音声ガイドがあると、どのくらい充実度が違うのか、入口で説明があれば尚良かったです。ありがとうございました。	女性	20 歳代
映像ガイドがあって良かったです。	女性	40 歳代
展示品の内容やアニメーションの説明もわかりやすく充実していて、とても勉強になりました。	女性	40 歳代
撮影可はとても良かった。理解が深まった。密にならない配慮があり、気持ち良く展示を鑑賞できた。	男性	50 歳代
照明などが雰囲気合っていて良かったです。	女性	20 歳代
写真を撮る人がいて、一つの作品の前はずっといるため、見づらい時がありました。	女性	30 歳代

内容	性別	年齢
写真撮影ができたので良かった。アニメの解説を入れることによって、古代エジプトの宗教観がわかりやすかった。コロナ対策も考えてくれてあり良かった。	男性	50 歳代
展示場に置いてあった照明がエジプトらしさを反映していて、とても良かった。	男性	20 歳代
人混みを避けたつもりでも、やはり密になってしまいました。	女性	50 歳代
エジプト展の展示が素敵でした。星空や遺跡の中のような表現が体感できたこと、ガラスケースなしで実物の大きさを感じられたことが、とても良かったです。	女性	20 歳代
途中に入る注意放送の音が大きいので妨げになる。アニメーションがとてもわかりやすくて良かった。音声ガイドをいつも利用しているが、最近はクイズがあって良い。楽しかった。	女性	50 歳代
広くて、どの展示も非常に満足できるものでした。	女性	13～19 歳
音声ガイドとクイズで、大変楽しく観覧できました。	女性	60 歳代
撮影可能良かったです。	男性	50 歳代
平日なのでゆっくり見られました。音声ガイドも必ず借りるようにしていますが、今回もあって良かったです。	女性	50 歳代
以前より座る場所が減っていて、疲れたときにすぐに座れなくなっていたのが残念でした。展示については、作品の数が少なく一つひとつを間近でじっくり鑑賞できて、とても満足でした。展示の内装も、テーマに合わせて変わって行って、とても楽しめました。音声ガイドもとても聞きやすく、古代エジプトについて、新たに多くを知ることができて、大変充実した時間が過ごせました。ありがとうございました。	女性	30 歳代
写真を撮れたことが良かった。図録は見本があると良かった。	男性	40 歳代
エジプト神話の知識がなくても解説がわかりやすかった。アニメーションや照明、展示物以外の環境も整っていて楽しめた。	女性	20 歳代

【4 施設・環境】

内容	性別	年齢
ストーリーズ		
駐車場が少し遠いのがキズですがそれ以外は満足。	女性	20 歳代
パネルの釘跡が活動の豊富さを語っているようで良かったです。エアコンがなかなか元気で、そろそろ更新時期なのでしょうか。	男性	40 歳代
とても居心地が良かったです。	女性	13～19 歳
忘れられた江戸絵画史の本流		
空調が寒いところがあり、温度アレルギーで鼻水が止まらなくなったのが残念です。	女性	50 歳代
静かに絵を楽しむことができて良かったです。	男性	50 歳代
古代エジプト展		
初めて来館しましたが、とても居心地が良く、立地環境も良かった。また来たい。	女性	30 歳代
今度は新幹線で来たいです。	女性	70 歳以上
駐車場が無料で良かった。自然も多くて楽しめた。	男性	50 歳代
コインロッカーはありますか？	女性	20 歳代

内容	性別	年齢
感染対策もきちんとしていて、安心して鑑賞できました。	女性	40 歳代
雰囲気よかった。	女性	40 歳代
駐車場の案内が少しわかりにくかった。	男性	50 歳代
入館もスムーズで、鑑賞もゆっくりできました。	男性	40 歳代

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年齢
古代エジプト展		
ガラスが汚れているとガッカリするので、ガラスに触れている人を直接注意していて良かった。	男性	40 歳代
コロナ禍で大変だと思いますが、頑張ってください。	女性	50 歳代
来場者の人数が多かったと思います。	女性	50 歳代
コロナ対策のため入場規制がされていたので、落ち着いて鑑賞できた。	女性	50 歳代
もっと人が少ないかと思いました。映像をみるために人がたまるので、少し不安になりました。	女性	30 歳代
事前に混雑具合やコロナについて問い合わせたが、男性の職員が、とても丁寧に対応してくれました。	男性	50 歳代
入場がチケット制になっていたのが、スムーズに入場できて良かった。昨年のミュシャ展では 30 分くらい並んだ。	女性	30 歳代

B 要望

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年齢
忘れられた江戸絵画史の本流		
素晴らしい作品、内容だったので、知人にも勧めます。探幽がもっと見たい！	女性	40 歳代
古代エジプト展		
本日の特別講演会はオンライン開催なので、録画をアーカイブで提供してください。	男性	50 歳代
特別講演会の聴講が叶いませんでした。配信と伺いましたので、ぜひアーカイブ視聴をお願い致します。	女性	50 歳代
ミイラが見られると良かったです。	女性	30 歳代
目録リストを紙でほしかった。ダウンロードは入口の電波が悪く、その場で確認できず不便だった。	女性	30 歳代
メジェド神がいなかったのが残念。死者の書を飾ってほしい。	男性	20 歳代
ネフェルティティ胸像を見たかった。	女性	50 歳代
ミイラを見たかった。	男性	12 歳以下

【2 企画全般】

内容	性別	年齢
ストーリーズ		
若沖の作品について、もっと知りたい。	男性	20 歳代
石田徹也氏の企画展をお願いします。	男性	50 歳代
所蔵していても、なかなか観られない好きな作品もあるので、人気投票やリクエストなどで展示を企画してほしいです。	女性	40 歳代
確か県立美術館でお持ちだと思うので、白髪一雄の作品が見られる機会がこれからあると嬉しいです。コロナで来るか来ないか迷っていたので、今回の展覧会の会期がもう少し長かったら良かったです。館長さんの講演も聞いてみたかったのですが、人数制限の上、予約制にして頂いた方が参加しやすかったかもです。	女性	40 歳代
Perfume の展覧会と SexyZone の展覧会を開催して欲しいと思います。	女性	20 歳代
本展覧会はとても素敵でした。県立美術館にはよい作品が多く収蔵されていることがわかった。先の、ムーミン展やガンダム展の様な、親しみやすい、万人受けする展覧会も美術館を存続するには必要なのだと思うけれど、今回の様な、自分の住む県の学芸員の方たちが専門性を発揮できる展覧会が必ずあってほしいと思う。ミュージアムショップは書籍とグッズを分けて拡大してもよいのかな、と思いました。	女性	30 歳代
所蔵作品を様々な文脈で見ることは近くに住んで美術館に通う人間にとって大きな喜びです。今後も意欲的な所蔵品展を期待します。	女性	30 歳代
忘れられた江戸絵画史の本流		
SexyZone の展覧会と Perfume の展覧会と King&Prince の展覧会を開催してほしいと思います。葉っぱの絵などが見られて良かったです。次回の展覧会も楽しみです。	女性	20 歳代
静岡県人として地元の北川民次画伯の絵ハガキを店に置くべきです。	女性	70 歳以上
有名でない絵がたくさん見られて勉強になりました。日本の絵も好きです。ミッフィー展をやってもらいたいです。	女性	50 歳代
日本画展が少ないように思う。日本画家の優れた絵画をもっと多く見たい。東京や京都へよく見に行っているの、地元でも見られるようにしてほしい。	男性	40 歳代
コロナ対応で大変だと思います。来館者数よりも後々印象に残るような展覧会の企画を期待しています。	男性	60 歳代
またニコ美に登場してほしいです。	女性	20 歳代
3 年前の幕末狩野派展も楽しかったですし、今回も前後期とも見させてもらいました。狩野派は奥が深い。また狩野派展企画してください。	男性	50 歳代
古代エジプト展		
SexyZone の展覧会を開催してほしいと思います。	女性	20 歳代
とても見やすく、来るたびに雰囲気違っておもしろいです。蛭川実花展もやってほしい。	女性	20 歳代
日本の近代洋画について見てみたい。今回の展覧会は良かった。説明が少しわかりにくい。	男性	60 歳代
アニメーションがあって、とてもわかりやすかったです。またお願いします。王家の紋章とまたコラボしてください。エジプト展を開催希望です。	女性	30 歳代
動画がとてもわかりやすく、同じように続けてほしい。	女性	12 歳以下

内容	性別	年齢
ギリシャ彫刻やポッティチェリがみたいです。	女性	13～19 歳
エジプト展もおもしろいですが、他の古代神話に基づいた展覧会も行っていただきたい。	女性	40 歳代
狩野派の源は伊豆ということで、是非一度大展覧会を実施してください。	男性	60 歳代
今後も美術的に価値のあるものだけでなく、知的好奇心をくすぐるような展示を楽しみにしています。	女性	20 歳代
富野由悠季展最高でした。庵野さんの企画もお願いします。	男性	40 歳代
またエジプト展を開催してほしい。	女性	30 歳代
また様々な展示をお願いしたいです。	男性	20 歳代

【3 展示方法】

内容	性別	年齢
ストーリーズ		
映像を観るための椅子がほしかった。一度に県とゆかりのある人達の作品を観られて良かった。掛井五郎の作品を初めてたくさん観られた。	女性	70 歳以上
常に新鮮さを与えるために展示の方法、見せ方にコストをかけて観覧者に語りかけて欲しい。また、そこから発展するような示唆を与えてくれると親切なのでお願いします。	男性	30 歳代
作品についてもっと詳細な説明が欲しい。	女性	13～19 歳
忘れられた江戸絵画史の本流		
健康上、杖を使用中なので、ちょっと腰かけに座る時間がほしかった。	女性	70 歳以上
この館所蔵の絵画が参考として写真が提示されていたのが興味深かった。その辺りをもう少し知りたかった。	女性	60 歳代
絵画中の詞や歌の解説があると、もっと作品の理解が深まると思う。ご検討ください。	男性	60 歳代
複数枚ある作品や長い巻絵はすべて展示してほしい。	男性	50 歳代
遠すぎて細かい絵の筆がよく見えない。ガラスケースがあるのだから、もう少し近くに絵を持ってこられませんか。	女性	70 歳以上
古代エジプト展		
時代別に展示してほしい。テーマ別のつもりなのかもしれないが、全くわからない。何でできているのか、どこから発掘されたのかを記してほしい。	女性	60 歳代
背面にレリーフがあるものには、鏡を置いてほしかった。	女性	50 歳代
比重がわかり、手に持った時の感覚がイメージできるので、材質の表記がほしかった。	女性	30 歳代
素材の説明と工作の手法の説明がほしかった。	男性	50 歳代
展示物の素材について知りたかった。	男性	20 歳代
展示物の標記に材質名がほしい。標記に紀元前とあるが、幼児やシニアにもわかりやすいように、現在より何年前の方が興味がわくのではないか。	女性	70 歳以上
展示物の素材や歴史的背景について、さらに説明があると良かったと思います。	男性	30 歳代
石や鉱物の種類など、展示物の素材を記載してほしいです。	女性	40 歳代
専門用語に対する解説文がほしかった。	男性	30 歳代
出品リストはダウンロードではなく紙で置いてください。	男性	50 歳代

内容	性別	年齢
もう少し各神々の説明や逸話があれば、もっと楽しいと思う。個人的にはセト神がいなかったのが悲しい。	女性	30 歳代
供物鉢の重さが記してあると、もっと良いと思った。	女性	50 歳代
展示物が何でできているか知りたいです。	女性	50 歳代
展示品の素材を記入しておいてほしかった。ガラスケース天板の埃が気になる。	女性	40 歳代
彫像の素材の表示がほしい。一般的でない名詞の日本語訳がほしい。	男性	70 歳以上
解説の横にも音声ガイド番号を書いて頂けるとわかりやすいです。	女性	40 歳代
どこから出土したのか、文字の解読や何の素材でできているのかなど、もう少し説明があると良かった。	女性	60 歳代
木棺や石棺など、何でできているのか素材の説明がほしかった。	女性	40 歳代
展示の仕方をもっと工夫してほしい。せっかく背面を拡大展示しているのに展示物で見えない。	女性	50 歳代
古代エジプトの墓内を再現したブースがあると更に良かったと思います。実際に何がどこに設置されているかが知りたかったです。	男性	20 歳代
展示物が何でできているのか、素材を知りたかったです。	女性	13～19 歳
エジプト文字を解読して展示してほしい。	女性	50 歳代

【4 施設・環境】

内容	性別	年齢
ストーリーズ		
企画展のグッズを増やしてほしい。照明の問題ではなく、建物全体の印象が暗く、無機質な印象でした。もう少し明るい空間の方が美術館として魅力的に感じると思いました。	女性	20 歳代
忘れられた江戸絵画史の本流		
できれば照明をもっと明るくしてもらえると老人には助かる。	男性	60 歳代
駐車場があるのはありがたい。レストランにランチタイムがあれば良い。	女性	50 歳代
静鉄の駅から歩き通しの人は疲れるので、展示通路に椅子があるとありがたい。	男性	13～19 歳
コロナ禍で仕方がないですが、途中でソファが欲しいです。	女性	60 歳代
コロナ対策上仕方がないと思いますが、椅子がないのは大変です。平日だけでも出せないでしょうか。	女性	30 歳代
企画展入口で鉛筆の貸出があると助かります。	女性	40 歳代
少し冷房がキツイ。カフェが休みなら、入り口に表示してほしい。自販機が館内に欲しい。展覧会については、系図を見ながら回りたいだったので、紙で欲しかった。他は楽しく拝観しました。	女性	50 歳代
古代エジプト展		
バスの本数をもっと多いと良い。	男性	40 歳代
出入口付近にトイレや水分補給のできるスペースがほしいです。	女性	20 歳代
駐車場の白線が消えていて駐車しづらいです。改善してください。	男性	60 歳代

内容	性別	年齢
館内で流れている動画の音が気になりました。音を抑えるか、字幕にするなどしてください。	女性	20 歳代
外階段に貼られたタイルに苔が生えていて雨で滑りやすかった。清掃していただくと助かります。	男性	40 歳代
QR コードで案内があったが、館内は圏外で情報を得られなかった。Wi-Fi を整えてほしい。	女性	50 歳代
駐車場の案内がほしかった。ロダンの「バラの髪飾りの少女」の展示場所をわかりやすくした方が良くと思う。	女性	40 歳代
建物の構造だからどうしようもないが、展示会場の中にトイレがほしい。	女性	60 歳代
草薙駅からのバスが一時間に 1 本とはわからなかったので、明記してほしい。徒歩の場合は坂道が長いので歩き易い靴を、と書いてほしい。	女性	50 歳代
一階トイレ洗面の蛇口の改善を検討した方が良くと思います。	女性	50 歳代

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年齢
ストーリーズ		
お喋りをするお爺さんお婆さんを注意して下さい。うるさい上にコロナ対策として最悪です。伊藤若冲や草間彌生の絵や作品が見られてよかったです。静岡市美術館のように事前 Web 予約を導入して欲しいです。	女性	30 歳代
コロナ禍の中、入場制限等大変ご苦労があるかと思います。入場者の会話が気になります。普通に鑑賞しても 1 時間ほどは滞在するためマスクをしていても会話は慎むように直接促していただきたく思います。今後の狩野派、エジプト展と混雑した場合に備えよろしくお願ひ致します。今回の若冲を所蔵するにあたってのやりとり等の記載が当時のその場を思わせるようで面白かったです。次回もキャプション期待しています。	女性	40 歳代
作品は線より近くで見てはならない事は、学生や小さい子だけに言うのではなく、どの年代の人にも言った方がいいと思う。子どもだけではなく、大人にも。	男性	13～19 歳
忘れられた江戸絵画史の本流		
当美術館で今何を展示されているのか、もっと知りたい。	女性	50 歳代
コロナ禍で外出が厳しくなっている状況ですが、美術館鑑賞は感染対策を強化して是非開館を継続していただきたいです。	女性	60 歳代
古代エジプト展		
うるさくしていたり、ケースに手をついたりマスクを外していたりする子どもに注意してほしい。	女性	50 歳代
フラッシュを付ける人は絶対やめさせてください。展示品が傷むことを書面で渡し、了解できる人のみ撮影を OK としてほしい。	男性	70 歳以上
密の回避を呼びかけてほしい。	男性	20 歳代
ミュージアム・ショップですが、もう少し子ども向けのグッズや日常使える物を充実させてほしいです。	女性	50 歳代

C 苦情

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年齢
古代エジプト展		
写真撮影ができるので、スマホやデジカメで撮っている人のシャッター音が気になって集中できない。	女性	40 歳代
いろいろな人のカメラのシャッター音がうるさかった。	女性	12 歳以下
写真を撮る方のシャッター音が気になりました。消音をお願いしたいです。	女性	60 歳代

【2 企画全般】

内容	性別	年齢
忘れられた江戸絵画史の本流		
各家の作風の違いが素人には判別できない。キュレーション、展示、空間が地味すぎる。	男性	30 歳代
古代エジプト展		
企画力と運営方法、展示方法が大変不足している。	男性	70 歳以上

【3 展示方法】

内容	性別	年齢
ストーリーズ		
川村清雄の「海底に遺る日清勇士の髑髏」の絵が反射でとても見にくかった。もう少し低く。残念です。	女性	60 歳代
暗い彩色の作品が、ガラスの反射で少し見えづらかった。	女性	20 歳代
忘れられた江戸絵画史の本流		
コロナで仕方がない面もあるが、休めず一気に観るのはきついです。年配の方はもっと大変ではないでしょうか。	女性	40 歳代
展示のガラスに照明が反射して、やや観づらかった。	男性	60 歳代
古代エジプト展		
音声ガイドを利用しましたが、ガイド番号の展示がわかりにくかったです。	女性	50 歳代
会場内の写真撮影はやめてほしい。シャッター音がうるさい。	男性	60 歳代
展示物のキャプションに材質の説明がなかったのが残念。未就学児の声がうるさい。会話を制限しているにもかかわらず、大声で会話をしている夫婦をなぜ注意しないのですか。フラッシュをたいて撮影している中学生もいました。	女性	50 歳代
字が小さい。	女性	13～19 歳
今回の説明文には何の素材でできているかの説明がない。	女性	50 歳代
カメラ撮影がダメだと書いてあっても、携帯で撮影していた。	女性	30 歳代
エジプト展はよく行くのですが、いつも書いてある素材の説明がなくて残念でした。	女性	50 歳代
素材も不明で年代もバラバラ。静岡市美術館のエジプト展の方が良かった。	男性	50 歳代
展示の順番がわかりにくかったです。	女性	20 歳代

【4 施設・環境】

内容	性別	年齢
ストーリーズ		
徒歩で来たが、道がわかりづらく、ぬかるみが気になった。	女性	20 歳代
エントランスの歩道が草だらけで展示物がかわいそう。	-	70 歳以上
トイレが暗いのが気になります。	男性	40 歳代
忘れられた江戸絵画史の本流		
展示室の中に椅子があまりにも少なく、疲れてゆっくりじっくり見ることができなかった。どんなに素晴らしい展示でも、ゆっくり見ることができないのは素晴らしい展示とは思えません。	女性	60 歳代
今までは中に椅子がありましたが、なくなりました。休む所がなく残念。年をとったので困っています。	女性	70 歳以上
館内スタッフと思われるご婦人と他の女性とが、絵の前で私語で長話。非常に不愉快。監視の女性に注意を依頼したが無視された。通路中央の置き型ケース横の開戸の固定が不具合で触れるたびに騒音、改善すべき。	男性	70 歳以上
古代エジプト展		
通常の声の大きさと話す人が多く、子どもを連れてくるのもやめたらどうかと思うような人も多かった。	女性	40 歳代
来場者の私語が気になる。	女性	50 歳代
座らせてください。ここまで椅子がないと、苦行以外の何ものでもありません。椅子は一つとびに座らせればコロナ対策になります。あり得ない展示です。うんざりでした。	女性	60 歳代
少し寒かった。	女性	13～19 歳
久しぶりにロダン館に入ったが、換気が悪く、ドアが開いてすぐにカビ臭さをマスク越しでも感じたのが残念である。	女性	60 歳代
雨の場合、駐車場からの距離が遠かった。	女性	13～19 歳
バスのアクセスが一時間に 1 本なので、時間ミスがひびく。	女性	40 歳代
順路がわかりづらい。駐輪場からの道が少しわかりづらい。音声ガイドが良かった。	女性	30 歳代
館内が寒く、ゆっくりできなかった。	男性	60 歳代
寒すぎる。音声ガイドのヘッドホンが耳に合わない。	男性	50 歳代
館内の携帯電波状況が非常に悪く、大いに不満である。昔と違ってスマホは通話ではなく情報通信が主になっているので、展示物を観てその場でインターネットで検索したいと思っても、ほとんど圏外か 3G でスマホが使える環境とは程遠いと感じる。改善をお願いしたい。	男性	60 歳代
照明が暗いので、小さな作品の細部の装飾がかなり見づらかった。	男性	60 歳代

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年齢
忘れられた江戸絵画史の本流		
携帯に電話があり、後で折り返すと伝えている途中、監視員がとんできてやめてくださいと注意されました。ルールなのはわかっています。でしたら、普通に会話している二人組にも注意すべきです。また確認しますので徹底してください。	男性	50 歳代
今展覧会は寄贈品の質が悪く、どちらかというと民俗博物館での内容。アンケート内容が貴美術館の改善につながらない。再検討を。	男性	60 歳代
古代エジプト展		
写真撮影の方がウロウロされ、集中して見る事ができません。時間を分けてはいかがでしょう。	女性	50 歳代
WEB での整理券の説明がわかりにくく、結局間違えてしまっていた。	女性	30 歳代
高齢者一組が私語が多く、声も大きく集中できずにイライラして終わった。スタッフが注意してほしい。残念な時間だった。	女性	60 歳代
スタッフの態度が悪すぎて気分が悪かった。気を付けてもらってください。	女性	50 歳代
コロナ対策をうたっているのに人が多すぎる。ひどすぎる。何のための予約か。密でほとんど見られなかった。収まるまで、もう来ません。	男性	50 歳代
現在事前予約制であることを着いてから知った。前日に HP を見たが、わからなかった。	女性	30 歳代
音声ガイド受付時の取扱説明が早口でよくわからない。コロナ対策でシートを通しての説明のため聞き取りにくい。もう少しゆっくり話してほしい。	女性	40 歳代
入場予約のサイトが、用を為していない。実のないことに経費を使わないようにしてほしい。	男性	50 歳代
期待していた程の展示でなくコスパが高く感じた上、スタッフの対応が悪く、後味の悪い美術館訪問だった。	男性	40 歳代

令和3年度 静岡県立美術館評価業務 報告書
令和4年3月

発行 静岡県立美術館
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2
TEL 054-263-5755

委託先 株式会社浜名湖国際頭脳センター
〒432-8003 浜松市中区和地山 3-1-7
浜松イノベーションキューブ2F
TEL 053-416-4000

静岡県立美術館5ヵ年計画《概要版》

～創造的で多様性に富んだ社会の実現～

2022～2026年度(開館40周年)

基本理念

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。

そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的に行います。

その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

実施方針

1 収集 ～コレクションの持続性～

- 作品の収集方法
- ・ コレクションの継続的な調査研究に基づいた、静岡県にゆかりのある作品等の収集
- ・ 収集は、購入、寄贈により行い、財源の継続的な確保、外部資金、等の検討
- 開館40周年記念作品の収集
- ・ 山水・風景画を中心に広く情報を集め、県民に愛される作品を収集

2 保存 ～アーカイブの構築～

- 作品の保管、管理
- ・ 館内外の環境の維持、収蔵庫の改修、拡張を検討
- 作品の修理、修復
- ・ 40周年に向けて計画的な修復
- 情報の保存とアーカイブの構築
- ・ 作品、書籍等のデジタルアーカイブの構築による検索利便性向上、作品情報の検証

3 展示 ～コレクションを核とした企画～

- 企画展
- ・ コレクションを核とした企画の重視、学芸員の自主企画による展覧会の充実
- ・ 過去と現在を踏まえて未来に向かう40周年の記念展の開催に向けた計画的な準備
- 収蔵品展
- ・ 各ジャンルの作品をバランスよく展示、コレクションの新たな楽しみ方のプログラムの実施
- 移動美術展
- ・ 特別版の大規模展示、これまでにない施設での展示など、新たな開催方法の検討

4 教育普及 ～Webコンテンツの拡充～

- 館内での取り組み
- ・ 利用者に合わせたトークイベント、創作活動プログラムの実施
- ・ 学校教育活動の重要な要素となるプログラムの提供、特別支援学校との連携促進
- 館外での取り組み
- ・ 学芸員の知見を活かしたわかりやすいアウトリーチ活動、Web上のコンテンツの拡充

5 調査研究 ～研究成果の公表～

- 調査研究
- ・ 学芸員の調査研究の一層の充実、成果の発表
- ・ 収集、保管、展示、教育普及などに関する専門的な研究の実施、国内外の研究者との交流
- 書庫・図書室
- ・ 図書、作品資料の収集の確保、デジタルアーカイブとの連動による図書データの公開

6 広報 ～戦略的な広報展開～

- 広報体制の充実
- ・ 文化施設の広報についての専門知識やメディアに精通した者を加えるなど広報体制の検討
- 情報発信機能の強化
- ・ 最新の情報をHP、SNS等での発信、デジタルアーカイブの構築・公開等
- 教育機関との連携
- ・ 県内小中高等学校への効果的な情報提供、県内大学と連携した情報提供、情報発信
- 観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携
- ・ 観光デジタルプラットフォームとの連携、多様な文化芸術活動団体との連携

7 環境・施設整備 ～安心安全な鑑賞環境の維持～

- 施設の適切な管理と快適な環境の整備
- ・ 施設の維持保全、改修の速やかな対応
- 来館者の満足度向上
- ・ 来館者や第三者評価委員会からの意見、アンケート分析により速やかに対応
- ・ 館内の通信環境の向上、キャッシュレス決済のデジタル化の促進
- 駐車場、収蔵庫の整備

8 運営 ～運営基盤の強化～

- 運営基盤の拡充
- ・ 継続的な通常予算、国等からの補助金、民間協賛金等外部資金等の確保
- 業務の効率化
- 企業との連携強化による運営の充実
- ・ 企業の研修、顧客セミナーへの学芸員の派遣による美術館への理解

静岡県立美術館5ヵ年計画

～創造的で多様性に富んだ社会の実現～

2022年3月

静岡県立美術館

目 次

I	計画の位置付け	
1	策定の趣旨	1
2	計画期間	1
II	計画策定にあたって	
1	開館から35年	1
2	これからの県立美術館	2
III	基本理念（県立美術館の目指す姿）	3
IV	重点方針	3
V	基本方針（基本理念を具体化する方針）	
1	収集	4
2	保存	5
3	展示	6
4	教育普及	7
5	調査研究	8
6	広報	9
7	環境・施設整備	10
8	運営	11
VI	年度別計画	別紙

I 計画の位置付け

1 策定の趣旨

静岡県立美術館は、1986年（昭和61年）の開館から2021年（令和3年）で35周年を迎えました。この間、美術品の収集と展示を通じて、広く県民に美術作品の鑑賞と創作活動の場を提供してきました。

本計画は、これまでの実績と課題を踏まえ、2026年（令和8年）の開館40周年に向けての運営指針として策定します。

2 計画期間

2022年度（令和4年度）から2026年度（令和8年度）までの5年間を計画期間とします。

II 計画策定にあたって

1 開館から35年

静岡県立美術館は、県議会百年記念事業の一環として建設計画が進められ、1986年（昭和61年）4月に開館しました。静岡県の風土性に鑑み作品収集の基本方針を山水・風景画と定め、現代の美術状況や県ゆかりの作家・作品などにも目配りのうえ、特徴あるコレクション形成に努めてきました。展示活動においては、開館記念展「東西の風景画」を皮切りに、幅広い時代の美術を対象とした多様な展覧会を開催し、これまでに620万人を超える観覧者を迎えています（2020年度末）。また、1994年（平成6年）に新設したロダン館は、ロダンを中心とした近代の西洋彫刻の常設展示スペースとして、風景表現と並び静岡県立美術館を特徴づける重要な柱となっています。

創作と鑑賞をつなぐ多彩な教育普及プログラムも、静岡県立美術館の特色のひとつです。とりわけ近年整備を進めてきた学校向け事業においては、コレクションを元にした様々なプログラムを通して学習を支援し、連携を強化してきました。

今年度、静岡県立美術館は開館35周年を迎えました。収集、保管、公開、教育普及、そしてそれらすべての根幹となる調査研究、これら基盤活動を充実させ、美術館本来の役割を着実に果たすことで静岡県の文化振興に寄与してきましたが、35年を経て、美術館を取り巻く情勢は大きく変化してきており、その対応が急務となっております。

2 これからの県立美術館

現代社会においては、美術の表現ばかりでなく、その発表のスタイルもメディアも多様化しています。美術館は教育から学習の場が変わり、利用者が多様な美術に出会い、考え、理解し合う場となることが求められています。また、急速なデジタル技術の進展は、美術と人間、美術と社会との関係を変え、展覧会を中心としたこれまでの美術館活動に変容を迫っています。

また、2019年末から世界を脅かしている新型コロナウイルスにより、私たちの生活は一変し、美術館においては、感染拡大を受け企画展の来館者の減少、体験を伴う講座の中止など、大きな影響を受けてきました。今後、体験を重視したこれまでの美術館の運営にも大きな見直しが行われている中、当館においては本年度デジタルアーカイブを進め、作品をどこからでも閲覧できるシステムを構築しております。

アフターコロナに向けては、デジタル社会に主体的に関わっていくと同時に、本物と出会い五感で感じるリアルな体験の場として機能してきたことの意義を再確認し、デジタルとリアルの融合を図っていく必要があります。

さらに、SDGsに対応した持続可能な社会の実現に向けて、多様性についての理解につながる展示活動や開かれた質の高い教育機会の提供など、美術館活動を通じた貢献が期待されております。長らく静岡県立美術館が収集方針としてきた山水・風景画について、今日的な視点に基づいてその意義を捉え直し、発信していく必要もあります。

以上のことを踏まえ、時代に左右されない美術館の本質的な意義と、この時代の美術館として果たすべき役割を常に考えながら、持続的に活力ある美術館活動を展開するために本計画を策定しました。

また、新たな基本理念を定め、美術館の目指すところを、より実践的な形で表現することとしました。

人間の営為の記録として受け継がれる、あるいは同じ時代を生きる人によって生み出される美術表現に触れることは、現在から過去を振り返り、同時に過去から現在を照らし出し、未来を見通す手がかりとなります。美術館は、そのような体験を提供することで、人々がそれぞれに創造的に生きるための勇気を得られる場でありたいと考えます。5ヵ年計画の実践を通して、その実現を目指してまいります。

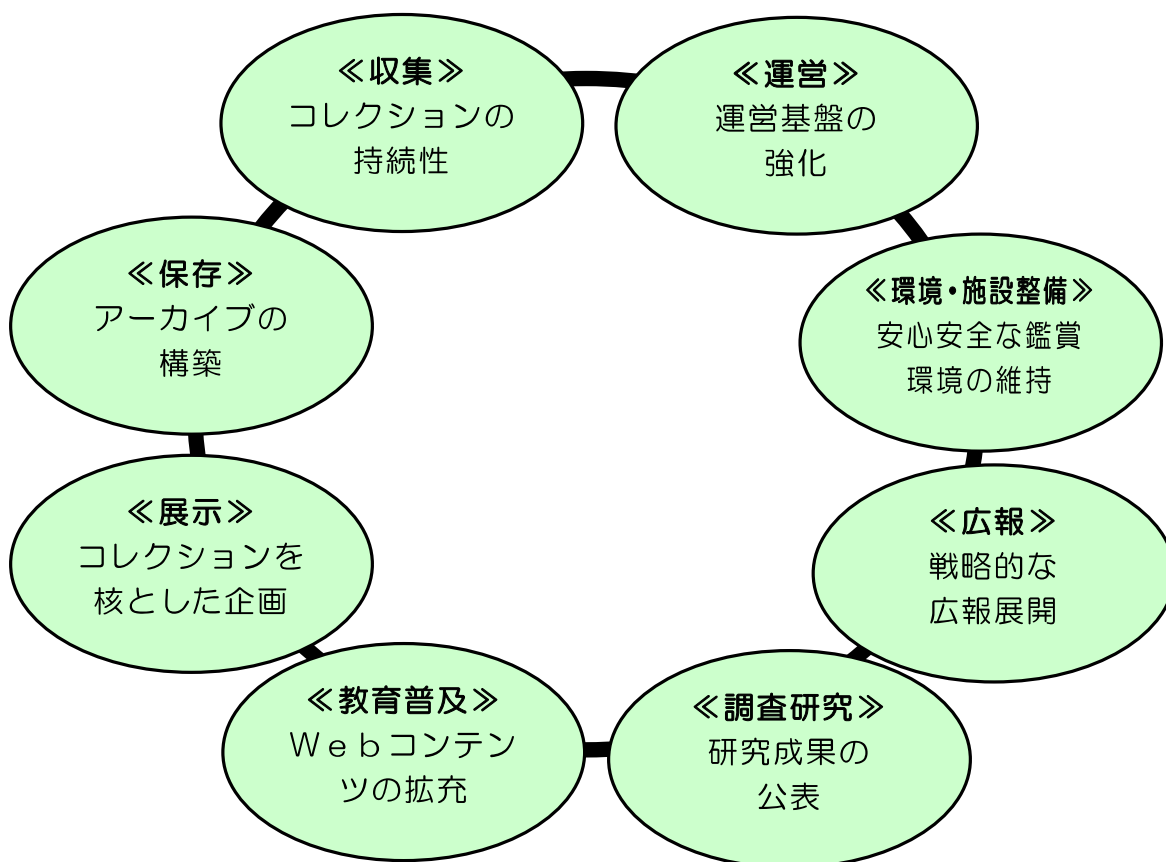
Ⅲ 基本理念（県立美術館の目指す姿）

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。

そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。

その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

Ⅳ 重点方針



V 実施方針（基本理念を具体化する方針）

1 収集

コレクションは美術館活動の基盤であり、作品を持続的に収集することでコレクションを成長させ、未来へ伝えていくことは、現代を生きる美術館の責務であると考えます。収集方針に則り、今後も優れた作品の収集を適正に行い、美術館の核となるコレクションの充実に努めます。

（1）作品の収集方法

コレクションの継続的な調査研究に基づいて、静岡県にゆかりのある作品や、既存のコレクションと関連の深い作品に関する情報を集めます。そのなかから、美術館の活動の幅を広げる作品、新たな価値が見出された作品を収集の対象としていきます。

作品の収集は、購入、寄贈により行い、購入にあたっては財源に留意し、継続的な通常予算の確保に努めるとともに、寄付金等の外部資金や来館者収入に応じた購入経費の確保などについても検討します。

（2）開館 40 周年記念作品の収集

開館 40 周年事業として、記念となる作品の収集を目指します。収集方針を踏まえ、山水・風景画を中心として広く情報を収集し、長く静岡県立美術館の顔として県民の皆様にも愛される作品の収集へと結びつけます。

2 保存

県民の貴重な財産である美術作品・資料を後世に継承するために、作品を適宜修復し、館内外の保存環境を適切に維持し、デジタルアーカイブ化を推進します。

(1) 作品の保管、管理

県民の財産である作品を良好な状態で保存するために、展示室を始めとする館内外の環境を適切に維持します。

収蔵品を適切に管理するため、収蔵庫の改修、拡張を検討します。

(2) 作品の修理、修復

通常の作品修復に加え、修復にあたって複数年を要する収蔵品をリストアップし、40周年に向けて計画的に修復していきます。

(3) 情報の保存とアーカイブの構築

美術館で所蔵する作品・作家資料、書籍等の情報を継続的に収集し、デジタル化して整理します。作品等のデジタルアーカイブの構築により、美術情報の検索利便性を高めるとともに、作品にまつわる情報を不断に検証し、後世へと伝えます。

3 展示

美術館における作品収集や調査研究の成果は、展覧会活動を通して広く開かれ、共有されることで、現代を生きる人々の糧となって社会に息づいていきます。

これまでの展覧会の組み立てや運営方法を踏まえつつ、企画展の開催規模や時期についてより柔軟に対応するなど開催手法を再検討し、魅力的な展示事業につなげていきます。

(1) 企画展

コレクションを核とした企画を重視しつつ、学芸員の自主企画による展覧会の充実を図ります。

40周年記念展の開催に向けて、計画的に準備を進めます。これまでの調査研究や収集・展示活動の成果を御覧いただき、今後の発展につなげる展示、多様性に重きを置いた新しい切り口による展示など、過去と現在を踏まえて未来に向かう、周年にふさわしい展覧会を目指します。

(2) 収蔵品展

各ジャンルの作品をバランスよく御覧いただくとともに、シンポジウムの開催や関連普及イベントの開発など、コレクションの新たな価値や楽しみ方を発見していただくためのプログラムを実施します。

また、2024年（令和6年）に30周年を迎えるロダン館についても、記念事業や県民の財産としての認知を更に深めていただけるような展示を検討していきます。

(3) 移動美術展

今後も県内の美術館や公共施設での開催を継続するとともに、特別版の大規模展示、これまでにないタイプの施設での展示など、新しい開催方法を検討します。

4 教育普及

IoTやAIなどをはじめとする技術革新が進展し、社会や生活が大きく変化し予測困難な時代の中、これまで以上に美術の鑑賞や制作体験を通して感性を働かせる体験は、豊かで柔軟な心を育み、健やかな生活の実現につながります。県立美術館では、美術をより深く理解し、感じていただくため、講演会や美術講座等に加え、創作活動プログラムなどにより、美術の教育普及に積極的に取り組んでいきます。

(1) 館内での取り組み

美術に関する関心や習熟度には幅があることから、利用者に合わせたトークイベントや創作活動プログラム等を実施します。また、来館する学校に対しては、教育活動の重要な要素となるようなプログラムを提供するほか、特別支援学校との連携もさらに進めていきます。

区分	取組内容
一般向け	<ul style="list-style-type: none">・企画展ごとの有識者講演、館長講演・学芸員による美術講座、アーティストトーク、ボランティアによるギャラリートour・ロダン館デッサン会・実技講座、ちょこっと体験・ねんど開放日、えのぐ開放日
学校向け	<ul style="list-style-type: none">・ねんど教室、えのぐ教室、ロダン館ななふしぎ、ロダン館デッサン、美術館裏方ツアー、ボランティアスタッフとの鑑賞・学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れ

(2) 館外での取り組み

学芸員の知見を活かしたわかりやすいアウトリーチ活動を行うとともに、Web上のコンテンツを拡充し、さらに幅広く県民へサービスを提供します。

区分	取組内容
一般向け	<ul style="list-style-type: none">・移動美術展での関連イベント実施・出張講座・Webコンテンツの開発
学校向け	<ul style="list-style-type: none">・粘土、アートカード、作品レプリカなどオリジナル教材キットの貸出・出張美術講座・図工・美術をはじめとした授業への協力・教員研修協力

5 調査研究

調査研究は、県立美術館の活動を特徴付ける基盤と考え、展示や収集、教育普及とも関連することから、引き続き重点的に取組み、その成果については広く公表することで質の向上を図ります。

(1) 調査研究

学芸員の調査研究をより一層充実させ、展覧会、図録、教育普及事業などを通して、その成果を広く発表します。調査研究の基礎を支えるため、毎年の研究紀要の刊行、月1回の研究会の実施を継続し、内容を深めていきます。

また、収蔵作品の内容に関する学術的な調査研究のみならず、収集、保管、展示、教育普及などに関する専門的な研究を実施します。国内外の研究者とも交流するなど、幅広く情報を収集し、研究につなげ、これらの成果を県民に広く提供します。

(2) 書庫・図書室

調査研究の基礎となる図書や作品資料の収集を質、量とともに確保し、デジタルアーカイブと連動し、図書データを公開します。

また、図書室運営については、定期的に司書が図書の管理を行うことを検討するほか、美術館ボランティア等の協力により常時閲覧できる体制を整え、県民の利便性向上を図っていきます。

6 広報

県立美術館に親しみを感じ、新たな価値を見出す快適な場であることを広く県民に周知するため、マスメディアの活用、Webサイトの充実、SNSを活用した情報発信などを進めるとともに、教育機関、観光業界、アーツカウンシルしずおかなど地域との連携を行い、積極的な広報を展開します。

(1) 広報体制の充実

美術館情報を効果的に広報していくため、文化施設の広報について専門的な知識を有しメディア等に精通した者を加え、職員で組織する広報委員会と連携して広報体制を検討し、戦略的な広報を展開します。

(2) 情報発信機能の強化

企画展や収蔵品情報など、常に最新の情報をホームページやSNS等で発信するほか、マスメディアにも積極的に情報発信します。

また、県立美術館デジタルアーカイブを構築し、ホームページで公開し、いつでもどこにいても美術館の作品を楽しめる取り組みを進め、本物を見たいという来館動機につなげていきます。

(3) 教育機関との連携

未来を担う創造性豊かな人材を育成するため、県内すべての小中高等学校に学校教育の中で美術館を活用していただくよう定期的に効果的な情報提供を行います。

また、県内大学においては、学生への情報提供や学生からの情報発信ができるしくみを構築するほか、授業等で学芸員の講義を行うなど連携強化を検討します。

(4) 観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携

地域における文化財の保存・活用を趣旨とした2018年の文化財保護法の一部改正を踏まえ、観光業界と地域等との連携を促進するため、観光デジタルプラットフォームと連携した情報提供やマスメディア等へ撮影誘致を行います。また、アーツカウンシルしずおかが支援する県下の多様な文化芸術活動、美術館周辺地域の団体等と連携を図っていきます。

7 環境・施設整備

開館から35年が経過し、施設の老朽化が進行しています。引き続き施設の適切な維持管理に努め、中期維持保全計画に基づき、施設の改修を行います。

また、美術館園地についても、安心安全な鑑賞環境の維持に努めます。

(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備

館内施設については、日常及び定期点検を実施し、施設の維持保全に努めるとともに、来館者の安全を守るための改修については速やかに対応します。

ロダン館も開館から25年以上が経過しているため、照明の改善など必要な改修を行い、その魅力をより一層高めます。

美術館園地内には、多くの樹木があり、木々に囲まれた県立美術館の景観の一部となっていますが、35年の間に大きく成長したため、枝打ちなどによる適正な管理を行います。

(2) 来館者の満足度向上のための取り組み

来館者や第三者評価委員会等の外部有識者からの御意見、毎年度実施しているアンケート調査の分析により、美術館に対する要望を的確に把握し、可能なところから速やかに対応するよう努めます。

また、館内の通信環境の改善、キャッシュレス決済の導入など、デジタル化に関しては、様々な来館者に配慮しながら取り組んでいきます。

(3) 駐車場、収蔵庫の整備

観覧者の多い企画展開催時の駐車場不足、現代美術の大型化などに伴う収蔵スペースの不足など、活動の拡大に施設が対応できなくなっています。

隣接する県立中央図書館が令和8年度末(予定)に移転することから、跡地の利用について、積極的に関与していきます。

8 運営

当館の使命をより円滑かつ効率的に達成するため、運営基盤の強化を目指します。

(1) 運営基盤の拡充（収入の確保）

作品収集、作品展示、環境維持、イベント開催等当館経営の基盤となる財源として、継続的な通常予算の確保に努めるとともに、国や財団法人からの補助金や民間企業からの協賛金など外部資金の確保や法人会員メンバーシップによる支援等について検討します。

(2) 業務の効率化

業務内容の見直しや事業の費用対効果を検証するなど、業務の効率化や経費の節減に努めます。

(3) 企業との連携強化による運営の充実

美術館は、学芸員の知見を活かし、企業内研修や企業が主催する顧客向けのセミナーの講師として派遣し、企業は美術館の展覧会のチケット購入や寄附を行うことで、企業においては、社員教育や福利厚生の実施、顧客へのサービス向上等、美術館においては、美術館の理解を深め来館者の増加につなげるなど、今まで以上に企業との連携強化を図ります。

VI 年度別計画

別紙のとおり。

なお、年度別計画については、美術館を取り巻く状況の変化に合わせ、適時適切に見直しを行います。

年度別計画

項目	R4(2022)		R5(2023)		R6(2024)		R7(2025)		R8(2026)			
	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4
1 収集	(1) 作品の収集方法 調査研究に基づく継続的な収集											
	(2) 開館40周年記念作品の収集 調査、選定 → 基金を活用し、設定金額の範囲内で収集											
	(1) 作品の保管、管理 展示室を始めとする館内外の環境の維持、改修											
2 保存	(2) 作品の修理、修復 通常の作品修復											
	(3) 情報の保存とアーカイブの構築 修復に複数年を要する作品の計画的な修復											
	R3(2021) アーカイブ公開 所蔵作品、書籍等の美術関係資料のデジタル化・データの更新											
3 展示	兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～ ↑ 絶景を描く ～江戸時代の風景表現～ ↑ 鴻池朋子展(仮) ↑ 近代の誘惑 ～日本画の実践											
	(1) 企画展 コレクションを核とした展覧会、学芸員の自主企画による展覧会を実施 ↑ 40周年記念企画展の準備											
	(2) 収蔵品展 各ジャンルの作品をバランスよく展示 コレクションの新たな価値や楽しみ方への発見に結びつくプログラムの実施 ↑ 40周年記念 企画展 収蔵品展											
(3) 移動美術展 県内美術館、公共施設で開催 (年間1～2回)												

年度別計画

項目	R4(2022)		R5(2023)		R6(2024)		R7(2025)		R8(2026)			
	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四
4 教育普及	<p>(1) 館内での取り組み</p> <p>【一般向け】講演会、美術講座、ボランティアによるギャラリートーク ロダン館デッサン会、実技講座、ねんど・えのぐ開放日 などの実施</p> <p>【学校向け】ねんど・えのぐ教室、ロダン館デッサン、ボランティアスタッフとの鑑賞 学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れ などの実施</p>											
	<p>(2) 館外での取り組み</p> <p>【一般向け】移動美術展での関連イベントの実施、出張講座 などの実施 Webコンテンツの開発</p> <p>【学校向け】オリジナル教材キットの貸出、出張美術講座、図工・美術などの授業への協力 教員研修協力</p>											
5 調査研究	<p>(1) 調査研究</p> <p>展覧会、教育普及事業等を通じた学芸員の調査研究結果の発表</p>											
	<p>(2) 書庫・図書室</p> <p>図書、作品資料の収集 図書データのデジタル化及び公開</p>											
6 広報	<p>(1) 広報体制の充実</p> <p>外部専門家を活用した広報の展開</p>											
	<p>(2) 情報発信機能の強化</p> <p>SNS等で常に最新情報を発信、デジタルアーカイブを活用した情報発信</p>											
	<p>(3) 教育機関との連携</p> <p>県内すべての小中高への美術館情報の定期的な提供 県内大学との連携、学生への情報提供、学生による情報発信を検討</p>											
	<p>(4) 観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携</p> <p>観光デジタルプラットフォームを活用した情報の提供 県下の多様な文化芸術活動、美術館周辺地域の団体等との連携</p>											

年度別計画

項目	R4(2022)		R5(2023)		R6(2024)		R7(2025)		R8(2026)			
	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4
7 環境・施設整備	<p>(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備</p> <p>中期維持保全計画(R3～R7)に基づく施設の改修</p> <p>次期中期維持保全計画策定のための劣化診断</p> <p>次期中期維持保全計画策定</p> <p>次期計画(5年)に基づく改修</p> <p>施設の修繕、美術館園地の整備</p>											
	<p>(2) 来館者の満足度向上のための取り組み</p> <p>館内の通信状況の改善</p> <p>キャッシュレス決済の導入</p> <p>来館者の意見等に対する対応</p>											
	<p>(3) 駐車場、収蔵庫の整備</p> <p>駐車場、収蔵庫整備の検討</p> <p>Ⓒ 県立中央図書館移転(予定)</p>											
8 運営	<p>(1) 運営基盤の拡充</p> <p>収入確保の取組(外部資金の確保、法人メンバーシップ)</p>											
	<p>(2) 業務の効率化</p> <p>事業の効率化及び経費削減の取組</p>											
	<p>(3) 企業との連携強化による運営の充実</p> <p>事業実施(企業等への学芸員の派遣)</p> <p>実施内容の検討</p>											